

(平成 29 年 6 月実施)

第 4 4 回

市民アンケート調査報告書

—— あなたと市政を結ぶ ——



目 次

I 調査概要

1	調査目的	1
2	調査事項	1
3	調査実施概要	1
4	回収状況	1
5	報告書内のデータ記述について	1
6	回答者の属性	2

II 調査結果

1	あなたご存じですか？	4
2	浜松市歌について	16
3	地区社会福祉協議会の活動と地域福祉の推進について	20
4	スポーツの推進について	24
5	協働によるまちづくりについて	28
6	子育て支援について	40
7	市民の地震への備えについて	46
8	地域情報化について	58
9	人口減少社会に打ち勝つために	62
10	浜松市戦略計画 2017 について	68

付録 調査票

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、昭和 45 年度から始まり、48 年、50 年度と行った後、52 年度以降は毎年実施し、本年度で 44 回目になる。社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心やニーズなどを把握するため、毎年各部署から提出された希望調査項目を精査した後、調査項目を決定し、属性などにより集計した調査結果を詳細に分析し、今後の施策の方向性や事業展開など行政のさまざまな施策の基礎資料として活用しているものである。

2 調査事項

- あなたはご存じですか？
- 浜松市歌について
- 地区社会福祉協議会の活動と地域福祉の推進について
- スポーツの推進について
- 協働によるまちづくりについて
- 子育て支援について
- 市民の地震への備えについて
- 地域情報化について
- 人口減少社会に打ち勝つために
- 浜松市戦略計画 2017 について

3 調査実施概要

- (1) 調査地域 浜松市全域
- (2) 調査対象 満 18 歳以上の男女 3,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送法
- (5) 調査期間 平成 29 年 6 月 10 日～30 日
- (6) 調査機関 特定非営利活動法人 静岡県西部地域しんきん経済研究所

4 回収状況

発送数	有効回収数	有効回収率
3,000 件	1,508 件	50.3%

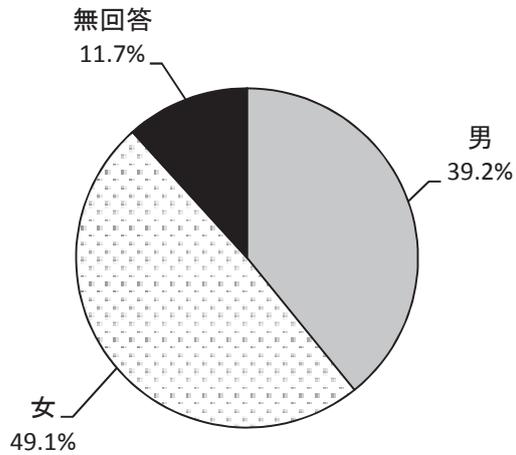
5 報告書内のデータ記述について

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が 100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「N」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。
- (5) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。

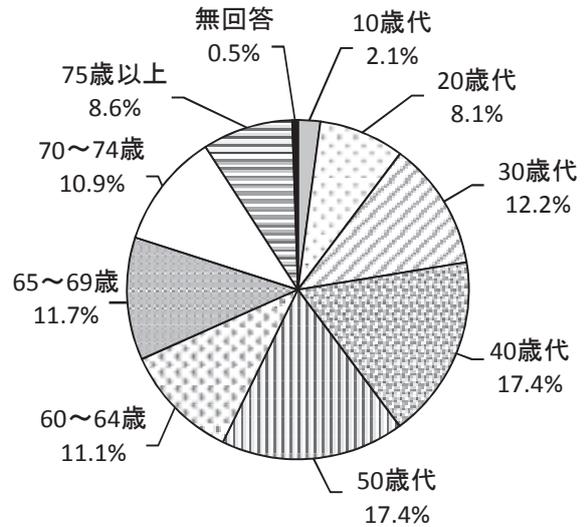
6 回答者の属性

N=1,508

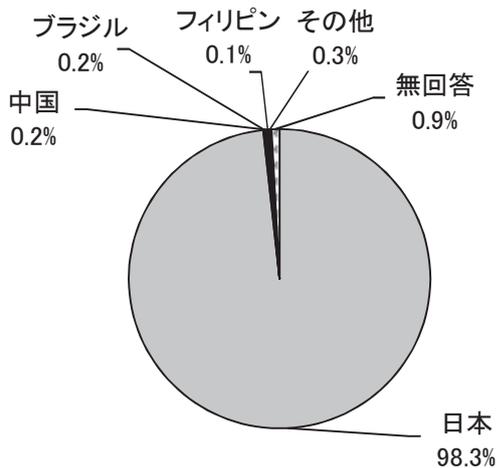
(1) 性別



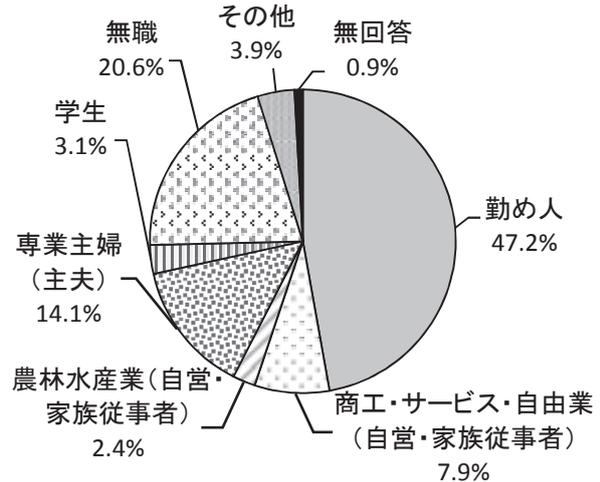
(2) 年齢



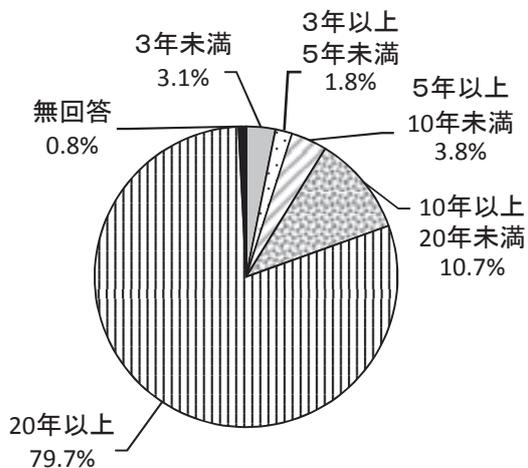
(3) 国籍



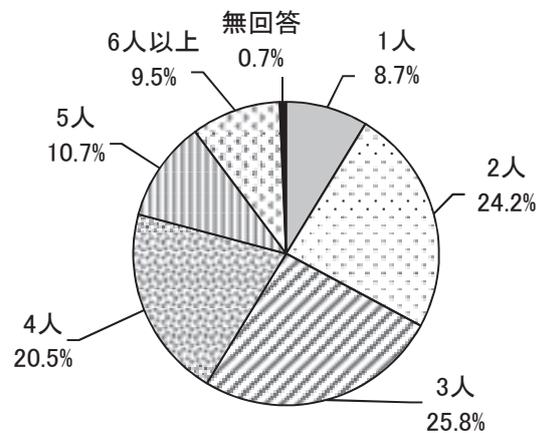
(4) 職業



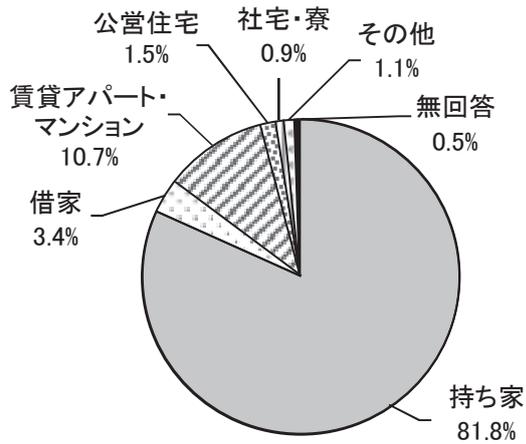
(5) 居住年数



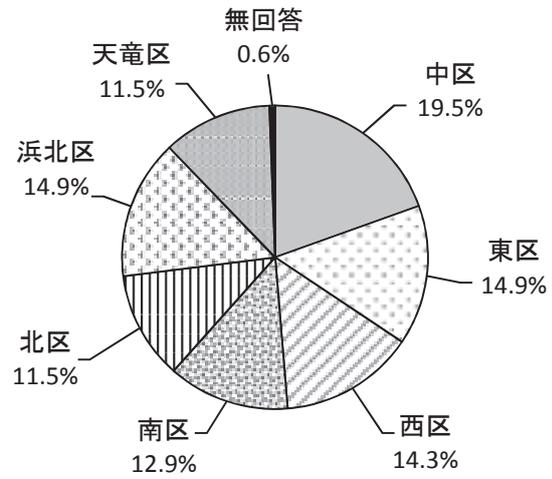
(6) 家族数



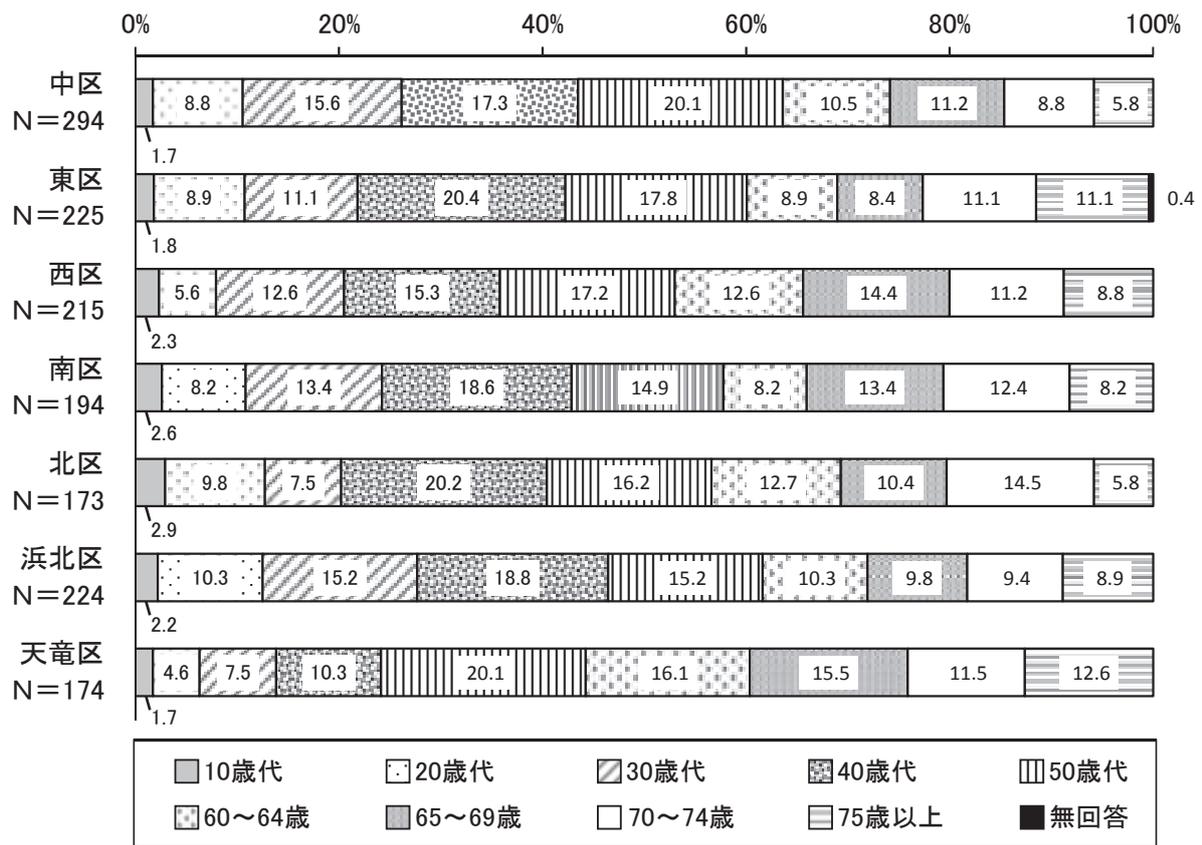
(7) 居住形態



(8) 行政区



(9) 行政区別年齢



II 調查結果

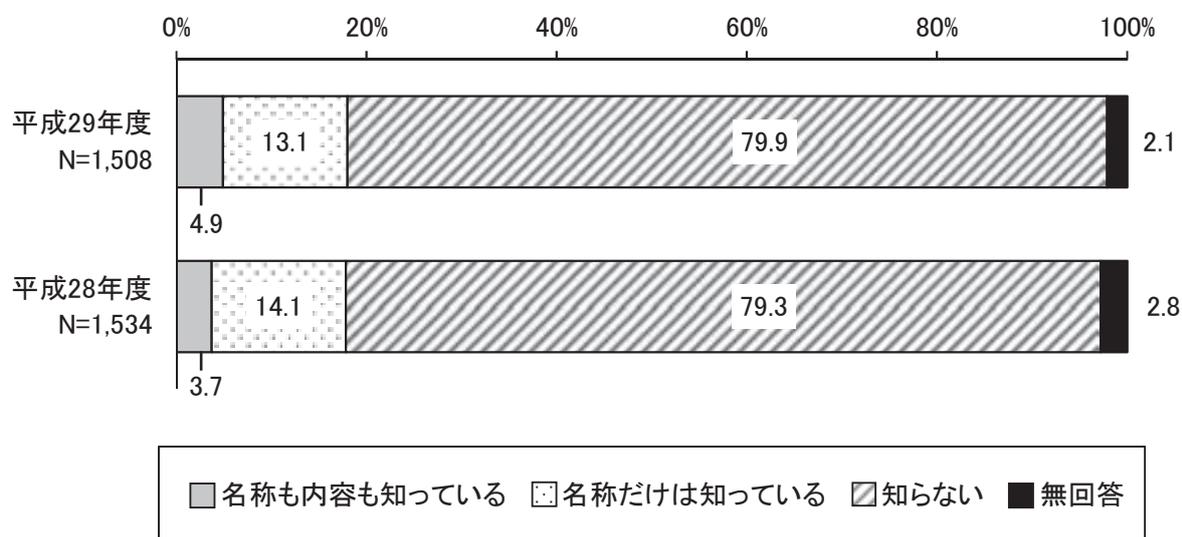
1 あなたはご存じですか？

問1 次の項目について、あなたをご存じですか。

① F S C森林認証

※森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。浜松市は市町村別では全国最大のF S C認証林面積を保有しています。

「F S C森林認証」の認知度は18.0%



「名称も内容も知っている」は4.9%にとどまった。「名称だけは知っている」(13.1%)を合わせた『認知度』も18.0%と低く、「知らない」の79.9%を61.9ポイント下回った。

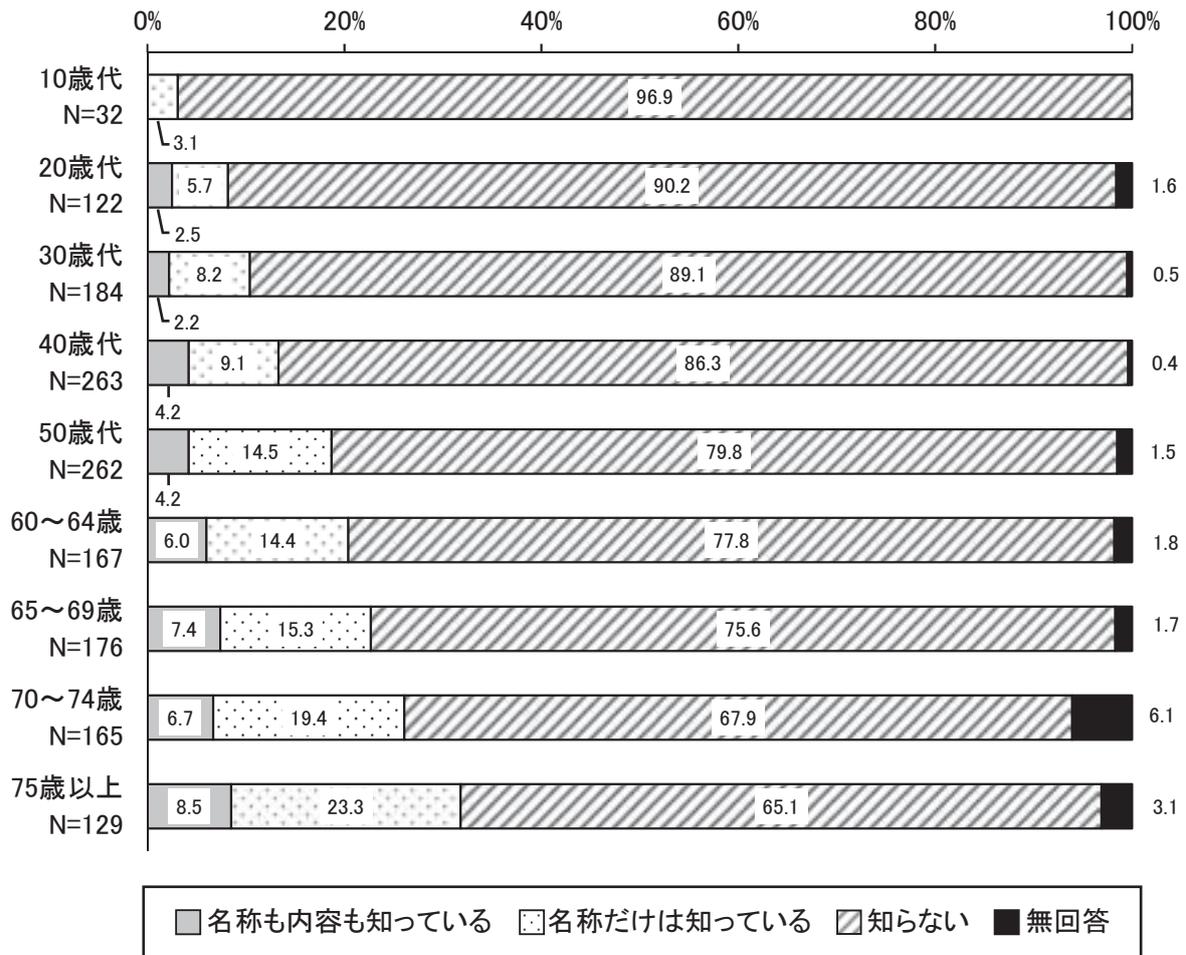
平成28年度調査と比較すると、概ね同様の結果となり認知度は向上していない。

年齢別でみると、年齢が高まるに伴い『認知度』も高まる傾向がみられた。10歳代の『認知度』は3.1%にとどまる一方、75歳以上の『認知度』は31.8%と高かった。特に『認知度』が低かった10歳代から40歳代をターゲットに認知度向上に努める必要がある。

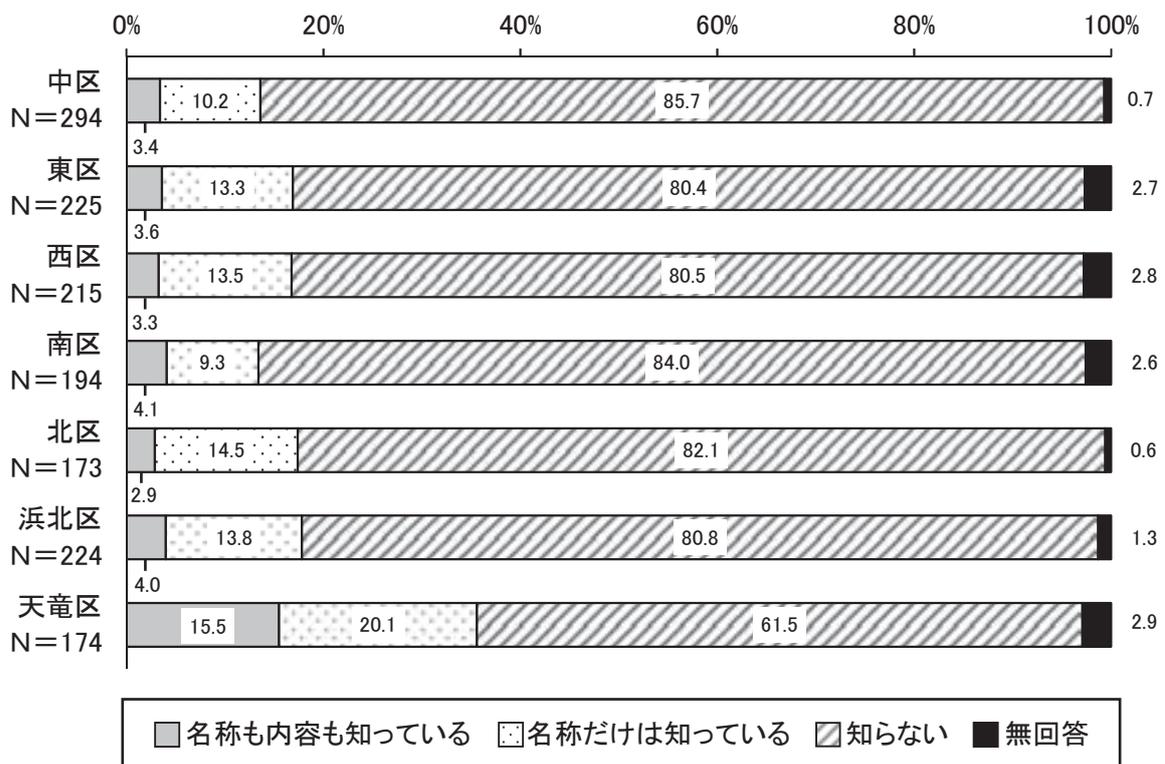
行政区別でみると、F S C認証林を最も多く抱える天竜区は『認知度』が35.6%と突出して高かったが、他の区の『認知度』は20%未満と低かった。

今までは、事業者を中心にF S C森林認証制度の周知やF S C認証材の利用促進活動を行ってきたが、今後は、市民にもF S C森林認証制度の理解が深まり、F S C認証材の利用が進むよう啓発活動を行っていく。

【年齢別】



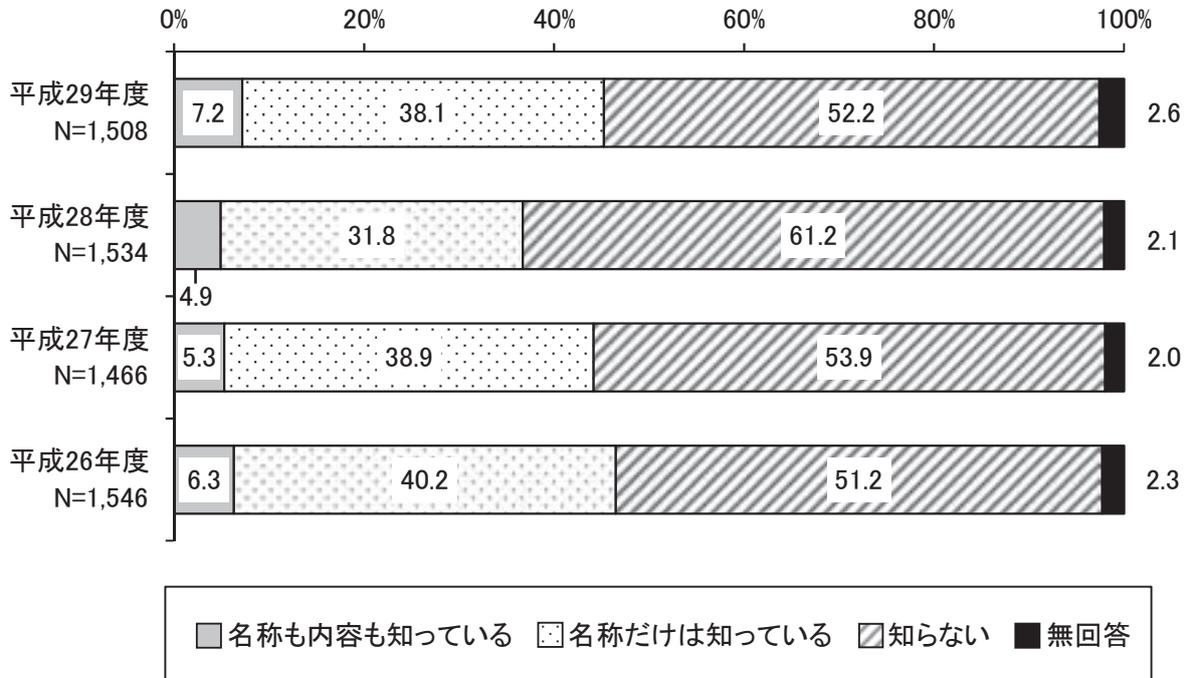
【行政区別】



② 浜松市子ども育成条例

※未来を担う子どもを社会全体で健全に育成し、支えていくための基本理念や、市、保護者、学校等、事業主、子ども育成団体及び市民の役割を明らかにするとともに、市の基本的施策を定めた条例。

「浜松市子ども育成条例」の認知度は 45.3%

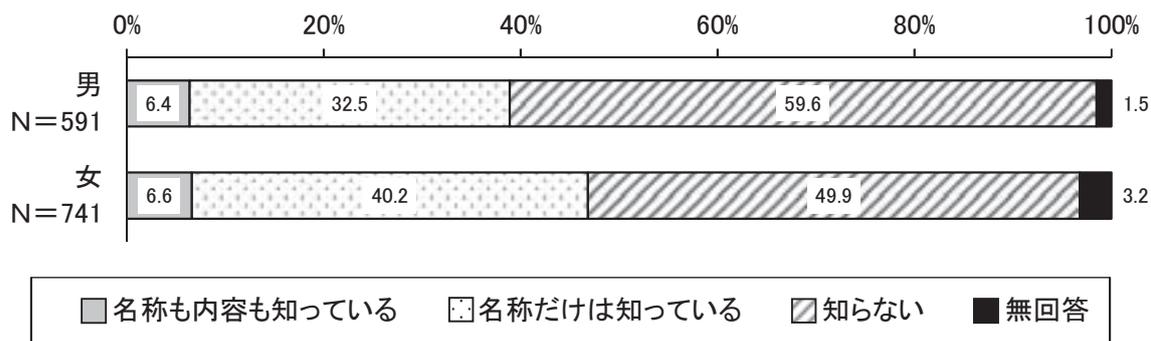


「名称も内容も知っている」は 7.2%にとどまったが、「名称だけは知っている」(38.1%)を合わせた『認知度』は 45.3%となった。平成 26 年度調査から平成 28 年度調査にかけて、『認知度』は年々低下していたが、今回は『認知度』が前年度調査から 8.6 ポイント増加した。お出掛け講座を中心とする地道な条例の普及啓発活動等により、少しずつ条例の認知度が高くなってきたと思われる。

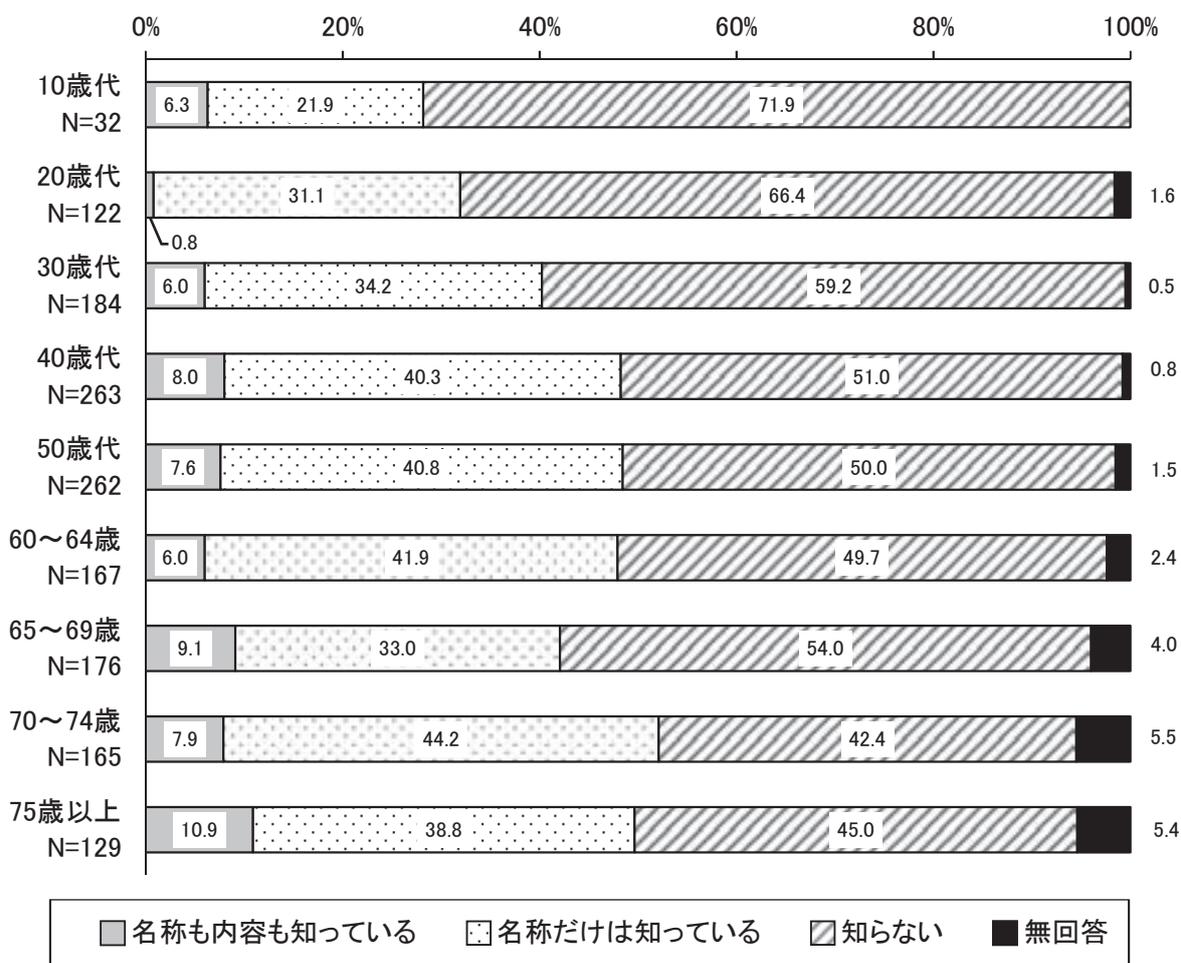
『認知度』を性別で見ると、男性が 38.9%、女性が 46.8%となっており、女性の方が 7.9 ポイント高かった。

『認知度』を年齢別で見ると、10 歳代が 28.2%、20 歳代が 31.9%と子育て前や子育て初期の世代の『認知度』が低い結果となった。概ね年齢が高くなるにつれ『認知度』は高くなる傾向がみられた。

【性別】



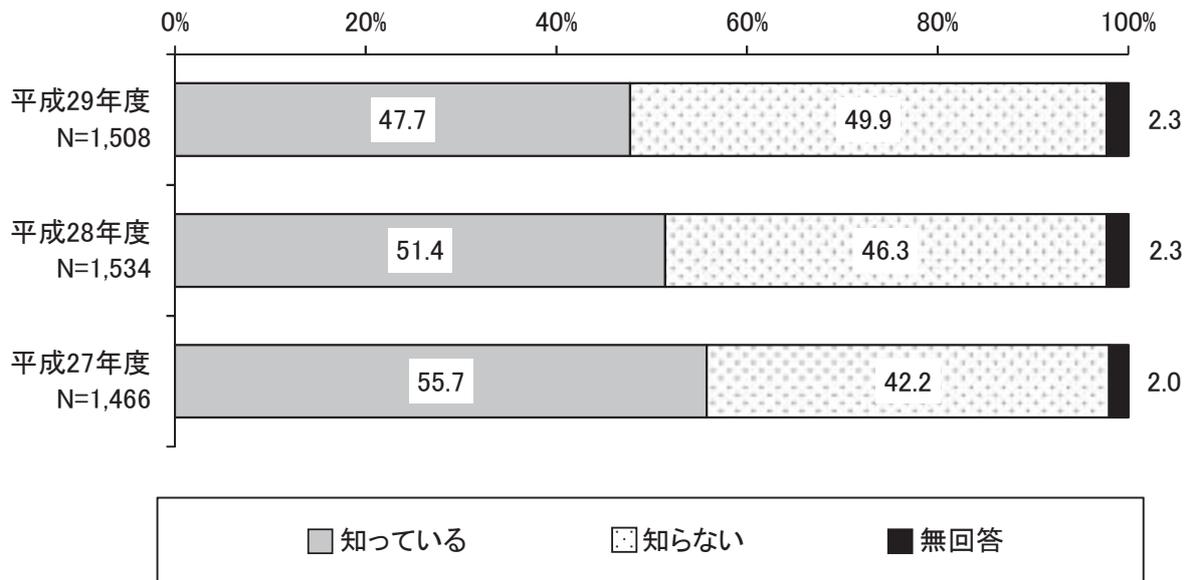
【年齢別】



③ 市制記念日

※浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。

「市制記念日」を知っている人は 47.7%



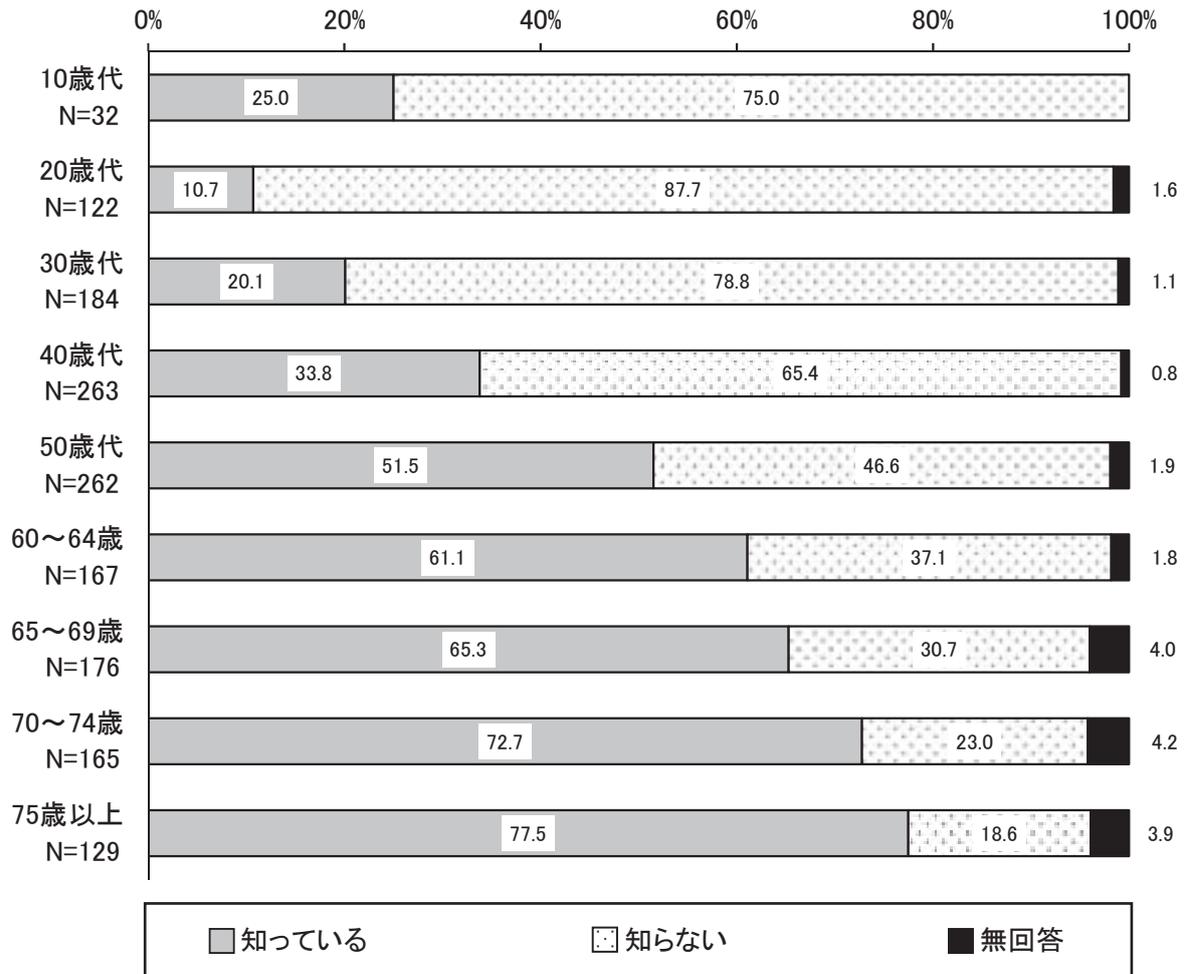
「知っている」が47.7%となり、「知らない」の49.9%を2.2ポイント下回った。平成27年度調査、平成28年度調査と比較すると、「知っている」の割合は年々低下、平成29年度調査で初めて50%を割り込んだ。

年齢別でみると、年齢が高い人ほど認知度が高い傾向がみられ、75歳以上は77.5%と高かった。一方、10歳代から30歳代は「知っている」が3割以下と低い結果となった。特に、20歳代は、「知っている」が10.7%と低かった。

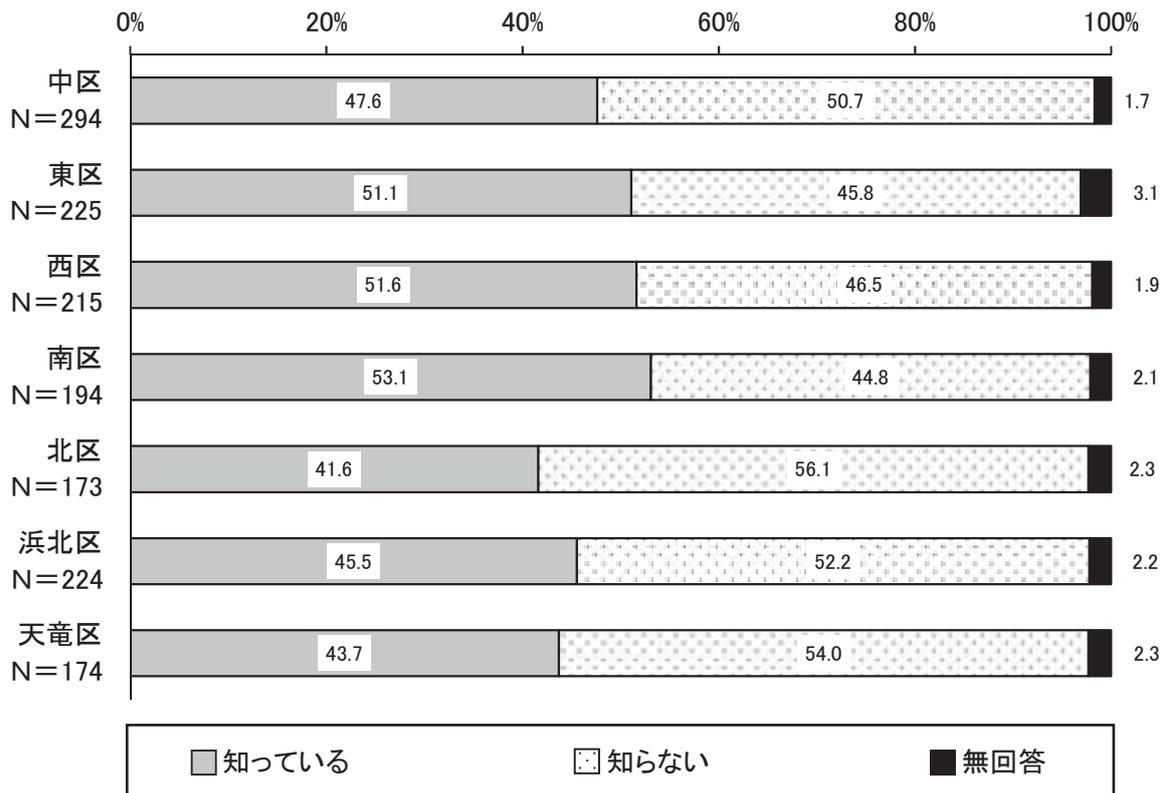
行政区別でみると、北区では「知っている」が41.6%、天竜区では43.7%と他の行政区に比べると認知度はやや低いものの、この2つの行政区については平成28年度の調査より「知っている」が増加しており、行政区間の認知度の差は徐々に小さくなってきている。

今回の調査結果から、若年層の認知度向上が必要であると考えられる。学校教育の場を通じて、子供の頃から市制記念日について知る機会を増やしたり、また、毎年開催している市制記念式典についても、若年層に興味・関心を持ってもらえるよう内容を検討したりするなどの取り組みが必要である。

【年齢別】



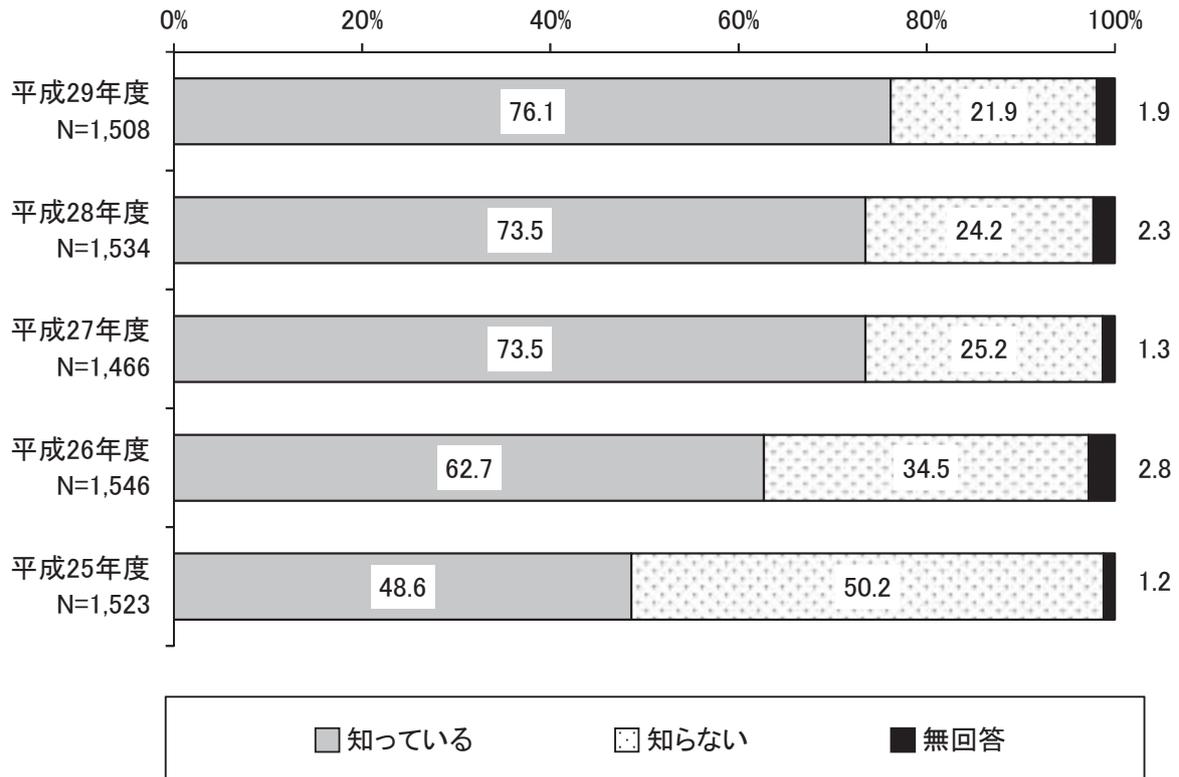
【行政区別】



④ 協働センター

※平成24年4月から地域自治センターが、平成25年4月から公民館が、それぞれ「協働センター」となりました。
※協働センターは、市民に身近な行政サービス提供組織として、地域づくりや生涯学習、窓口サービスなどの業務を行っています。

「協働センター」を知っている人は76.1%

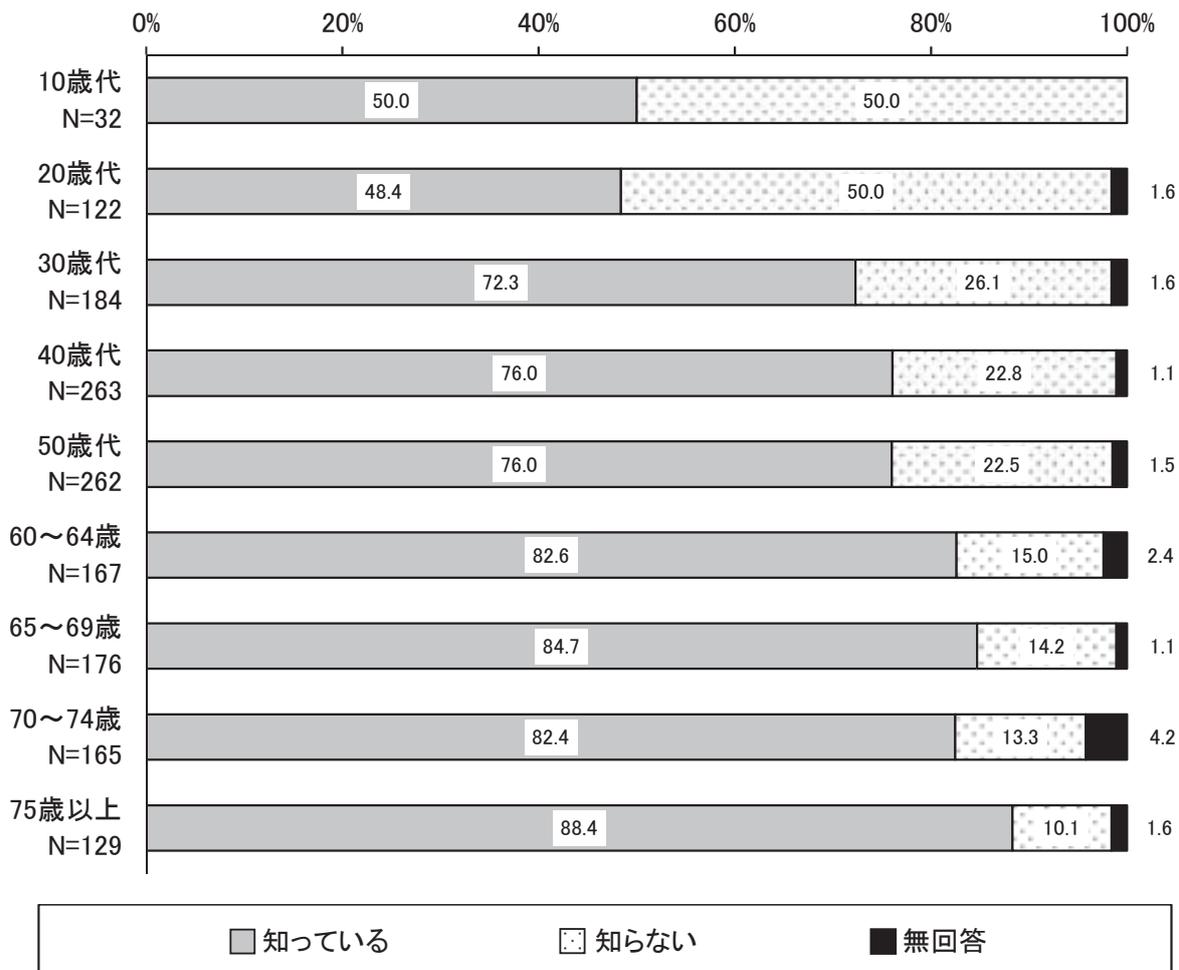


「知っている」が76.1%であり、「知らない」の21.9%を54.2ポイント上回った。協働センター発足直後の平成25年度調査では「知っている」が48.6%と50%を割りこんでいたが、徐々に市民に浸透してきている。

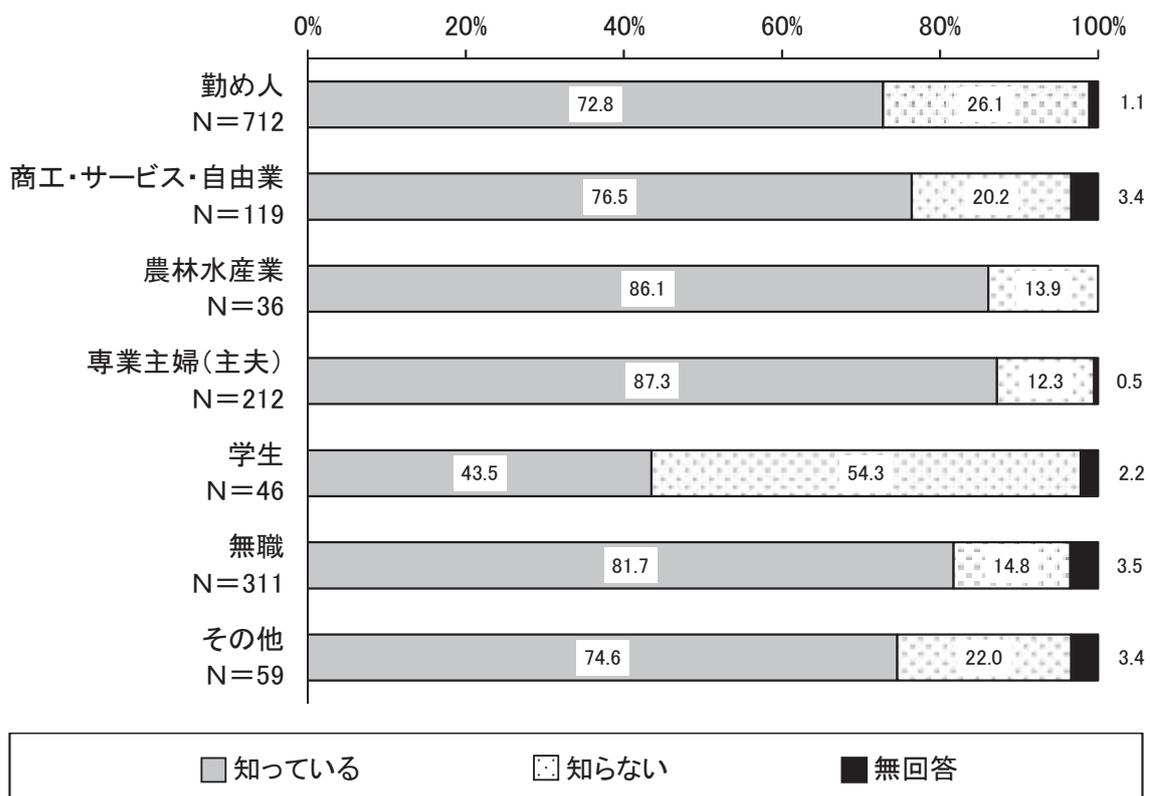
年齢別でみると、年齢が高くなるほど認知度も高くなる傾向がみられた。10歳代、20歳代は「知らない」が50%を占めた。

職業別でみると、専業主婦や農林水産業などの認知度は80%を超える反面、学生の認知度が突出して低く、「知っている」が50%を下回っていることから、各世代のニーズに合った事業展開を図る中で、とりわけ学生年代に焦点を当てた広報活動を実施し、協働センターの認知度の向上と利用促進に努めていくことが重要と言える。

【年齢別】



【職業別】



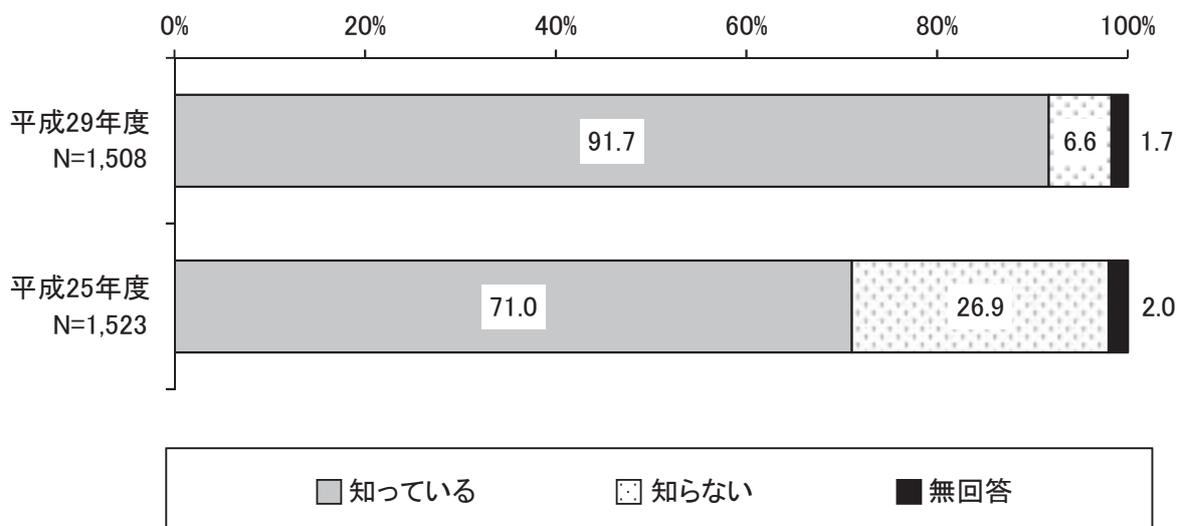
⑤ 出世の街・浜松

※浜松城は、徳川家康が築城し、歴代城主の多くが幕府の重役に登用されたため、「出世城」と呼ばれています。

※浜松市は、徳川四天王として活躍した井伊直政を後見した直虎が過ごした地です。また、近代において、スズキ、ホンダ、ヤマハ、カワイなどの世界的なものづくり企業が創出されています。

※このことから、市を国内外に売り込む推進テーマとして『出世の街・浜松』を掲げています。

「出世の街・浜松」の認知度は91.7%

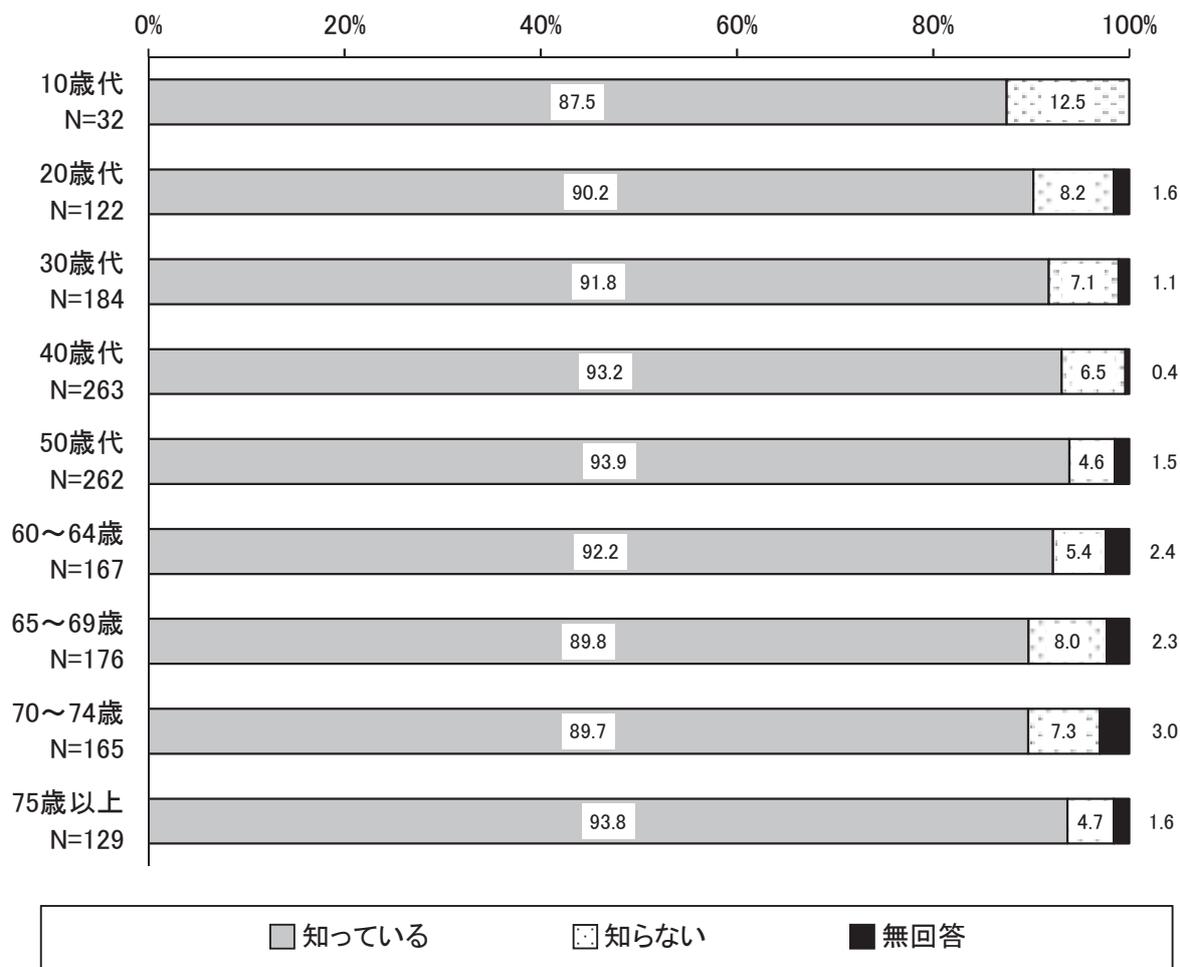


「知っている」が91.7%と、「知らない」の6.6%を85.1ポイント上回った。平成25年度調査と比較すると、「知っている」の割合は71.0%から91.7%と20.7ポイント増加した。全国的な知名度を持つ「出世大家康くん」と大河ドラマ放送で注目を集める「出世法師直虎ちゃん」を活用した積極的な情報発信などの成果が出てきている。

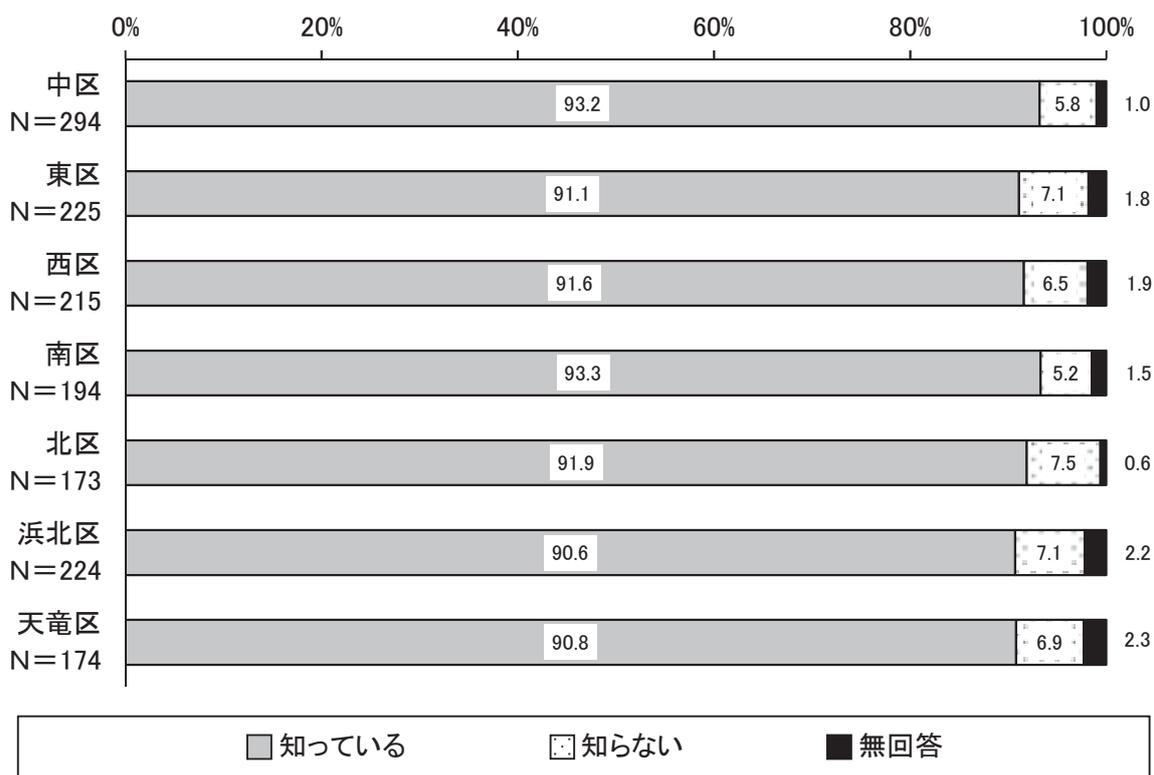
年齢別でみると、「知っている」の割合が最も低かった10歳代でも回答割合は87.5%と高く、全ての年代において高い認知度となっている。

行政区別でも、全ての区で「知っている」の割合が9割を超えている。今後もPR活動を継続し、高い認知度を維持していく必要がある。

【年齢別】



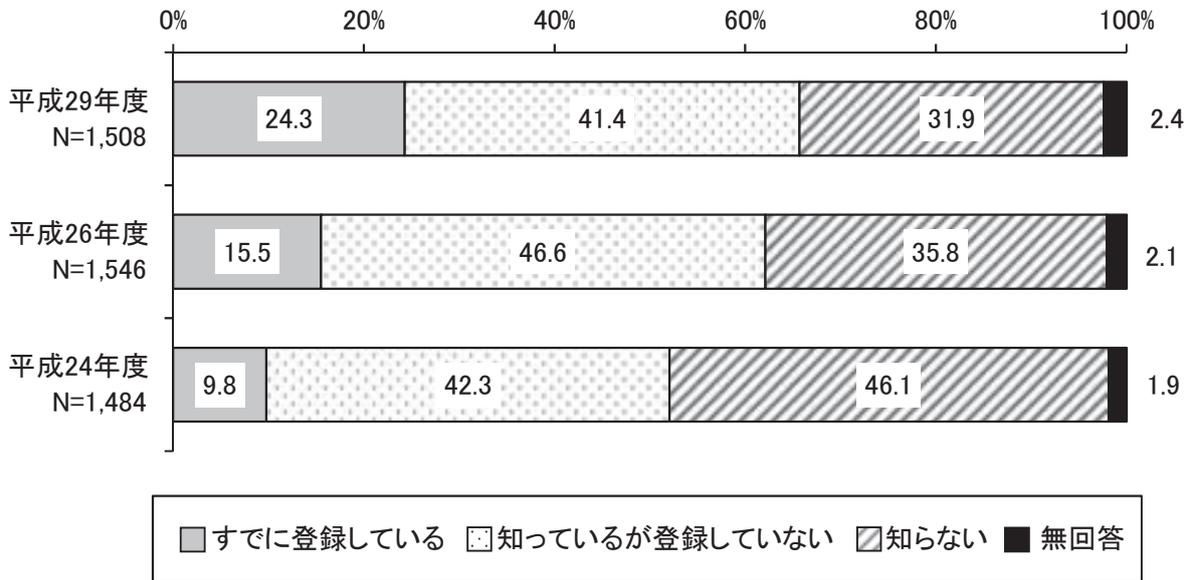
【行政区別】



⑥ 防災ホットメール

※災害発生時の緊急情報、地震情報、気象情報、火災情報などを携帯電話などに電子メールで配信しています。

「防災ホットメール」を登録している人は24.3%



「すでに登録している」は24.3%、「すでに登録している（24.3%）」と「知っているが登録していない（41.4%）」を合わせた『認知度』は65.7%となった。

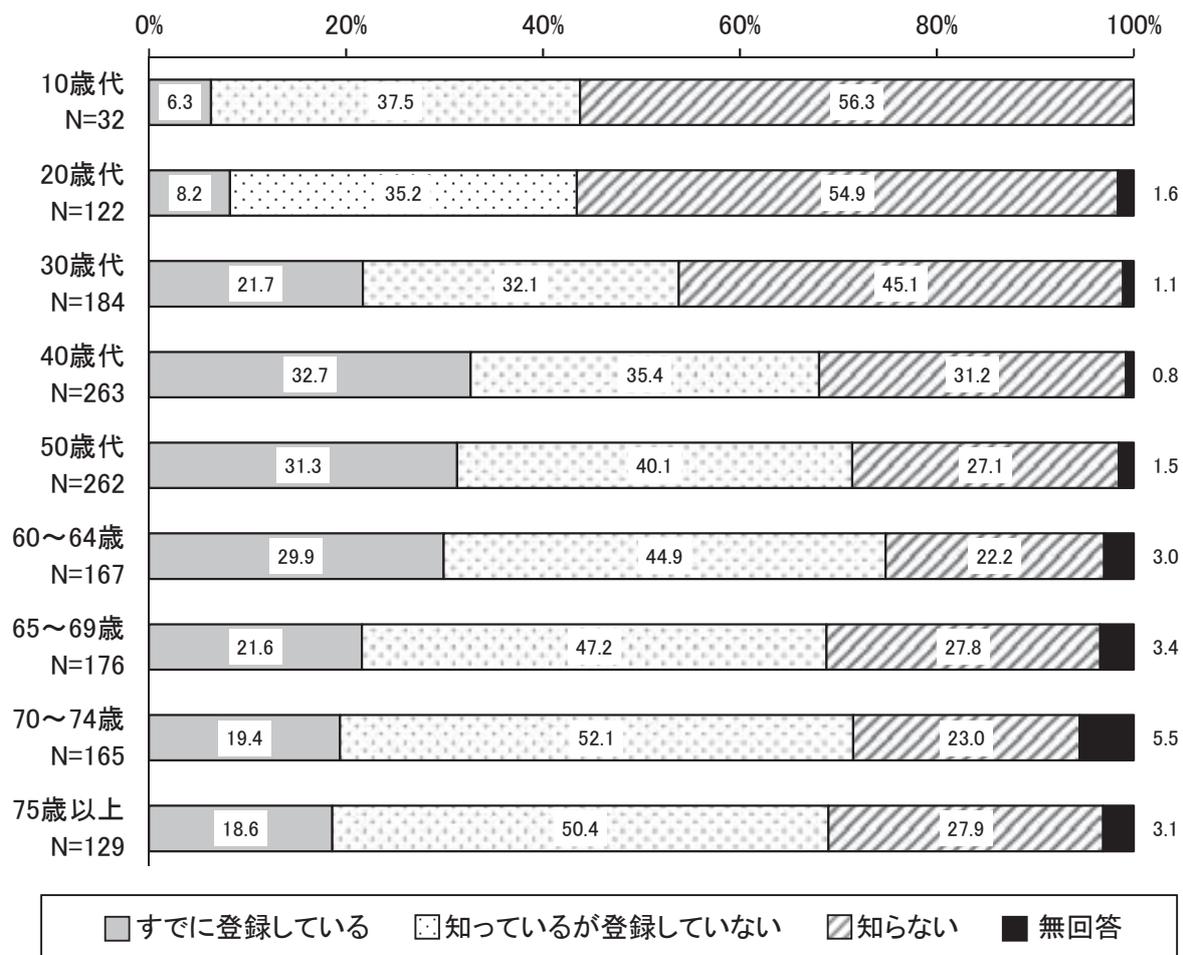
過去の調査と比較すると、「すでに登録している」『認知度』とも調査を行うごとに回答割合は増加しており、市民への浸透が進んできている。

年齢別で40歳代以上は『認知度』が70%程度と高く、20歳代以下では、50%以下と低い結果となった。今後は、30歳代以下の世代に対し、どのようなアプローチが効果的なのか、様々な方面で実施している広報活動を調査・検討する必要がある。

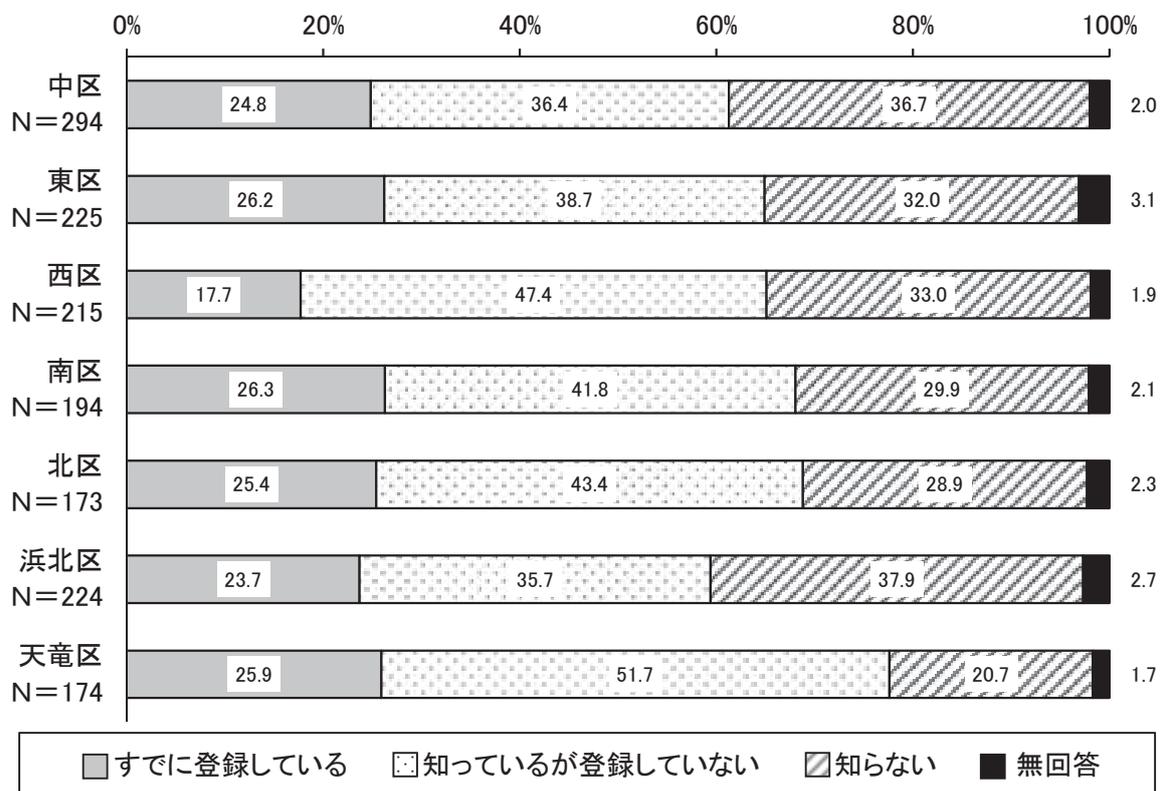
「知っているが登録していない」は年齢層が高まるに伴い、回答割合も高くなる傾向がみられた。今後は、年齢の高い世代に対し、登録方法を詳しく広報していく必要がある。

行政区別でみると、『認知度』は天竜区が最も高く、浜北区が最も低かった。

【年齢別】



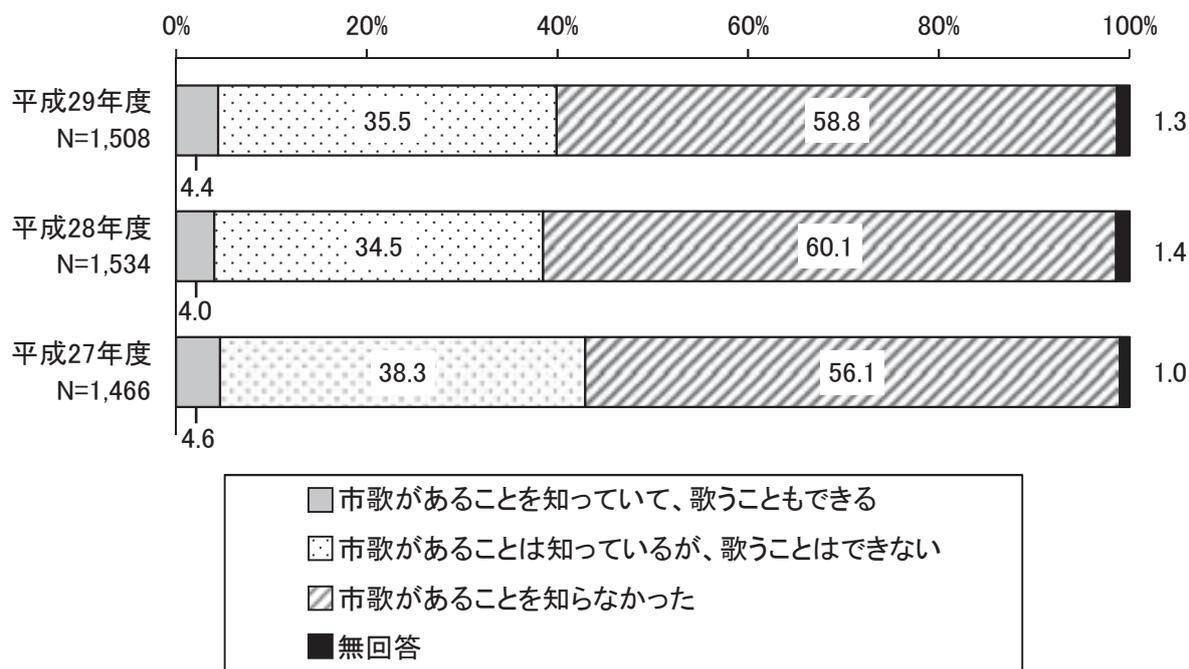
【行政区別】



2 浜松市歌について

問2 浜松市では、平成19年、新たに浜松市歌を制定しました。あなたは市歌をご存じですか。また、歌うことができますか。(1つだけ○を付けてください)

「浜松市歌」を知っている人は39.9%



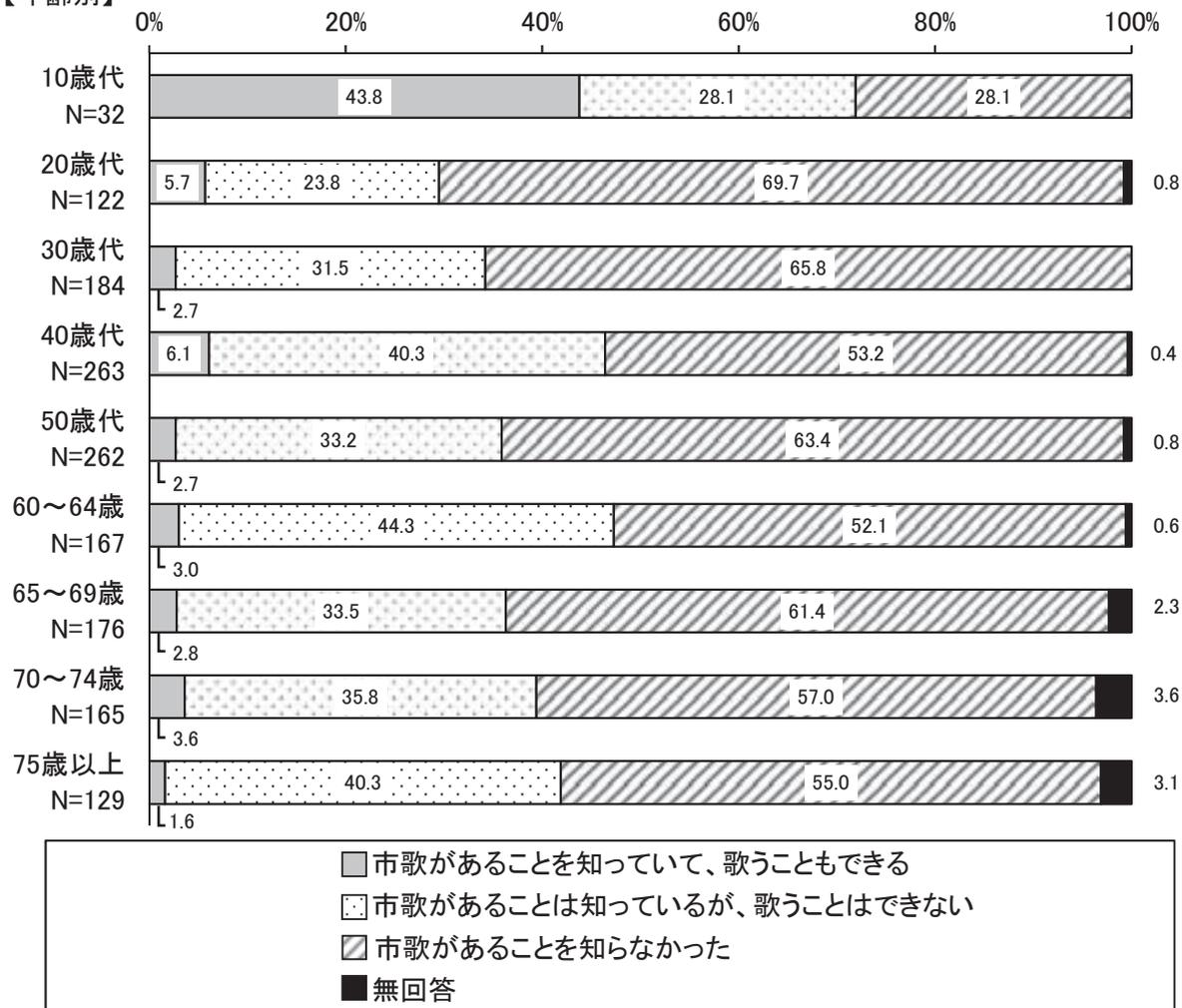
「知っていて、歌うこともできる」は4.4%にとどまったが、「知っているが、歌うことはできない」の35.5%を合わせると39.9%が『知っている』と回答した。「知らなかった」は58.8%となり『知っている』を18.9ポイント上回った。

年齢別でみると、10歳代は「知っていて、歌うこともできる」が43.8%、『知っている』が71.9%と、他の年齢層と比較して突出して高かった。他の年齢層については、『知っている』は5割に満たないものの、40歳代は46.4%、60～64歳47.3%、75歳以上は41.9%と4割以上が『知っている』と回答している。

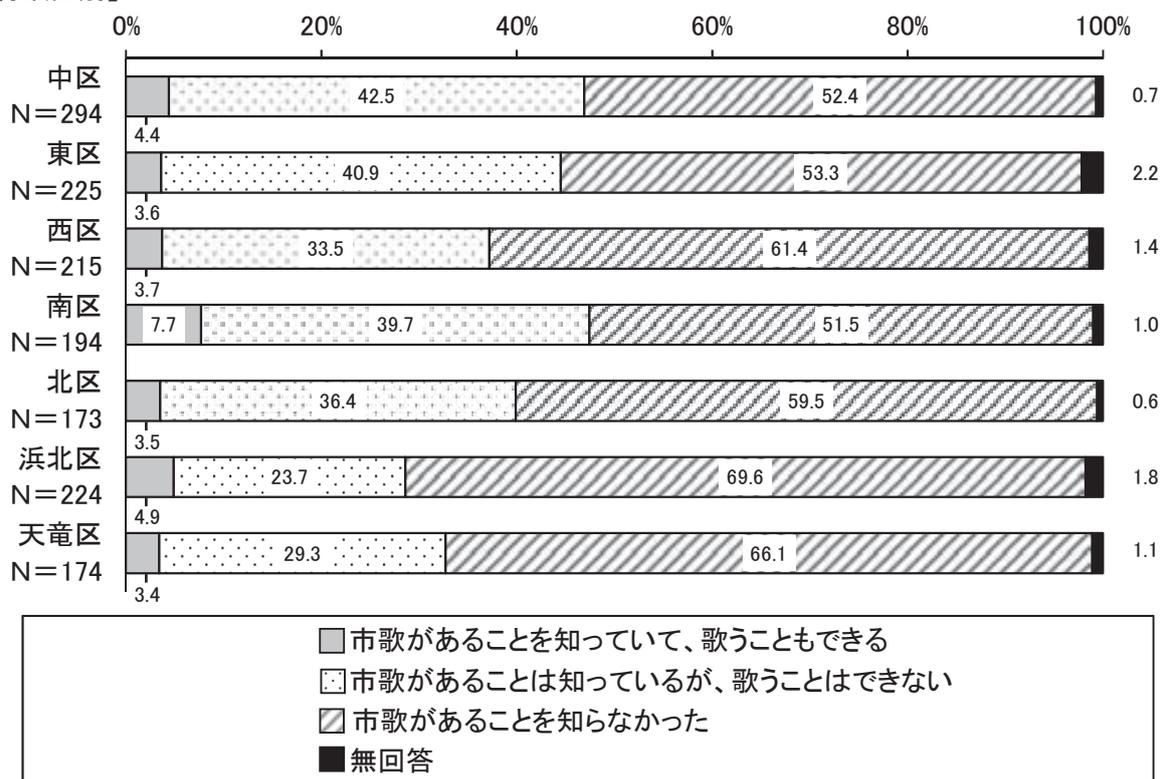
行政区別でみると、『知っている』の割合が最も低いのは浜北区の28.6%、次いで天竜区の32.7%となった。浜松市歌は合併後の平成19年に制定されているが、旧浜松市以外の区への浸透不足が目立った。

平成28年度調査と比較すると、「知っていて、歌うこともできる」は0.4ポイント増加、『知っている』は1.4ポイント増加した。今後、学校行事等で浜松市歌を歌った世代が増えてくるため、『知っている』の割合も徐々に高まるものと思われる。

【年齢別】

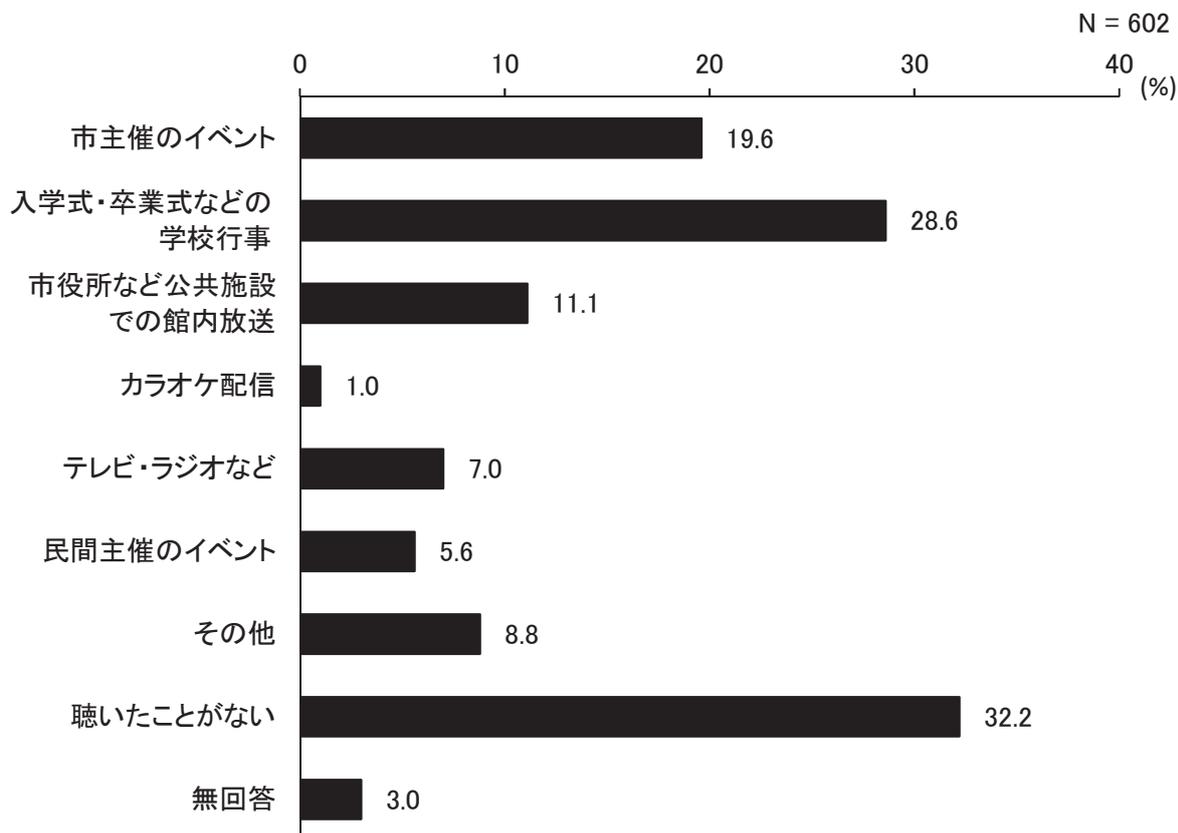


【行政区別】



問3 問2で「1. 市歌があることを知っていて、歌うこともできる」「2. 市歌があることは知っているが、歌うことはできない」とお答えされた方に伺います。市歌をどこかで聞いたことがありますか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

学校行事を通じての浸透が有効



「聞いたことがない」が32.2%で最も高かった。「聞いたことがない」を除けば、「入学式・卒業式などの学校行事(子供などが参加している行事を含む)」(28.6%)が最も高く、次いで「市主催のイベント」(19.6%)の順に高かった。平成27年から始めた「カラオケ配信」は1.0%と低かった。「その他」(8.8%)の記述欄をみると、10歳代から20歳代は「小学校の授業」「部活動の演奏会」、30歳代から50歳代は「子供が歌っていた」、60歳以上は「孫が歌っていた」「コーラスサークルで歌った」「ボランティアの人が歌っている」といったコメントが目立った。

性別で見ると、男性は「聞いたことがない」、女性は「入学式・卒業式などの学校行事」の割合が相対的に高かった。

年齢別で見ると、10歳代から40歳代では「入学式・卒業式などの学校行事」の割合が高く、特に10歳代は「入学式・卒業式などの学校行事」の割合が56.5%と高かった。

今回の調査結果から、学校教育の場を通じて子供の頃から市歌を知る機会を増やし、さらには子供からその親や祖父母世代に市歌を浸透させていくことが有効であると考えられるため、引き続き教育委員会、学校と協力して認知度向上に努めていきたい。

【性別】

	市主催のイベント	学校行事 入学式・卒業式などの	市役所など公共施設 での館内放送	カラオケ配信	テレビ・ラジオなど	民間主催のイベント	その他	聞いたことがない	無回答
男 N=213	18.8	26.3	13.6	1.4	9.9	4.2	7.5	36.2	1.4
女 N=317	19.9	29.7	10.4	0.6	5.0	6.3	10.4	28.4	3.5

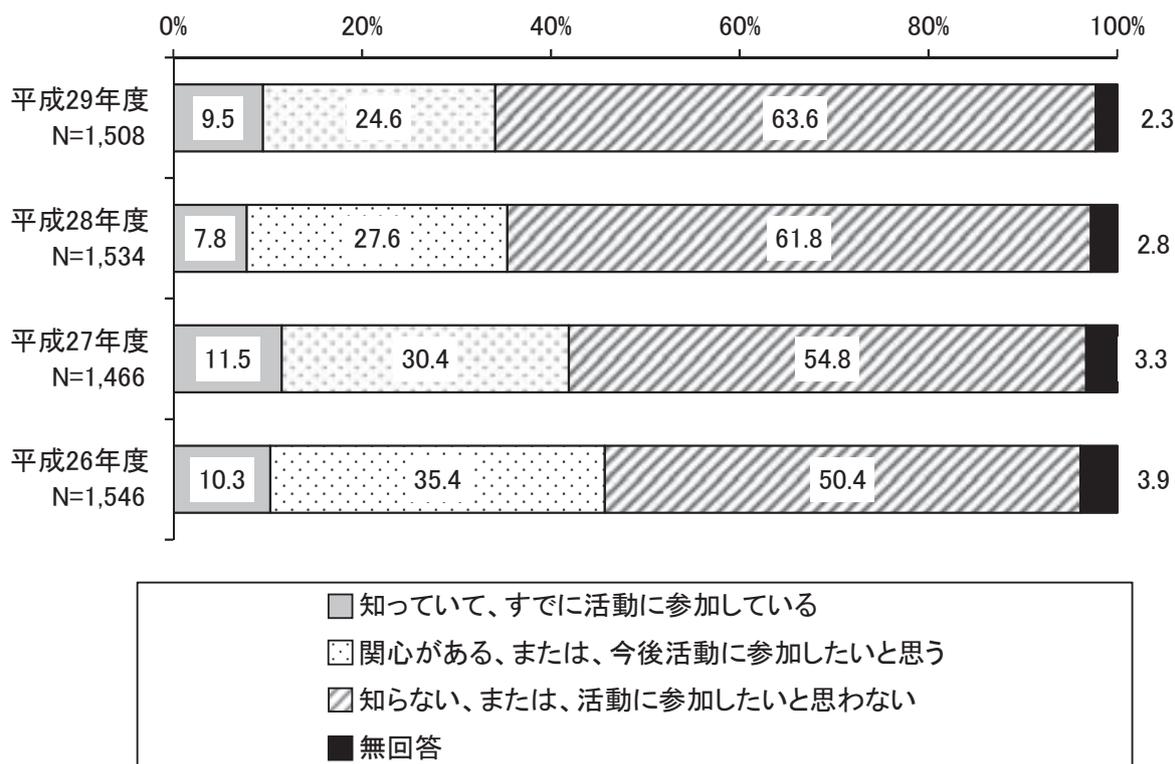
【年齢別】

	市主催のイベント	学校行事 入学式・卒業式などの	市役所など公共施設 での館内放送	カラオケ配信	テレビ・ラジオなど	民間主催のイベント	その他	聞いたことがない	無回答
10歳代 N=23	13.0	56.5	-	4.3	4.3	-	17.4	13.0	-
20歳代 N=36	25.0	33.3	11.1	2.8	8.3	2.8	8.3	27.8	2.8
30歳代 N=63	11.1	44.4	7.9	-	1.6	-	7.9	27.0	1.6
40歳代 N=122	19.7	45.1	9.8	-	4.1	2.5	6.6	24.6	4.1
50歳代 N=94	21.3	25.5	12.8	-	11.7	8.5	8.5	36.2	1.1
60～64歳 N=79	17.7	19.0	13.9	2.5	15.2	6.3	11.4	34.2	2.5
65～69歳 N=64	17.2	12.5	14.1	-	4.7	7.8	7.8	46.9	1.6
70～74歳 N=65	29.2	13.8	10.8	1.5	9.2	6.2	12.3	32.3	3.1
75歳以上 N=54	20.4	13.0	13.0	1.9	-	14.8	5.6	38.9	9.3

3 地区社会福祉協議会の活動と地域福祉の推進について

問4 あなたは「地区社会福祉協議会」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

「地区社会福祉協議会」への関心は年々薄れてきている



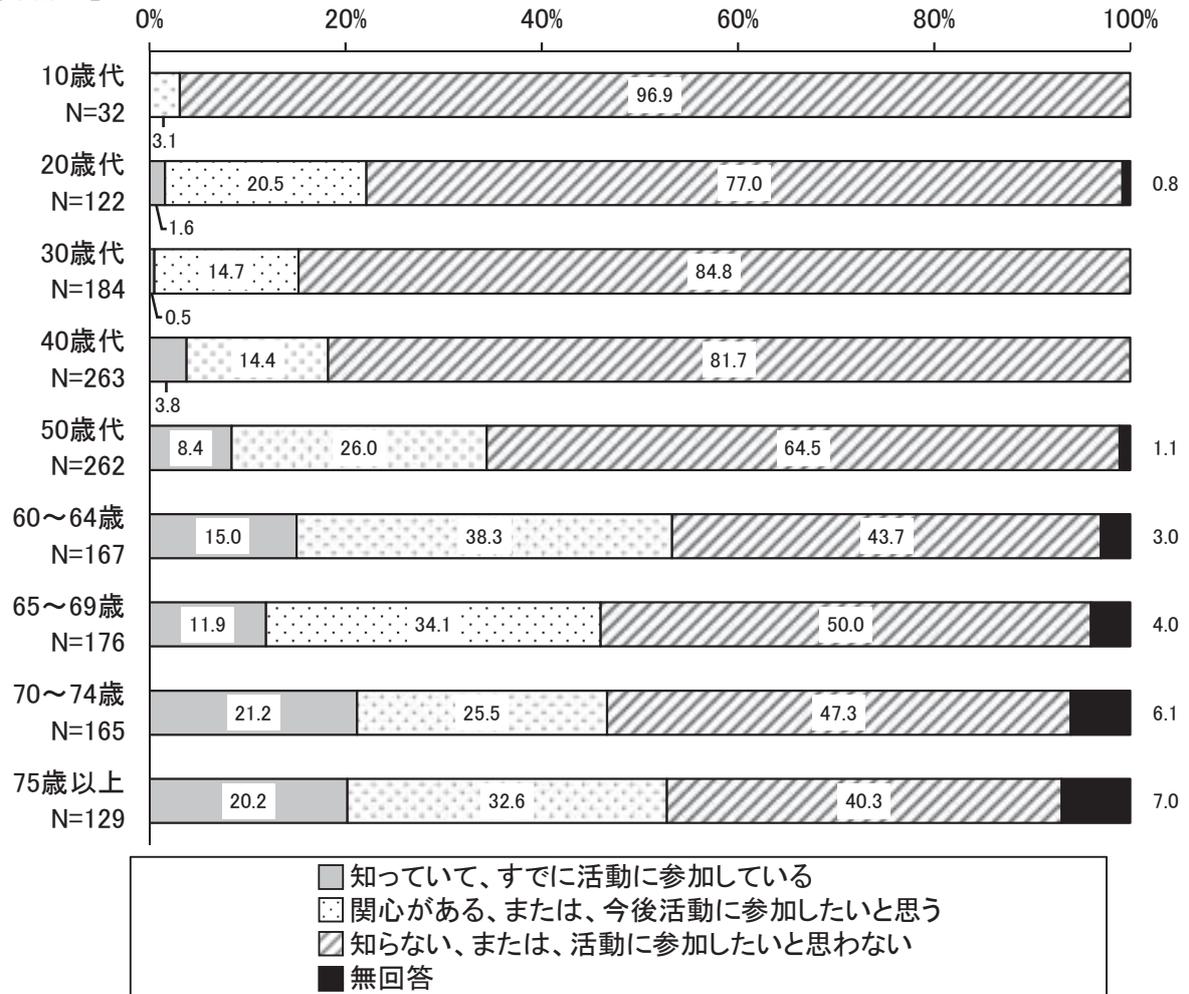
「知っている、すでに活動に参加している」は9.5%、「関心がある、または、今後活動に参加したいと思う」は24.6%となった。この2項目を合わせた『関心度』は34.1%となった。過去の調査と比較すると、『関心度』は年々低下している。

平成23年に発生した東日本大震災により地域の絆や地域福祉に対する意識が向上したものの、6年が経過し、地域福祉への関心が薄れてきているとともに、地区社会福祉協議会の地域住民への周知や参加促進が進んでいない状況がうかがえる。

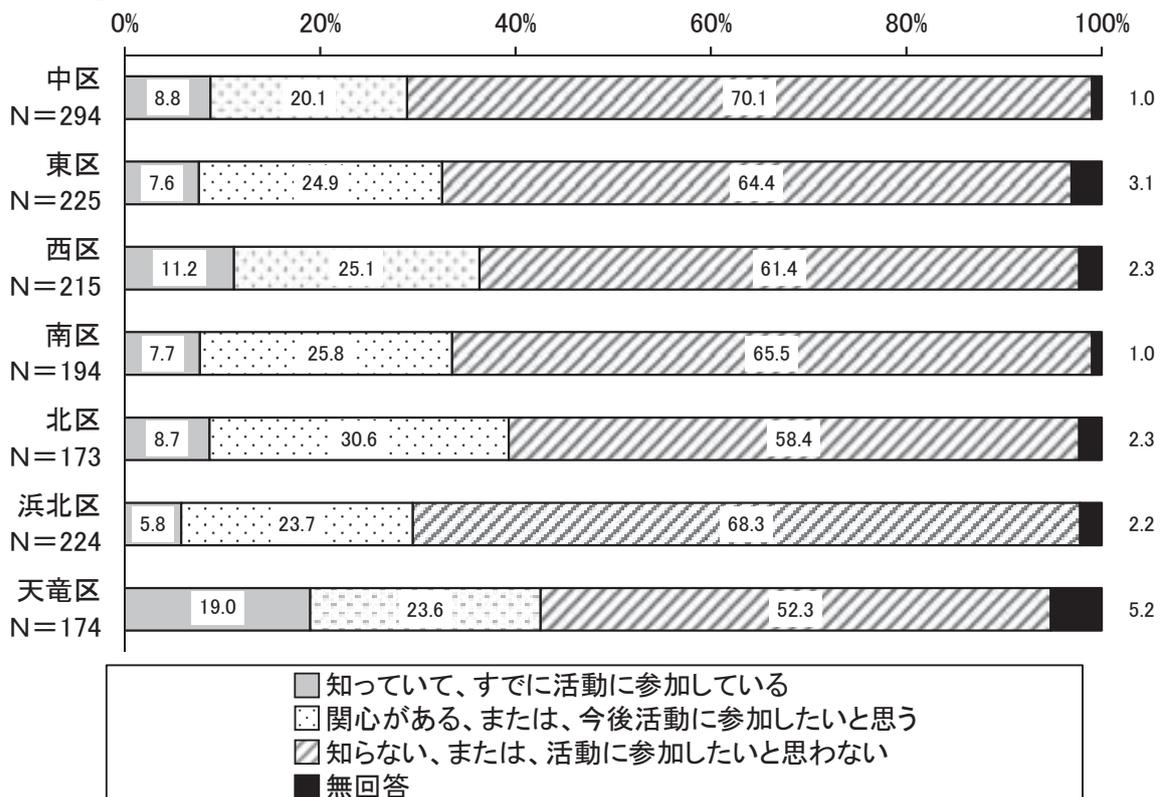
『関心度』を年齢別で見ると、年齢が高まるに伴い、関心度は概ね高くなっている。平成28年度調査と比較すると、30歳代(21.7%→15.2%)、40歳代(25.6%→18.2%)の『関心度』が下がっているのが目立つが、60～64歳(37.9%→53.3%)については『関心度』が大きく上昇している。これからは、高齢者の『関心度』を維持しつつも、今後地域福祉活動を担っていく20歳代から40歳代に対して、さらなる働きかけが必要となる。

『関心度』を行政区別で見ると、天竜区が42.6%で最も高く、中区が28.9%で最も低かった。

【年齢別】

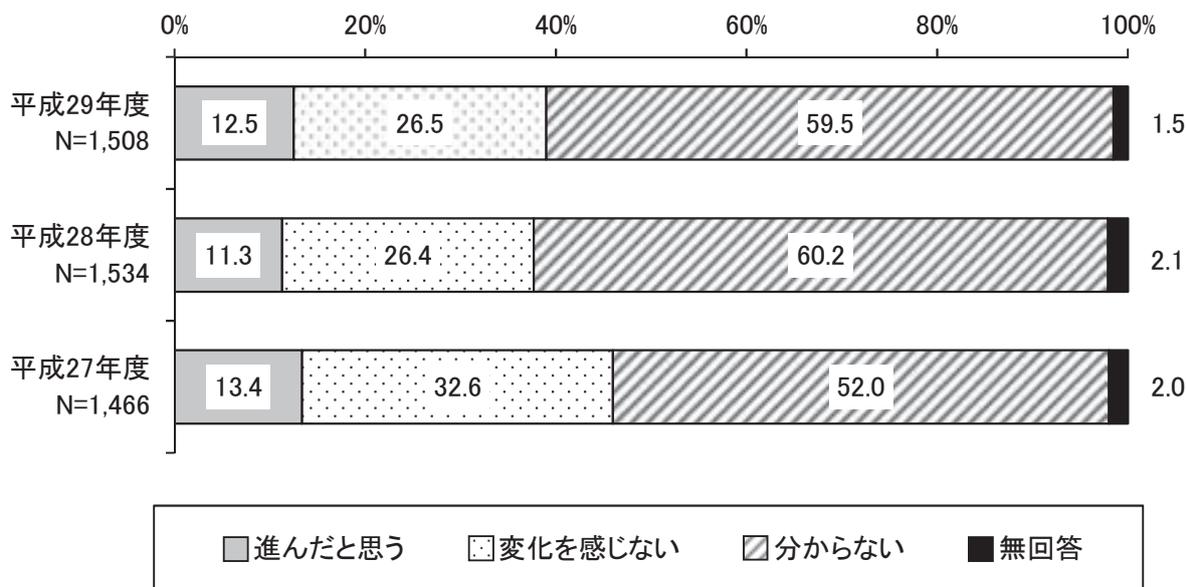


【行政区別】



問5 地区社会福祉協議会の設立により、地域での支え合いが進んだと思いますか。
(1つだけ○を付けてください)

「進んだと思う」人は12.5%。今後、地区社会福祉協議会に対する地域の理解がより一層求められる。



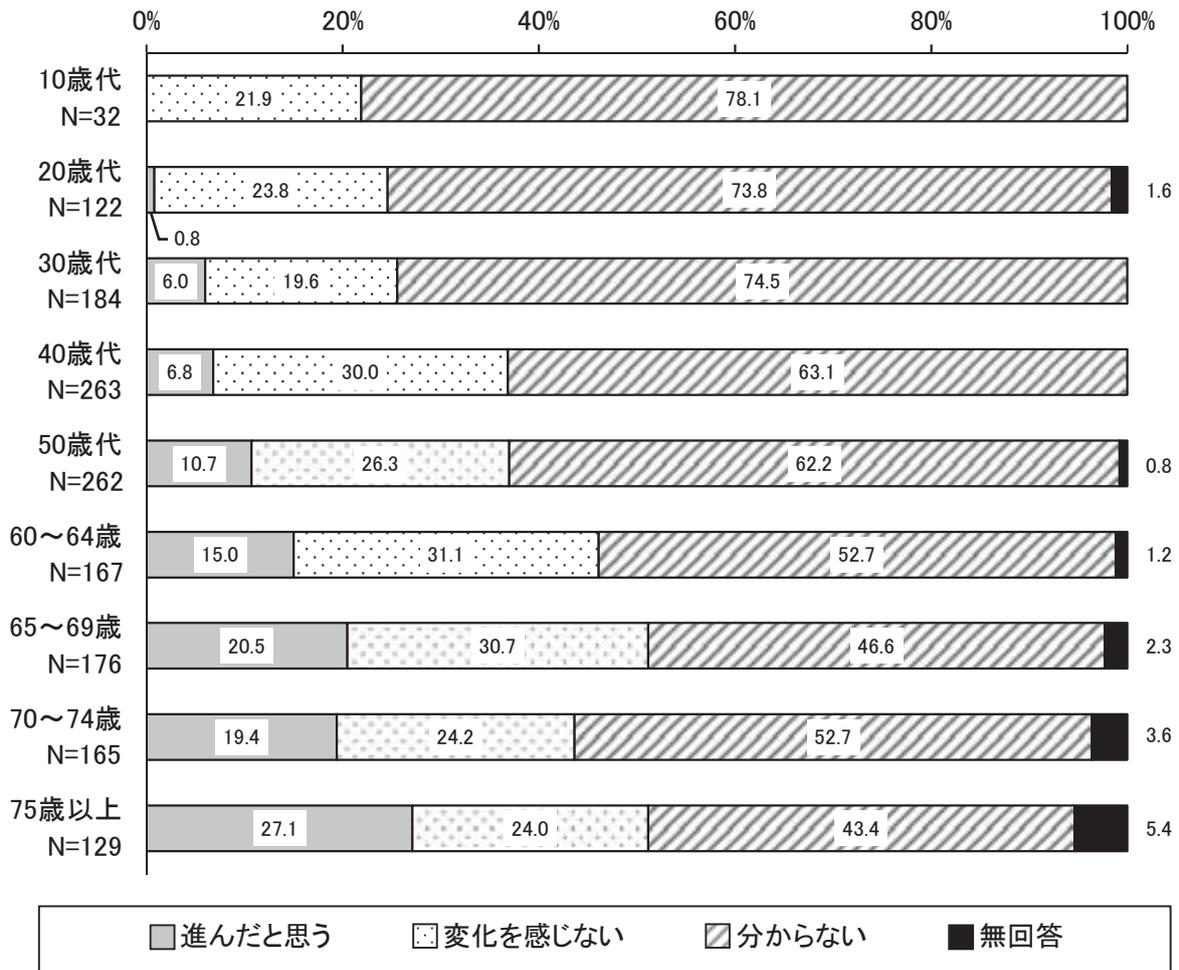
「進んだと思う」は12.5%にとどまり、「変化を感じない」が26.5%、「分からない」が59.5%となった。平成28年度調査と比較すると、「進んだと思う」の割合は1.2ポイント増加したが、平成27年度調査よりも0.9ポイント低くなっている。

年齢別でみると、年齢が高まるに伴い「進んだと思う」の回答割合が高まる傾向がみられ、75歳以上は「進んだと思う」が「変化を感じない」を上回った。

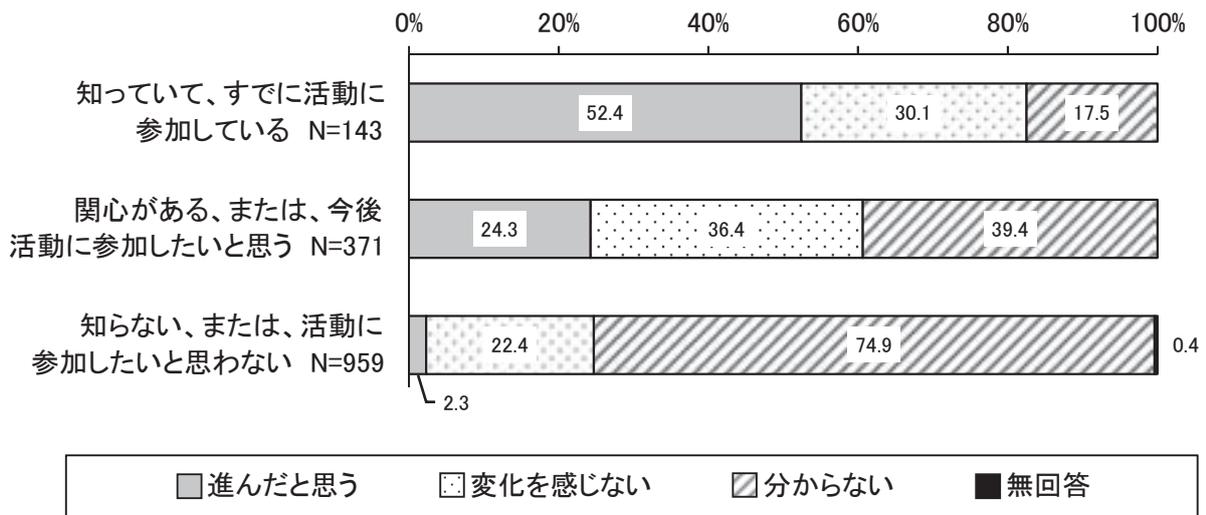
問4でたずねた地区社会福祉協議会の関心度合別でみると、「知っていて、すでに活動に参加している」人は「進んだと思う」が52.4%と過半数を占める一方、「知らない、または、活動に参加したいと思わない」人は「進んだと思う」は2.3%にとどまり、74.9%が「わからない」と回答している。地区社会福祉協議会の地域住民への周知が進んでいないことが、支え合いの進展度の低さにもつながっていると思われる。

住民主体による地域福祉活動の推進母体である地区社会福祉協議会は、今後も地域福祉の推進の要となる組織である。その活動について地域住民の理解と参加促進を図っていくためには、地区社会福祉協議会を身近に感じてもらえるような周知活動や、参加しやすい事業づくり及び地域のニーズや課題を把握し地域全体で解決していく取り組みが必要である。今後は地区社会福祉協議会が中心となり、地域で住民ニーズや課題を把握し、地域全体で解決していく取り組みの実施が求められる。

【年齢別】



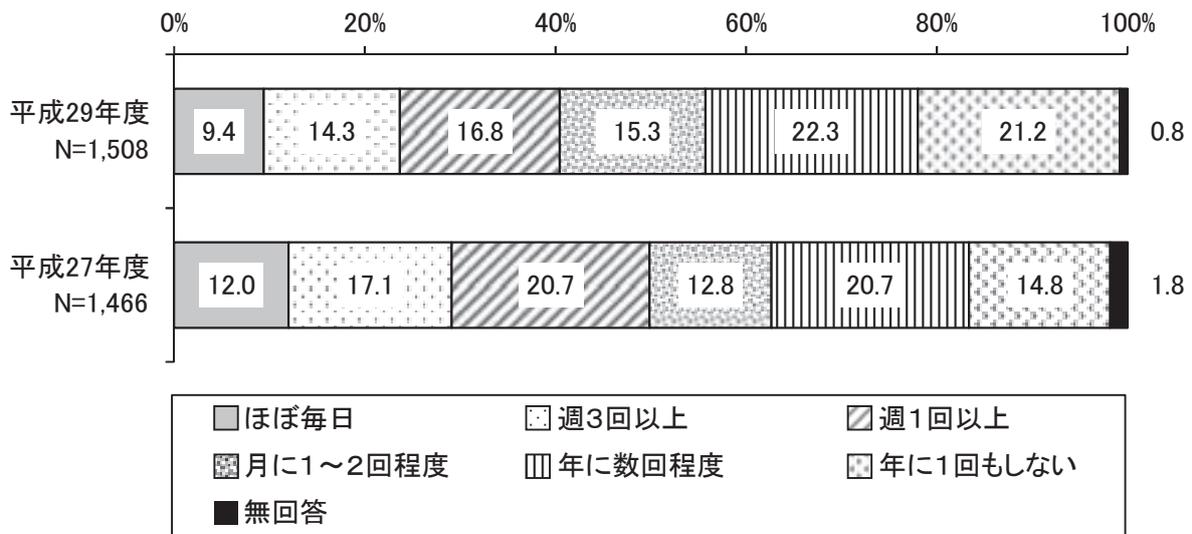
【関心度合別】



4 スポーツの推進について

問6 過去1年間で、あなたはスポーツ（運動）をどの程度行いましたか。ウォーキングから本格的な競技スポーツまで、あらゆる運動を含みます。（1つだけ○を付けてください）

『週1回以上』スポーツを行っている人は40.5%



「ほぼ毎日」（9.4%）、「週3回以上」（14.3%）を合わせた『週3回以上』が23.7%、『週3回以上』と「週1回以上」（16.8%）を合わせた『週1回以上』は40.5%、「年に1回もしない」は21.2%となった。

平成27年度調査と比較すると、『週1回以上』は9.3ポイント、『週3回以上』は5.4ポイント低下した。「年に1回もしない」は6.4ポイント上昇した。

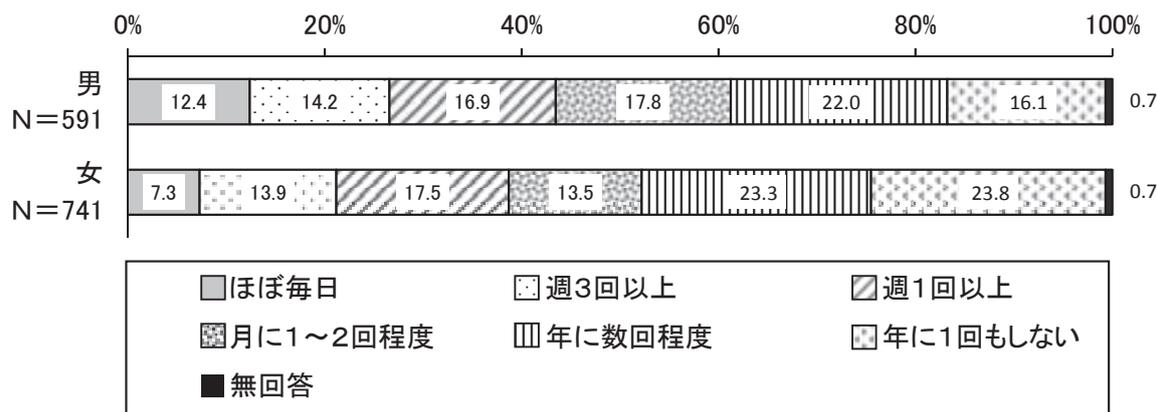
浜松市スポーツ推進計画では、週1回以上のスポーツ実施率65%以上、週3回以上のスポーツ実施率30%以上を数値目標としているが、週1回以上は24.5ポイント、週3回以上は6.3ポイント目標を下回った。

平成28年度小中学校スポーツ施設利用者は、前年度より延べ5万人以上、体育振興会の活動参加者も延べ4千人以上増加しているが、スポーツ実施率の向上につながっていない。スポーツ施設利用者を増加させたり、地域のスポーツ活動への参加者を増やしたり、子供たちへスポーツの楽しさや感動を体験させることなどを通して、スポーツ実施率の向上を図る必要がある。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催により、スポーツへの機運が高まる中、浜松市スポーツ推進計画の数値目標達成に向け、引き続き努力していく必要がある。

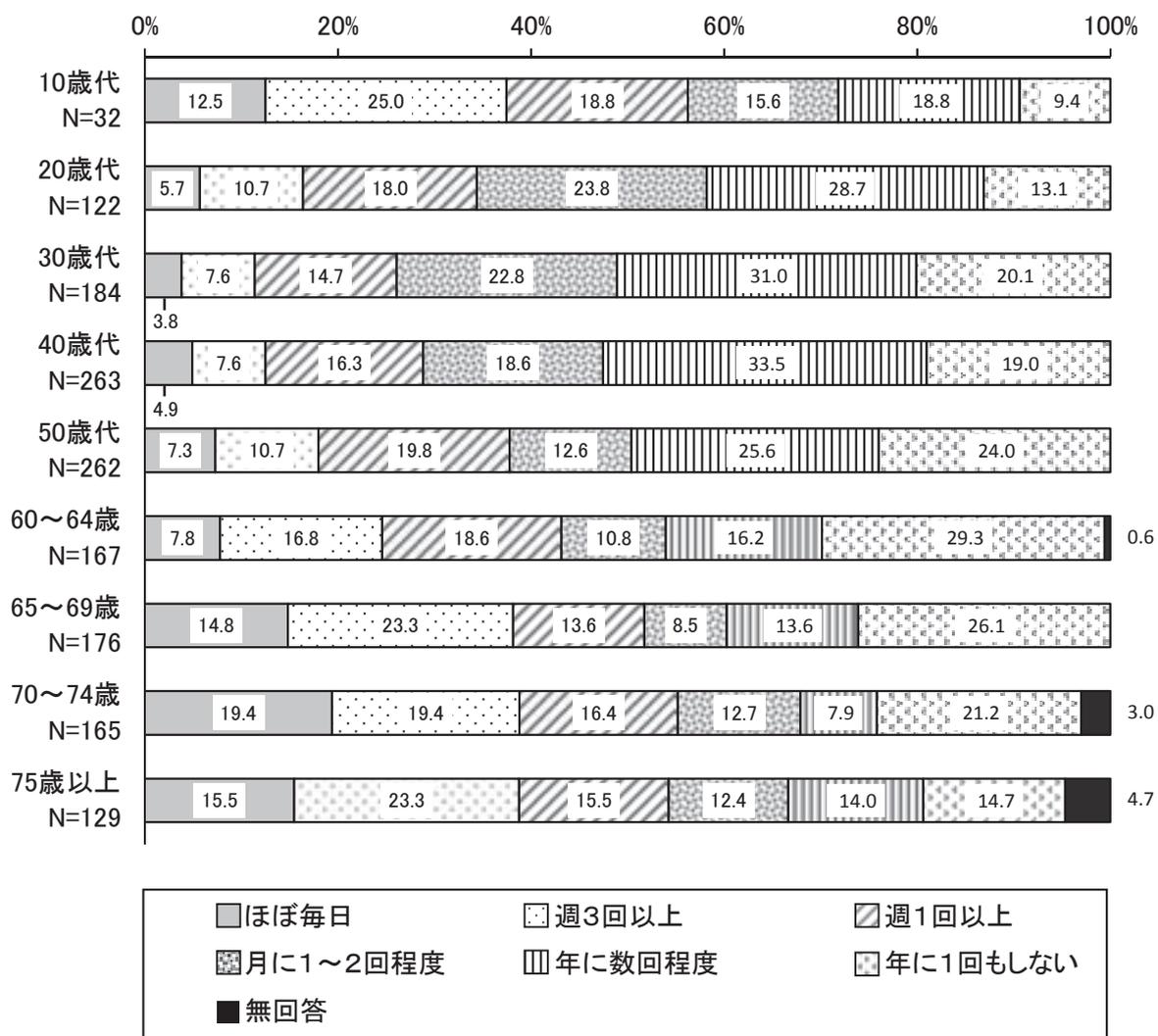
性別で見ると、『週1回以上』は男性43.5%、女性38.7%と男性の方が高かった。

『週1回以上』を年齢別で見ると、30歳代、40歳代は20%台と低かった。30歳代、40歳代のスポーツ実施機会を増やしていく必要がある。

【性別】

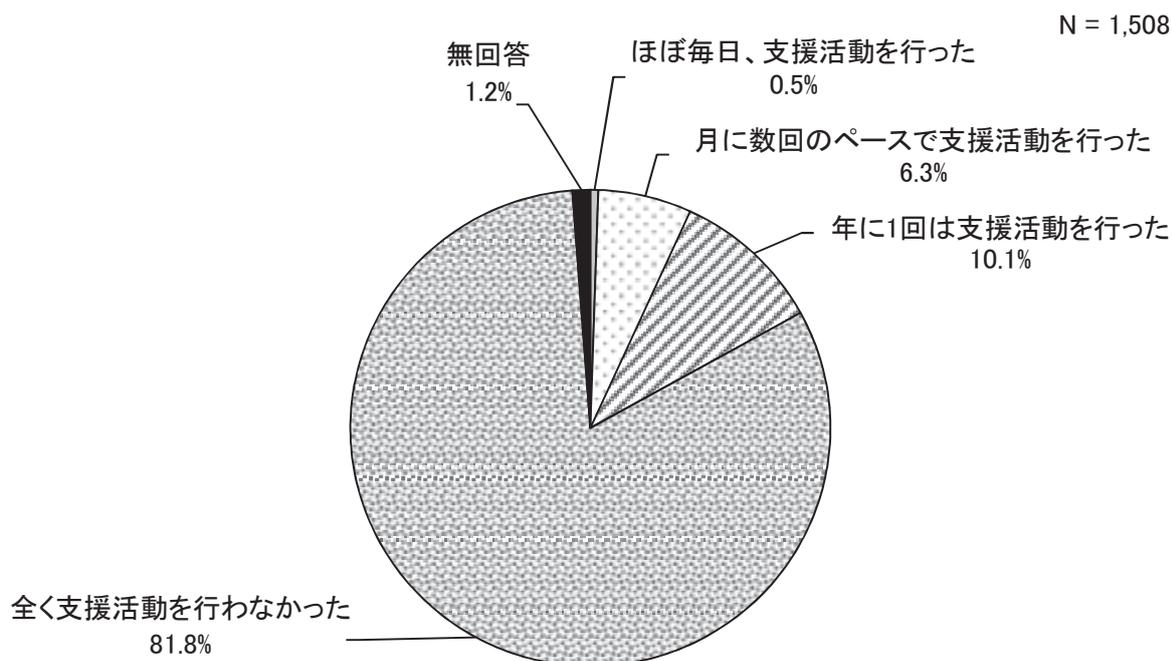


【年齢別】



問7 過去1年間に、あなたはスポーツ活動の支援をどの程度行いましたか。
 スポーツイベントや各種競技の大会におけるボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小・中学校、高校、大学の部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。
 (1つだけ○を付けてください)

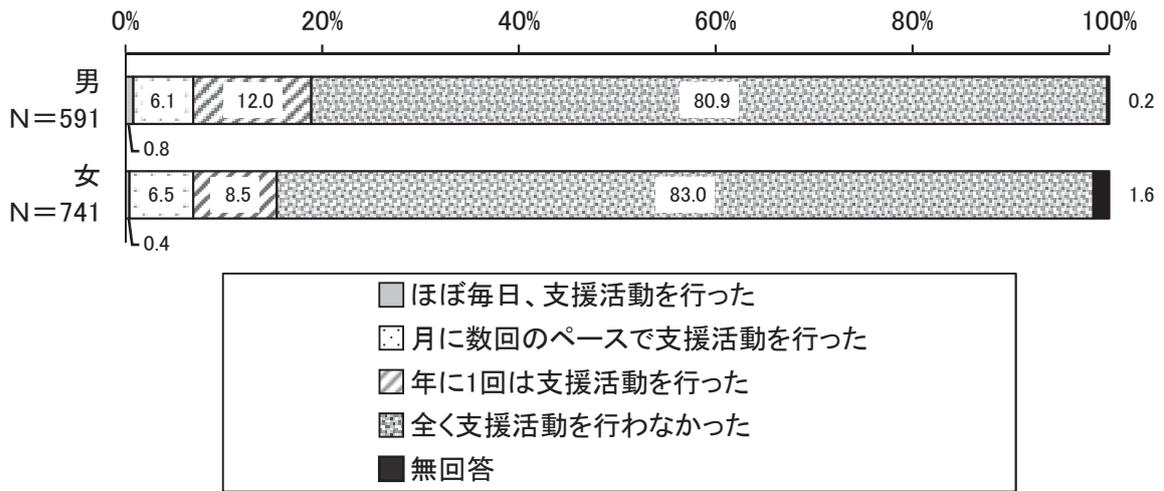
『年1回以上』スポーツ支援をした人は16.9%



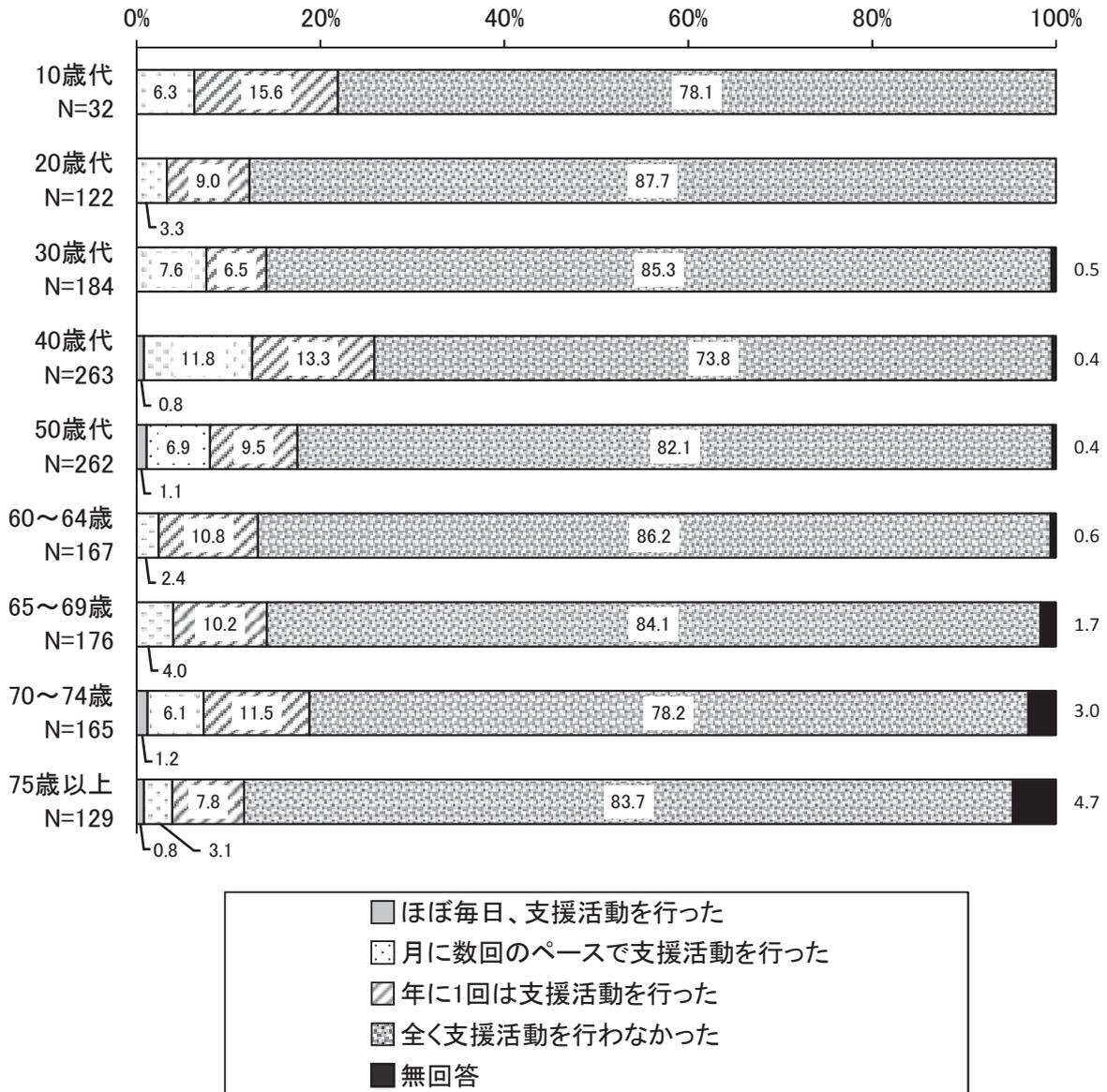
浜松市スポーツ推進計画では、年1回以上のスポーツ支援実施率35%以上を目標としているが、「ほぼ毎日、支援活動を行った」(0.5%)、「月に数回のペースで支援活動を行った」(6.3%)、「年に1回は支援活動を行った」(10.1%)を合わせた『年1回以上』は16.9%となり、推進計画の目標を18.1ポイント下回った。性別で見ると、『年1回以上』は男性18.9%、女性15.4%と男性の方が高く、年齢別で見ると、『年1回以上』の割合が最も高かったのは40歳代の25.9%だった。「全く支援活動を行わなかった」は81.8%で圧倒的に多かった。

平成27年度調査とは選択肢が異なるため単純比較はできないが、『年1回以上』の回答割合は微増(16.5%→16.9%)したが依然数値目標の半分に満たない状況で、「支える(育てる)スポーツ」の普及が進んでいない。平成28年度よりスタートさせた「スポーツ人材バンク事業」を通して、市民が気軽にボランティア活動に参加できる環境の整備、ボランティア機会の確保をしていく必要がある。

【性別】



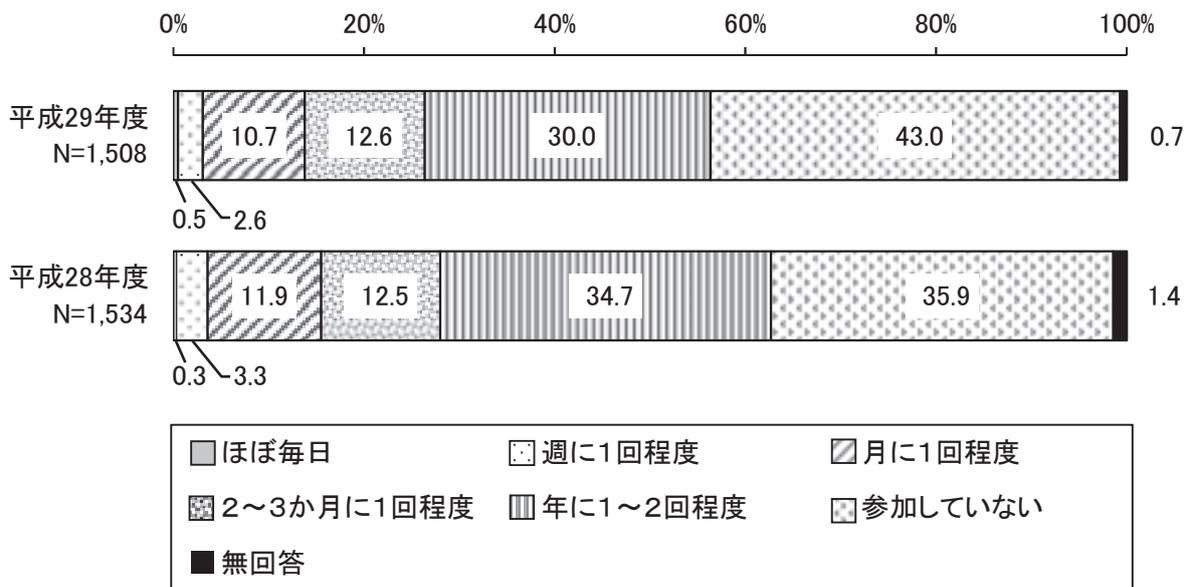
【年齢別】



5 協働による まちづくりについて

問8 あなたは、どのくらいの頻度で、自治会（町内会）や消防団、PTAなど地域のコミュニティ活動に参加していますか？（1つだけ○を付けてください）

『年1回以上』参加している人は56.4%



「ほぼ毎日」から「年に1~2回程度」までを合わせた『年1回以上』は56.4%と過半数を占め、「参加していない」の43.0%を13.4ポイント上回った。『年1回以上』の内訳をみると、「年に1~2回程度」が最も多い。

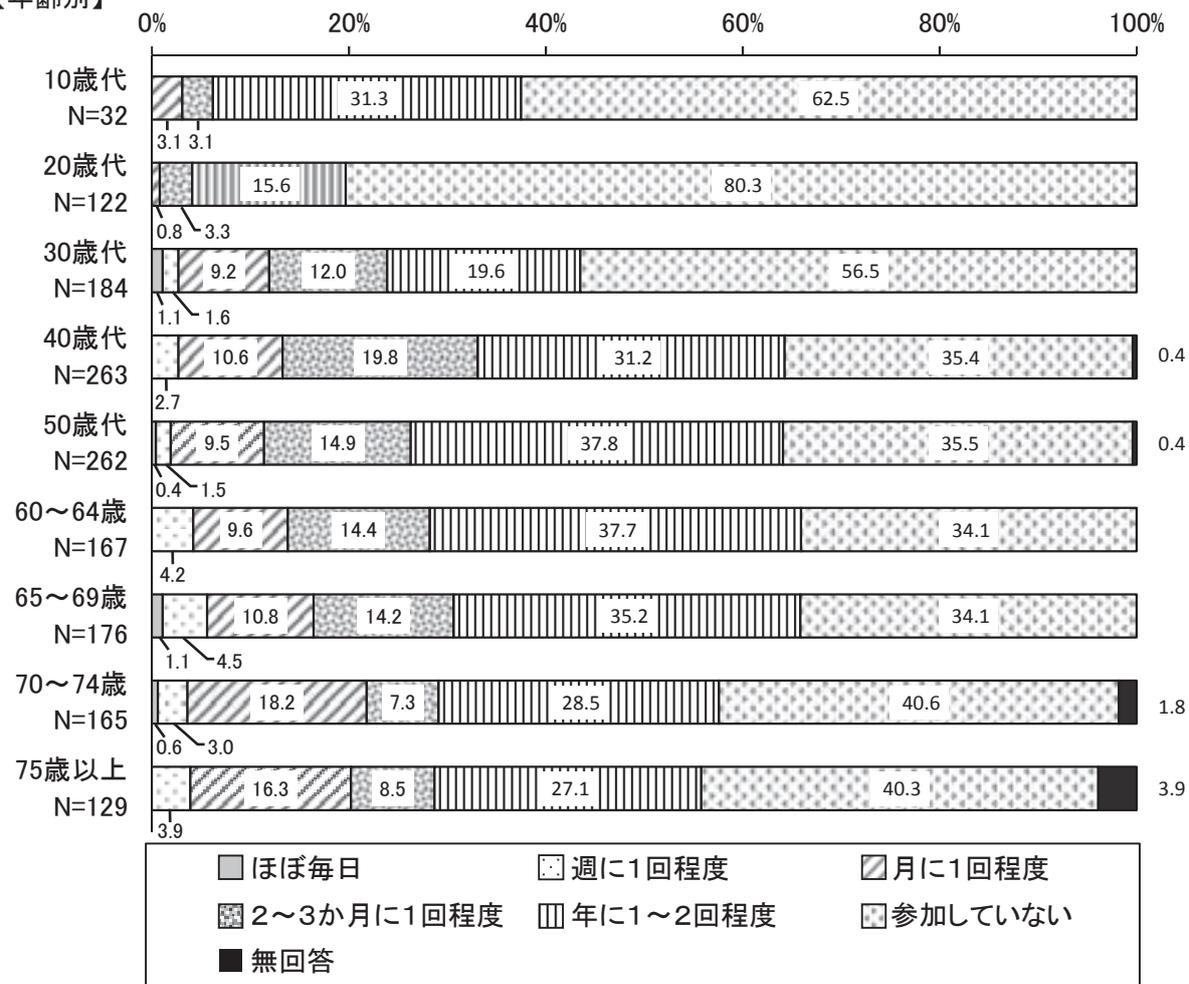
平成28年度調査と比較すると、『年1回以上』の割合は6.3ポイント低下した。

年齢別でみると、『年1回以上』の割合は40歳代から60歳代が高かった。「参加していない」は高齢者よりも若年層の方が高く、10歳代は62.5%、20歳代は80.3%が「参加していない」と回答している。

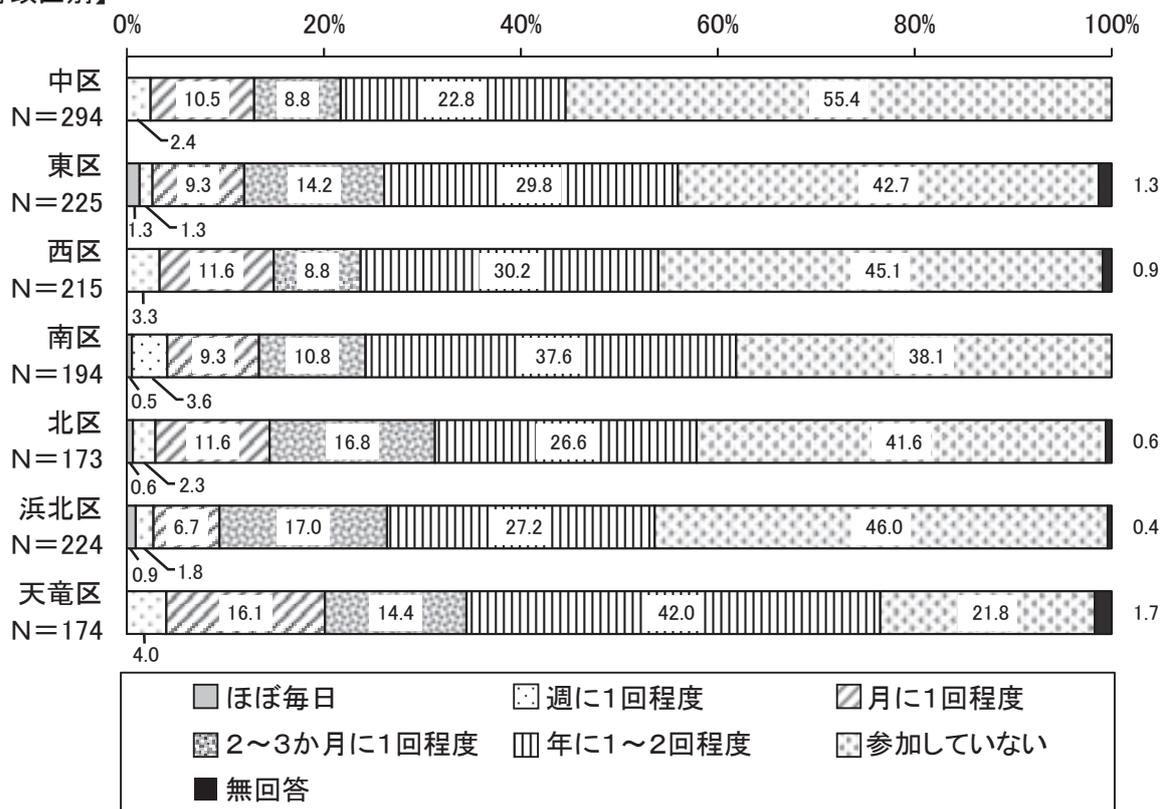
行政区別でみると、『年1回以上』の割合は天竜区が76.5%で最も高く、中区が44.5%で最も低かった。

浜松市は、自治会加入率が95.5%（平成29年4月1日現在、浜松市自治会連合会調べ）で政令指定都市の平均72.7%（平成29年度指定都市地域振興主管者会議調査より）と比べ高い割合となっているが、加入率の高さと能動的な参加との間にかい離があると思われる。地域コミュニティの重要性について、さらに市民へ周知していく必要がある。

【年齢別】

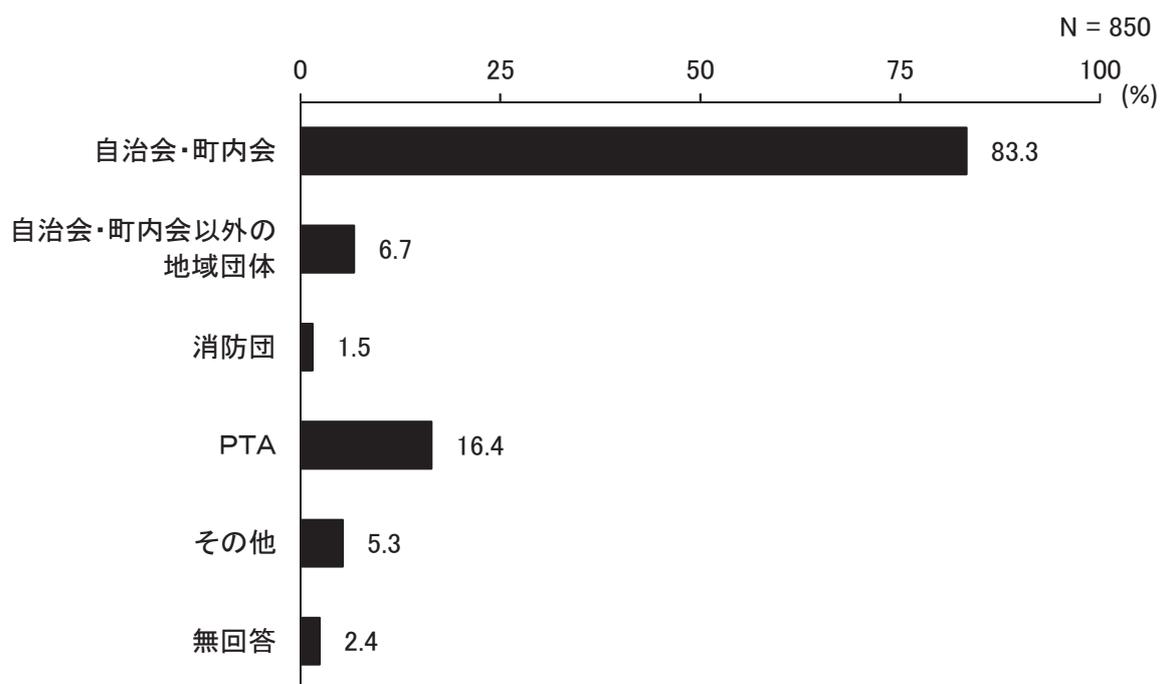


【行政区別】



問9 問8で「1. ほぼ毎日」「2. 週に1回程度」「3. 月に1回程度」「4. 2～3か月に1回程度」「5. 年に1～2回程度」とお答えされた方に伺います。どこでそれらの活動を行いましたか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

「自治会・町内会」への参加が最も多い



「自治会・町内会」が83.3%で圧倒的に高く、次いで「PTA」が16.4%で高かった。残りの項目はいずれも回答割合が10%未満となった。

性別でみると、「自治会・町内会」は男性84.3%、女性81.4%と男性の方がやや高い程度だが、「PTA」は男性8.8%、女性23.4%と女性の回答割合が高かった。

年齢別でみると、いずれの年齢も、「自治会・町内会」が最も高かった。「PTA」は30歳代、40歳代が相対的に高かった。

【性別】

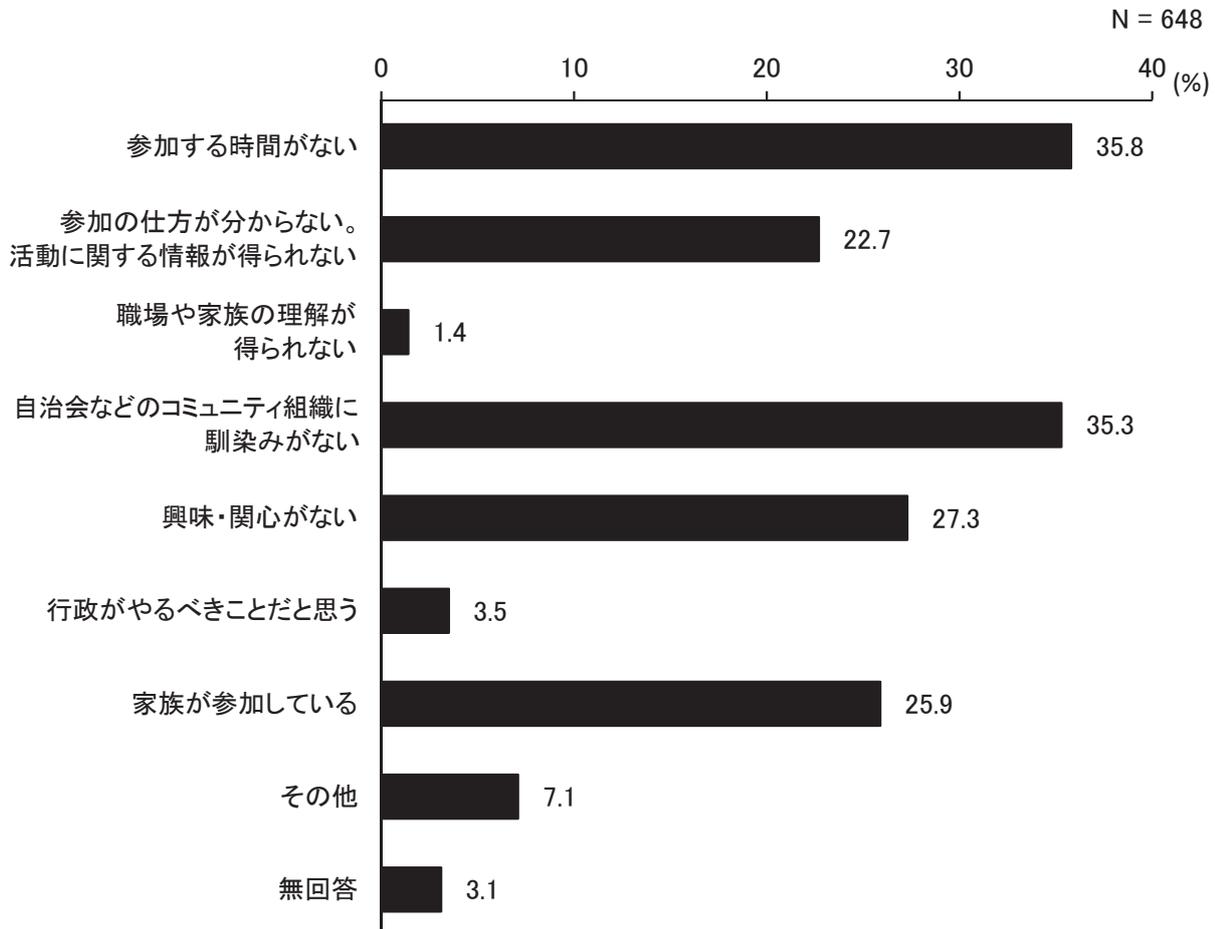
	自治会・町内会	自治会・町内会 以外の地域団体	消防団	P T A	その他	無回答
男 N=351	84.3	8.0	2.6	8.8	6.6	2.6
女 N=397	81.4	6.0	-	23.4	4.3	2.5

【年齢別】

	自治会・町内会	自治会・町内会 以外の地域団体	消防団	P T A	その他	無回答
10歳代 N=12	83.3	-	-	8.3	8.3	-
20歳代 N=24	75.0	4.2	12.5	12.5	8.3	-
30歳代 N=80	70.0	2.5	1.3	40.0	5.0	3.8
40歳代 N=169	82.2	3.6	1.2	40.8	3.0	0.6
50歳代 N=168	86.3	3.0	1.2	16.1	3.0	1.8
60～64歳 N=110	87.3	9.1	-	2.7	4.5	3.6
65～69歳 N=116	89.7	10.3	1.7	2.6	6.0	2.6
70～74歳 N=95	81.1	12.6	1.1	-	12.6	4.2
75歳以上 N=72	81.9	12.5	2.8	-	4.2	2.8

問 10 問 8 で「6. 参加していない」とお答えされた方に伺います。その理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

参加していない理由は「参加する時間がない」が最も多い



参加していない理由は「参加する時間がない」が 35.8%で最も高く、僅差で「自治会などのコミュニティ組織に馴染みがない」が 35.3%で 2 番目に高かった。「参加の仕方が分からない。活動に関する情報が得られない」「興味・関心がない」「家族が参加している」の回答割合も 2 割以上あった。「行政がやるべきことだと思う」は 3.5%で少数意見だった。

性別でみると、男性は女性と比較して「参加する時間がない」「興味・関心がない」の割合が高く、女性は男性と比較して「家族が参加している」の割合が高かった。

年齢別でみると、「参加する時間がない」は 40 歳代、50 歳代が相対的に高かった。「自治会などのコミュニティ組織に馴染みがない」は 30 歳代が高かった。10 歳代、20 歳代は「参加の仕方が分からない。活動に関する情報が得られない」が相対的に高かった。

地域コミュニティに参加しない理由は、そもそも興味・関心のない人から、やむを得ず参加できない人まで幅広いことに加え、年齢によっても理由に違いがみられる。市民の参加率を高めるためには、啓発活動はもちろん、参加しやすい環境づくりを支援していく必要がある。

【性別】

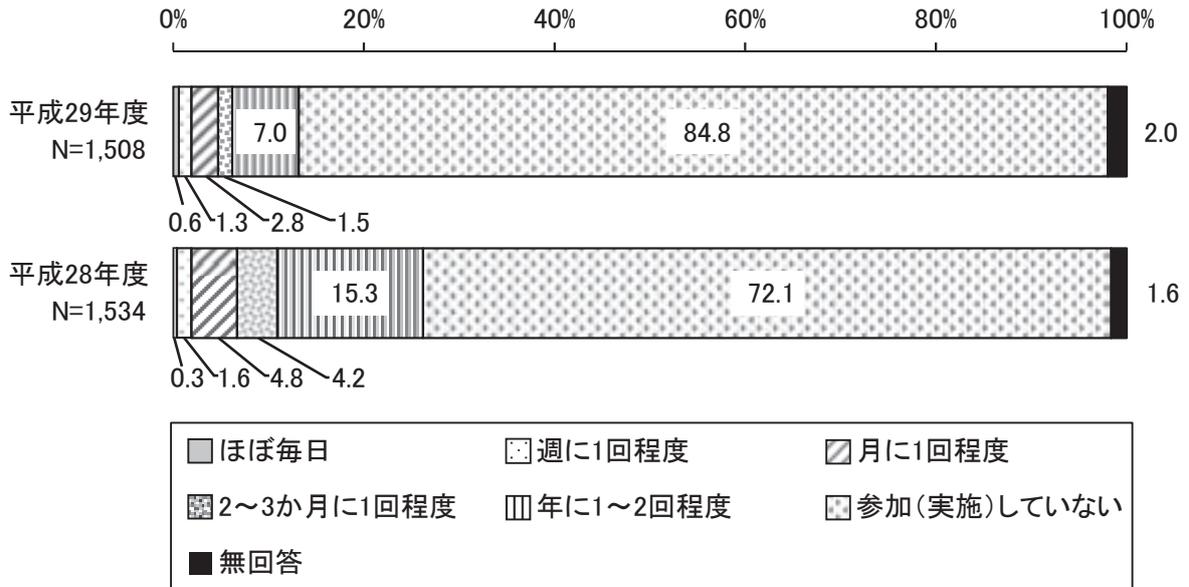
	参加する時間がない	参加の仕方が分からない。 活動に関する情報が得られない	得られない 職場や家族の理解が	組織に馴染みがない 自治会などのコミュニティ	興味・関心がない	行政がやるべきことだと思う	家族が参加している	その他	無回答
男 N=238	41.6	25.2	2.1	36.6	34.9	5.9	23.5	7.1	2.1
女 N=339	32.2	22.4	0.9	34.2	22.4	2.1	28.0	6.8	3.8

【年齢別】

	参加する時間がない	参加の仕方が分からない。 活動に関する情報が得られない	得られない 職場や家族の理解が	組織に馴染みがない 自治会などのコミュニティ	興味・関心がない	行政がやるべきことだと思う	家族が参加している	その他	無回答
10歳代 N=20	35.0	35.0	-	20.0	25.0	-	20.0	5.0	-
20歳代 N=98	36.7	33.7	2.0	40.8	35.7	-	28.6	3.1	-
30歳代 N=104	41.3	22.1	-	49.0	34.6	6.7	32.7	4.8	1.9
40歳代 N=93	48.4	20.4	4.3	33.3	30.1	3.2	31.2	6.5	2.2
50歳代 N=93	50.5	31.2	2.2	37.6	19.4	6.5	23.7	5.4	-
60～64歳 N=57	40.4	19.3	1.8	43.9	15.8	3.5	17.5	7.0	1.8
65～69歳 N=60	20.0	13.3	-	20.0	28.3	3.3	20.0	13.3	1.7
70～74歳 N=67	19.4	17.9	-	28.4	26.9	3.0	19.4	11.9	7.5
75歳以上 N=52	11.5	9.6	-	19.2	21.2	1.9	28.8	9.6	15.4

問 11 あなたは、どのくらいの頻度で、NPOなどが運営するボランティア活動（自治会や消防団、PTA活動などは除く）へ参加したり、自発的に社会貢献活動（公共の場の清掃や子供・高齢者の見守りなど）を実施したりしていますか？（1つだけ○を付けてください）

「参加（実施）していない」人は 84.8%



「ほぼ毎日」から「年に1~2回程度」までを合わせた『年1回以上』は13.2%となり、「参加（実施）していない」の84.8%を71.6ポイント下回った。『年1回以上』の内訳をみると、「年に1~2回程度」が最も多い。問8でたずねた地域のコミュニティ活動と比較すると『年1回以上』は43.2ポイント低くなっている。

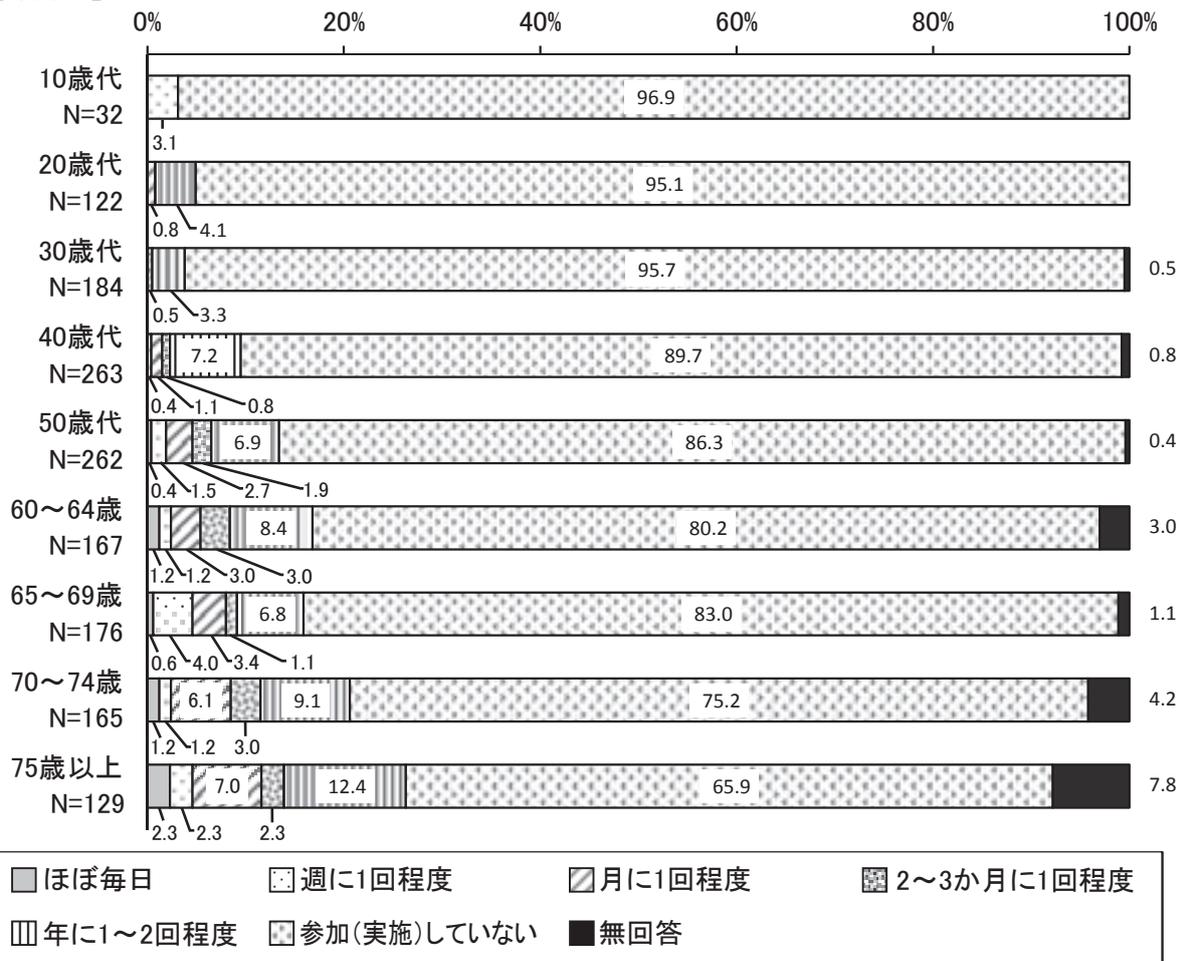
平成28年度調査と比較すると、『年1回以上』の割合は13.0ポイント低下、「参加（実施）していない」は12.7ポイント増加した。

年齢別でみると、年齢が高まるに伴い『年1回以上』の回答割合が高くなる傾向がみられた。10歳代から40歳代は『年1回以上』が10%を割り込んでいる。

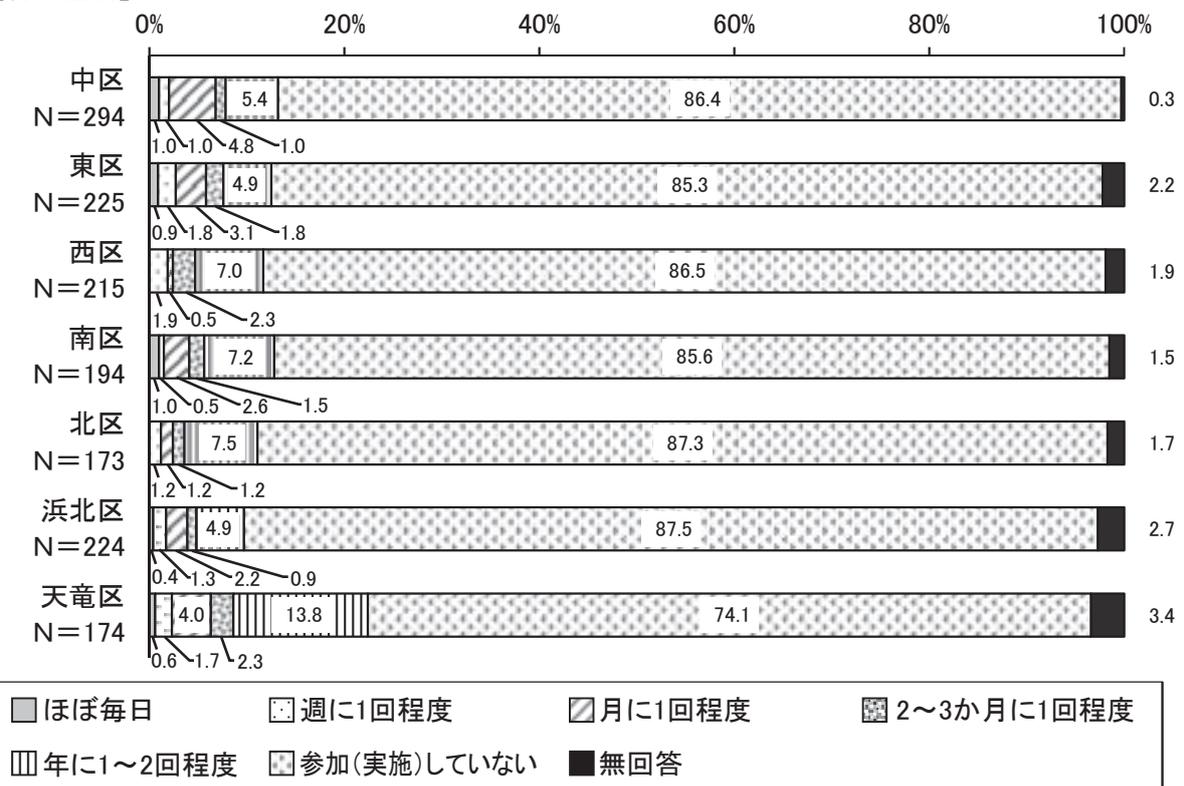
行政区別でみると、『年1回以上』の回答割合は天竜区が22.4%で最も高く、浜北区が9.7%で最も低かった。天竜区は人口当たりのNPO法人数が最も多い。NPO法人の活動を身近に感じることが参加率の向上につながると考えられる。

NPO法人など市民活動団体への理解度や認知度はまだ高くないため、市としてはさらに情報発信に努める必要がある。

【年齢別】

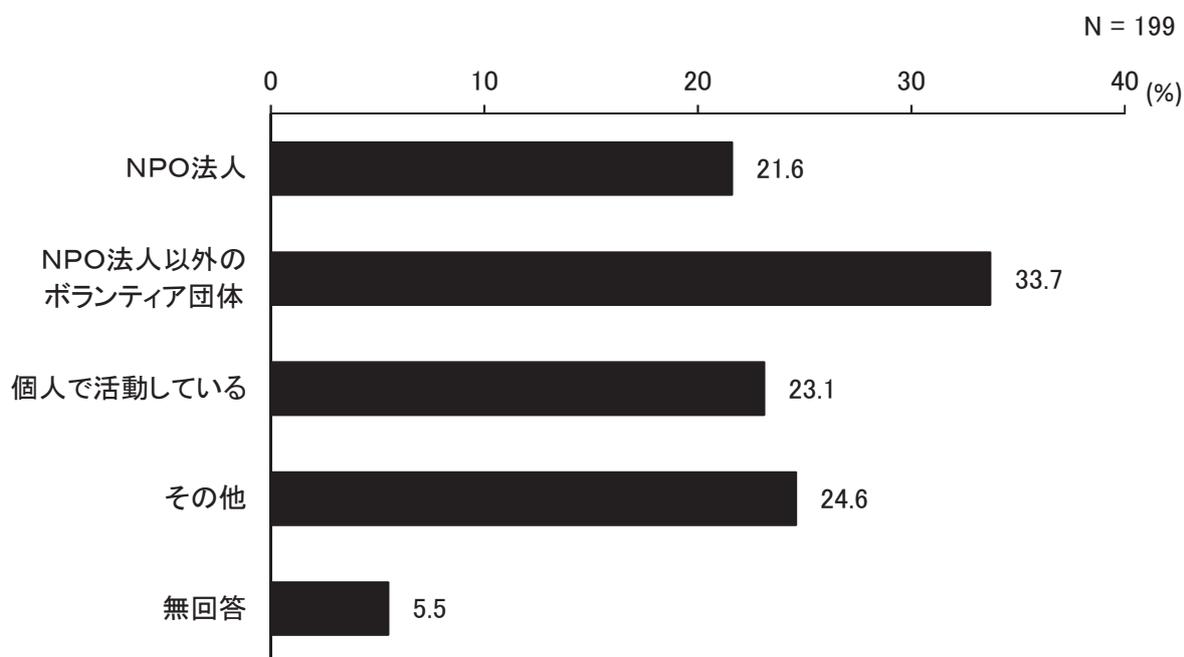


【行政区別】



問 12 問 11 で「1. ほぼ毎日」「2. 週に 1 回程度」「3. 月に 1 回程度」「4. 2～3 か月に 1 回程度」「5. 年に 1～2 回程度」とお答えされた方に伺います。どこでそれらの活動を行いましたか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

「NPO 法人以外のボランティア団体」での活動が最も多い



「NPO 法人以外のボランティア団体」が 33.7% で最も高かった。「NPO 法人」「個人で活動している」「その他」も回答割合が 2 割を超えている。

「その他」の記述をみると、「草刈り」「授産所への慰問」「小学校の見守り隊」などの記述があった。

性別で見ると、男性は女性と比較して「NPO 法人」の割合が高く、女性は男性と比較して「個人で活動している」の割合が高かった。

年齢別で見ると、50 歳代以上は「NPO 法人」よりも「NPO 法人以外のボランティア団体」の回答割合が高かった。

【性別】

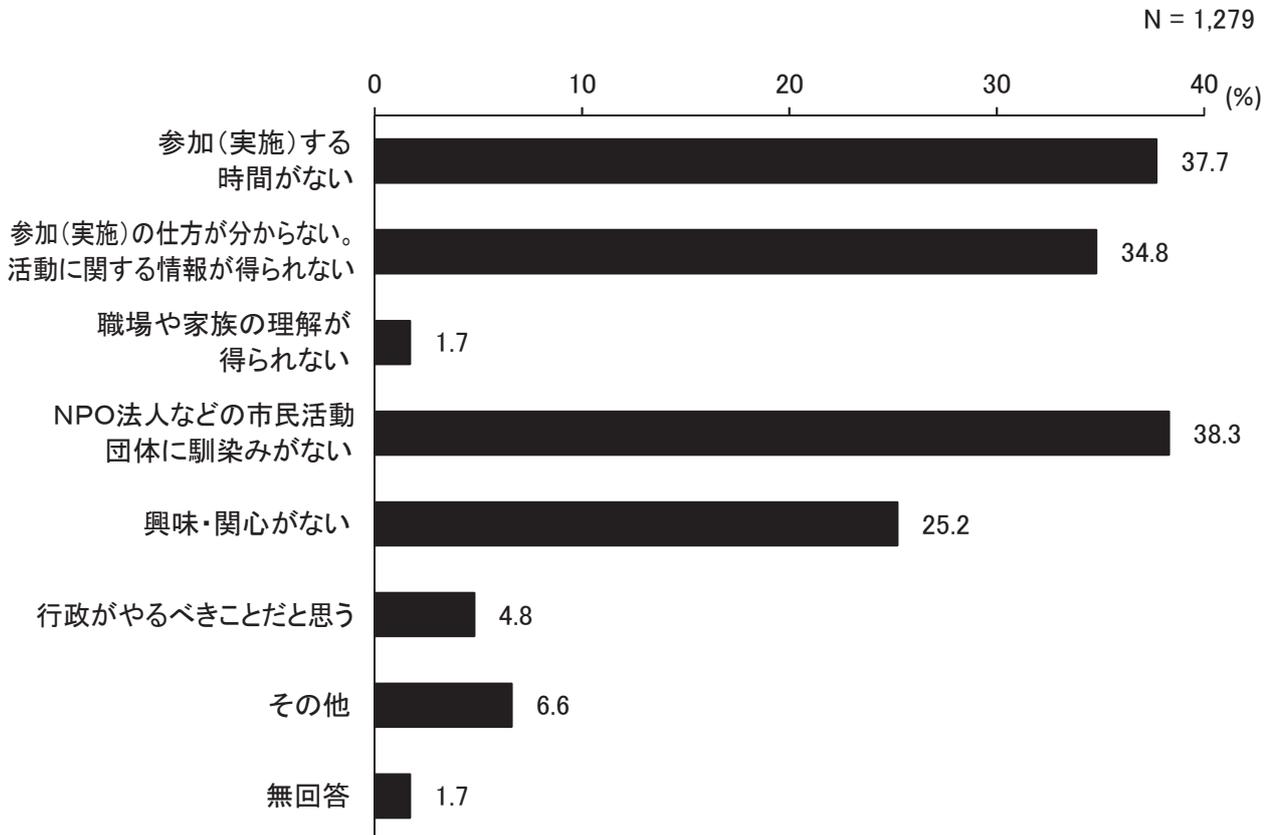
	NPO法人	NPO法人以外の ボランティア団体	個人で 活動している	その他	無回答
男 N=94	25.5	33.0	19.1	23.4	5.3
女 N=83	18.1	36.1	24.1	26.5	6.0

【年齢別】

	NPO法人	NPO法人以外の ボランティア団体	個人で 活動している	その他	無回答
10歳代 N=1	100.0	-	-	-	-
20歳代 N=6	50.0	-	16.7	33.3	-
30歳代 N=7	28.6	42.9	14.3	14.3	14.3
40歳代 N=25	32.0	24.0	20.0	20.0	8.0
50歳代 N=35	22.9	31.4	25.7	17.1	5.7
60～64歳 N=28	14.3	35.7	21.4	28.6	-
65～69歳 N=28	21.4	46.4	25.0	25.0	3.6
70～74歳 N=34	17.6	38.2	23.5	23.5	8.8
75歳以上 N=34	11.8	32.4	26.5	35.3	5.9

問 13 問 11 で「6. 参加（実施）していない」とお答えされた方に伺います。その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

NPO 法人などの市民活動自体を否定的に捉えている人は少ない



参加していない理由は「NPO 法人などの市民活動団体に馴染みがない」が 38.3%で最も高く、僅差で「参加（実施）する時間がない」（37.7%）と「参加（実施）の仕方が分からない。活動に関する情報が得られない」（34.8%）が続いた。「行政がやるべきことだと思う」は 4.8%で少数意見だった。

性別でみると、男性は女性と比較して「NPO 法人などの市民活動団体に馴染みがない」「興味・関心がない」「行政がやるべきことだと思う」の割合が高かった。

年齢別でみると、「参加（実施）する時間がない」は 40 歳代が相対的に高かった。10 歳代から 30 歳代は 40 歳代以上と比較して「参加（実施）の仕方が分からない。活動に関する情報が得られない」が相対的に高かった。

若年層には参加促進に向けた環境整備、高齢者には市民活動団体の理解度・認知度向上などの周知活動を行うことにより、参加率を高めていく必要がある。

【性別】

	参加（実施）する 時間がない	参加（実施）の仕方が分からない。 活動に関する情報が得られない	職場や家族の理解が得られない	馴染みがない NPO法人などの市民活動団体に	興味・関心がない	行政がやるべきことだと思う	その他	無回答
男 N=493	37.3	33.5	1.6	41.6	31.8	7.3	5.9	0.8
女 N=638	37.8	36.4	1.9	37.0	20.4	2.2	6.9	2.4

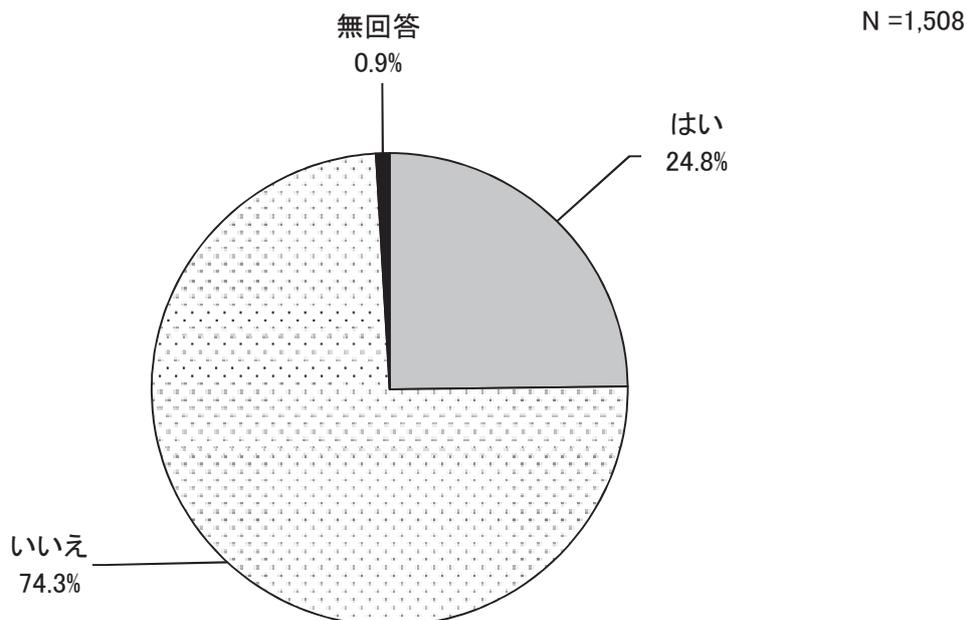
【年齢別】

	参加（実施）する 時間がない	参加（実施）の仕方が分からない。 活動に関する情報が得られない	職場や家族の理解が得られない	馴染みがない NPO法人などの市民活動団体に	興味・関心がない	行政がやるべきことだと思う	その他	無回答
10歳代 N=31	41.9	41.9	-	41.9	25.8	-	6.5	3.2
20歳代 N=116	37.9	46.6	1.7	37.1	31.9	3.4	4.3	-
30歳代 N=176	44.9	41.5	1.7	47.7	30.1	6.3	1.7	0.6
40歳代 N=236	53.0	34.7	3.0	38.6	20.8	3.0	4.7	-
50歳代 N=226	46.0	38.5	1.8	38.5	24.8	6.6	4.4	0.9
60～64歳 N=134	33.6	35.8	1.5	47.0	16.4	4.5	6.7	-
65～69歳 N=146	24.0	31.5	2.1	31.5	28.1	5.5	11.0	1.4
70～74歳 N=124	18.5	21.8	-	33.9	27.4	4.8	7.3	6.5
75歳以上 N=85	14.1	16.5	1.2	24.7	24.7	5.9	21.2	9.4

6 子育て支援について

問 14 現在、あなたは18歳までの子供を子育て中ですか。(1つだけ○を付けてください)

子育て中の方は 24.8%



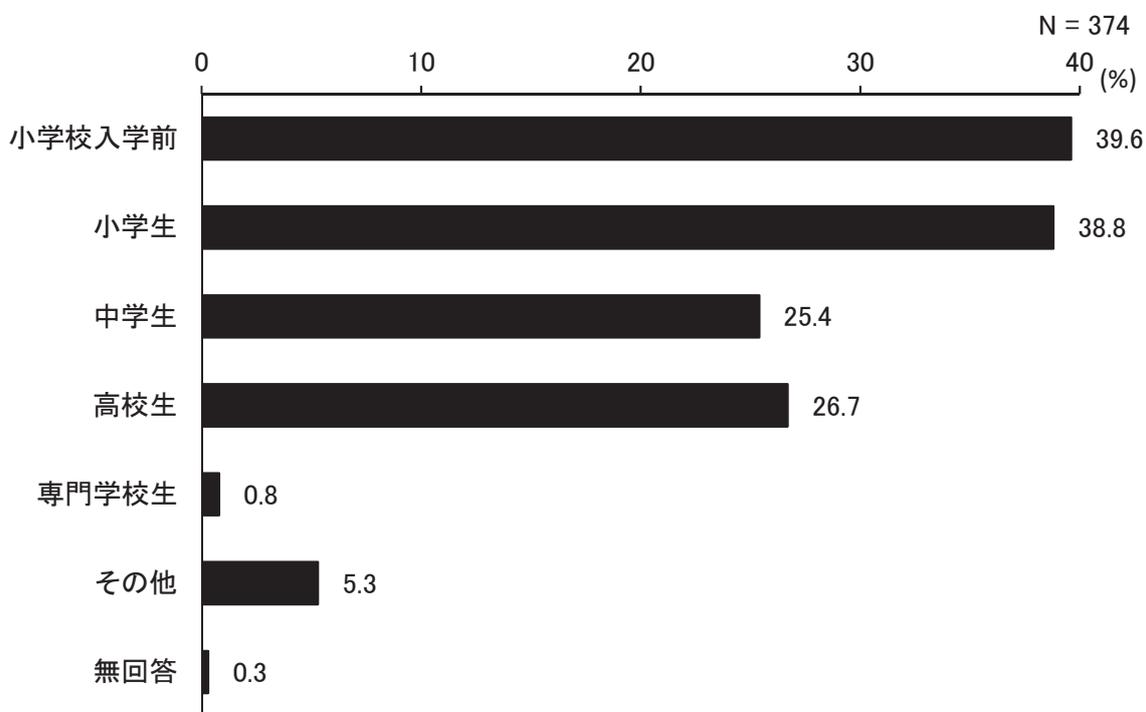
「はい」は24.8%だった。年齢別で見ると、30歳代、40歳代は「はい」の回答割合が6割を超えている。

【年齢別】

	はい	いいえ	無回答
10歳代 N=32	6.3	93.8	-
20歳代 N=122	15.6	84.4	-
30歳代 N=184	65.8	33.7	0.5
40歳代 N=263	65.0	34.6	0.4
50歳代 N=262	20.6	79.0	0.4
60~64歳 N=167	1.2	98.8	-
65~69歳 N=176	0.6	98.9	0.6
70~74歳 N=165	1.2	97.0	1.8
75歳以上 N=129	-	95.3	4.7

問 15 問 14 で「1. はい」とお答えされた方に伺います。あなたの子供は下記のどれに該当しますか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

20 歳代と 30 歳代は「小学校入学前」、40 歳代は「小学生」の子供が多い



「小学校入学前」が 39.6% で最も高く、次いで「小学生」が 38.8% で高かった。

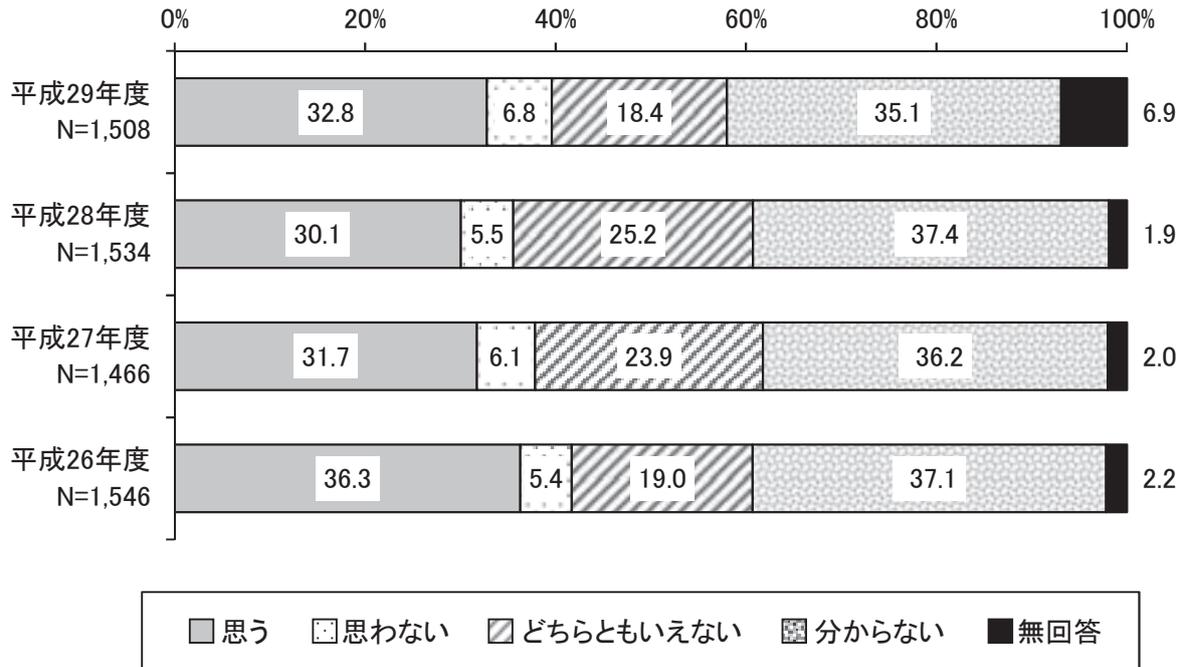
年齢別でみると、子育て世代である 20 歳代と 30 歳代は「小学校入学前」、40 歳代は「小学生」、50 歳代は「高校生」の割合が高かった。

【年齢別】

	小学校入学前	小学生	中学生	高校生	専門学校生	その他	無回答
10 歳代 N=2	50.0	-	-	50.0	-	-	-
20 歳代 N=19	73.7	10.5	-	-	-	21.1	-
30 歳代 N=121	72.7	41.3	9.1	2.5	-	4.1	0.8
40 歳代 N=171	24.0	46.8	34.5	36.8	1.2	3.5	-
50 歳代 N=54	3.7	14.8	40.7	59.3	1.9	9.3	-
60~64 歳 N=2	-	100.0	50.0	-	-	-	-
65~69 歳 N=1	-	-	-	100.0	-	-	-
70~74 歳 N=2	-	100.0	100.0	-	-	-	-
75 歳以上 N=0	-	-	-	-	-	-	-

問 16 市では、保育所整備、子育て支援ひろば、子供の医療費助成など子育てに関する支援を行っています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。（1つだけ○を付けてください）

市の支援により子育てがしやすくなっていると思う人は 32.8%

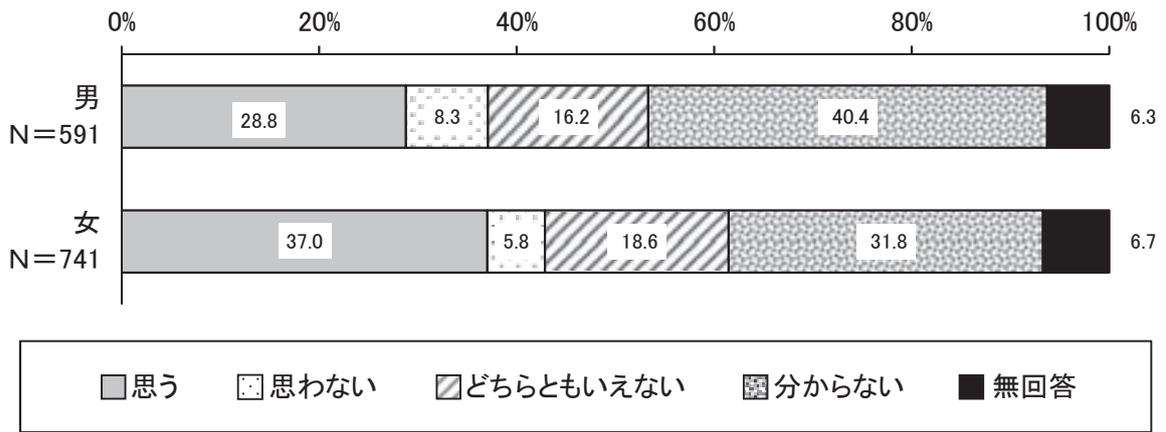


「思う」が 32.8%となり、「思わない」の 6.8%を 26.0 ポイント上回った。過去の調査と比較すると、平成 26 年度調査から平成 28 年度調査まで「思う」の割合は年々低下していたが、今回は「思う」の割合が増加に転じ、過去 4 年間の調査で 2 番目に高い割合となった。

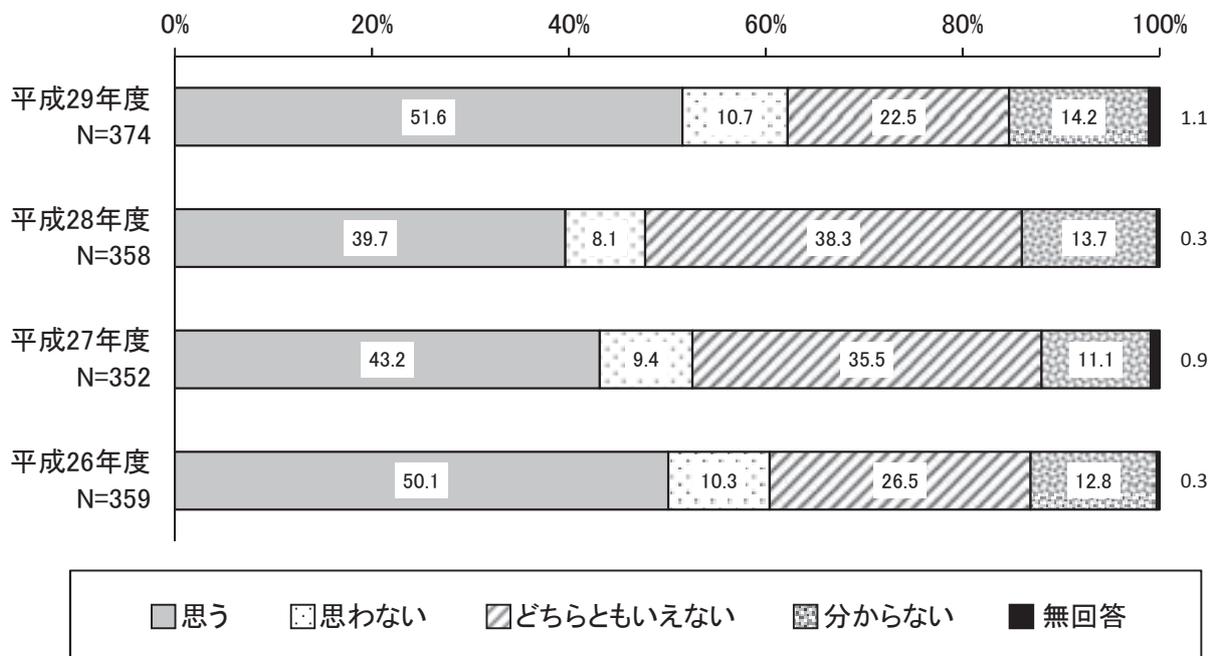
性別でみると、「思う」の回答割合は男性が 28.8%、女性が 37.0%となり、女性の方が 8.2 ポイント高かった。

問 14 で「子育て中である」と回答した層は、子育てがしやすくなっていると「思う」の回答割合が 51.6%と全体の結果よりも 18.8 ポイント高かった。過去の調査と比較すると、平成 26 年度調査から平成 28 年度調査まで「思う」の割合は年々低下していたが、今回は「思う」の割合が増加に転じ、過去 4 年間の調査で最も高い割合となった。子ども・子育て支援新制度が 3 年目を迎え、徐々に定着してきたことや、保育所等を整備したことにより待機児童対策が進んだことが、「思う」の割合が増加した主な要因と考える。

【性別】

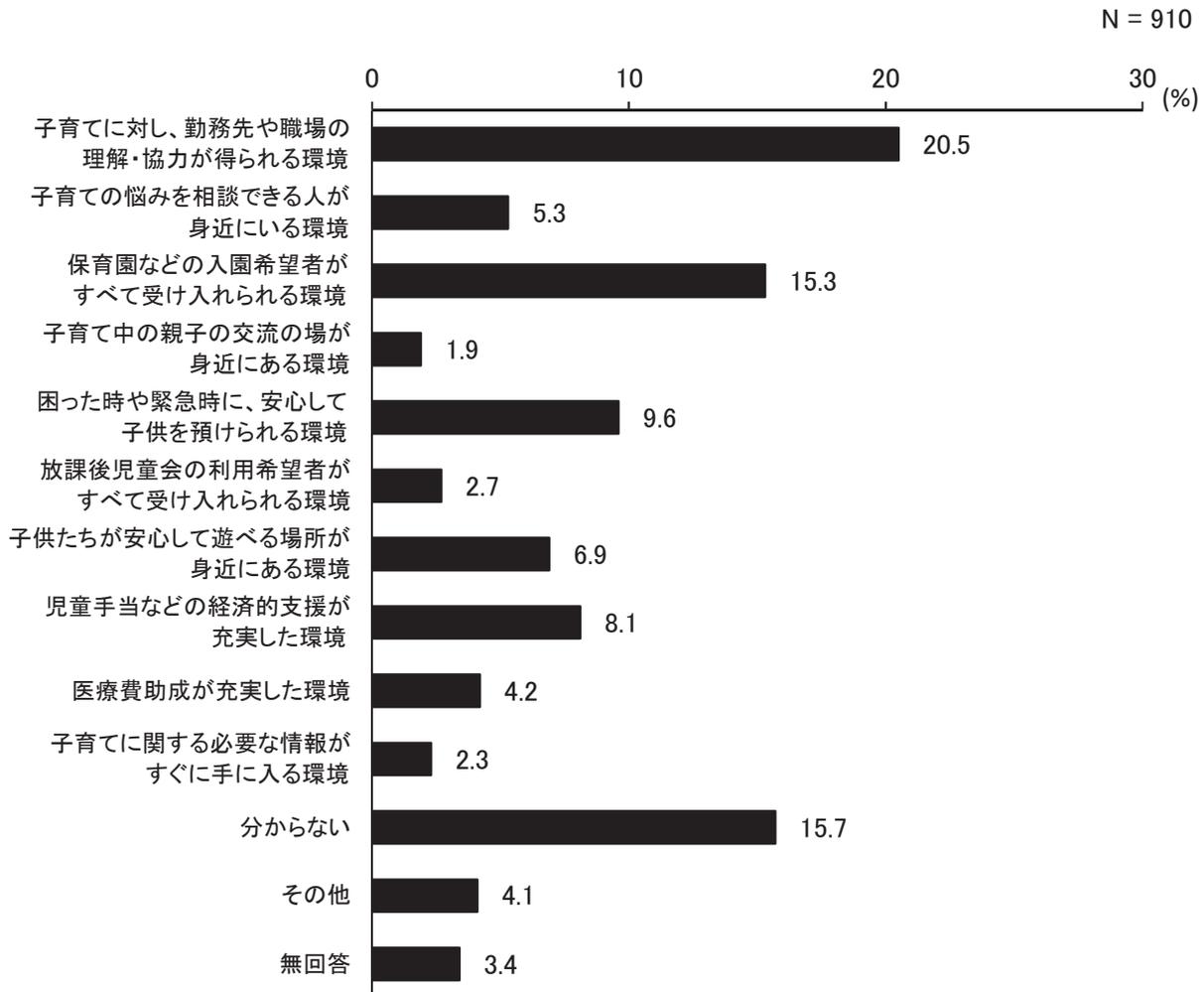


【子育て中の人の回答】



問 17 問 16 で「2. 思わない」「3. どちらともいえない」「4. 分からない」とお答えされた方に伺います。どのような環境を整えれば子育てがしやすくなったと感じると思いますか。(1つだけ○を付けてください)

勤務先や職場の理解・協力が得られる環境が必要

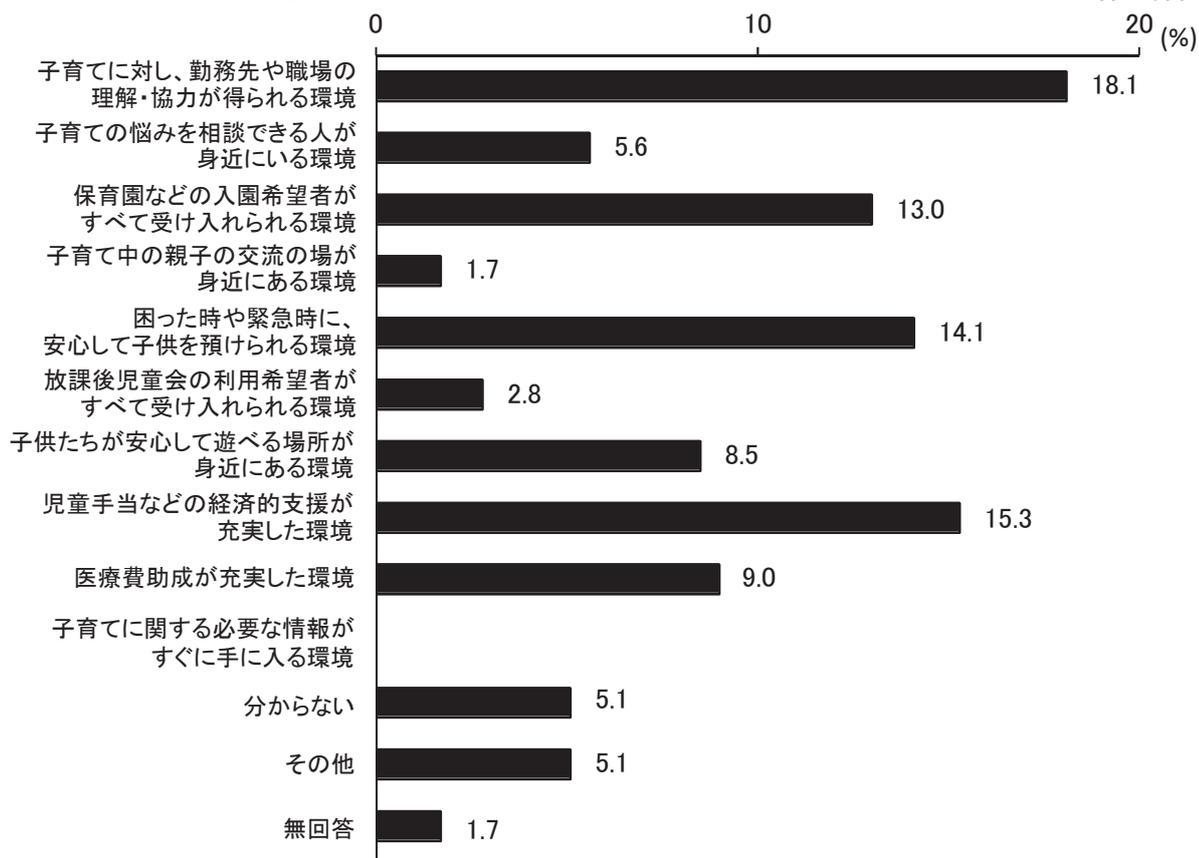


「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」が 20.5%で最も高かった。また、問 14 で「子育て中である」と回答した層もこれに対する回答割合が 18.1%と最も高かったことから、子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が一層求められている。昨年度最も回答割合が高かった「保育園などの入園希望者がすべて受け入れられる環境」は 15.3%であり「分からない」を含めると 3 番目となった。これは、保育所等の整備が進み待機児童数が減少したことに伴い、回答割合が減少したと思われる。残りの項目はいずれも回答割合が 10%未満となった。

問 15 でたずねた子育て中の子供別にみると、小学校入学前は「保育園などの入園希望者がすべて受け入れられる環境」(20.3%)が最も高かった。小学生は「困った時や緊急時に、安心して子供を預けられる環境」(20.8%)が最も高く、中学生は「児童手当などの経済的支援が充実した環境」(21.7%)が最も高くなっており、子供の成長とともに、子育て環境へのニーズも変化している。

【子育て中の人の回答】①

N = 177



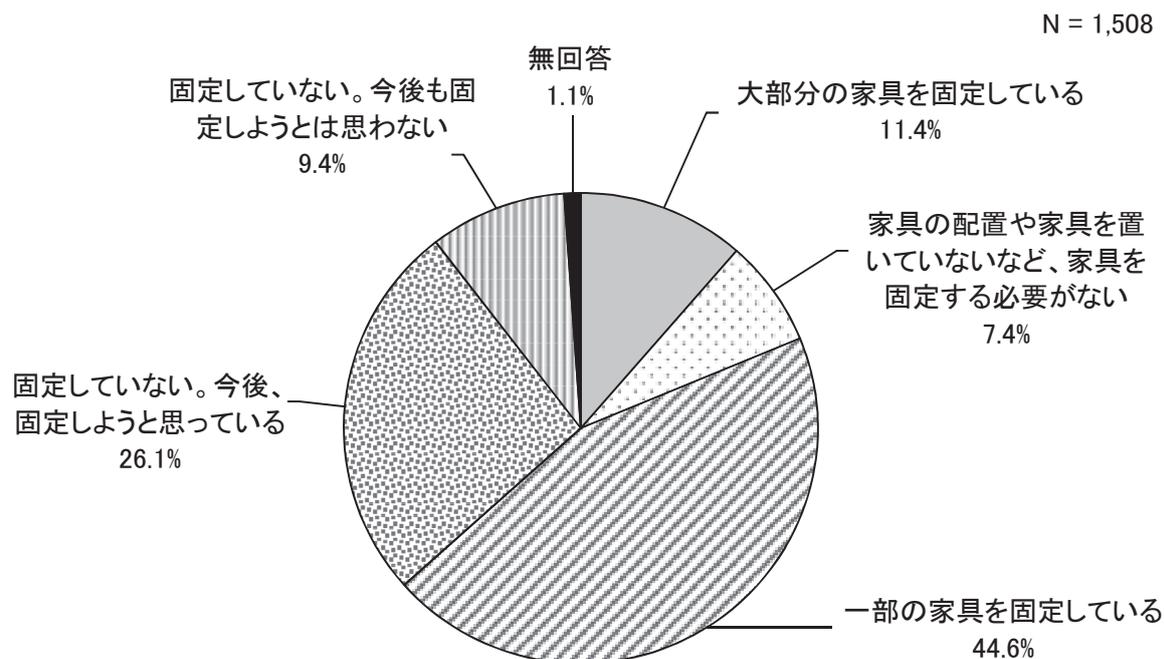
【子育て中の人の回答】②

	子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境	子育ての悩みを相談できる人が身近にいる環境	保育園などの入園希望者がすべて受け入れられる環境	子育て中の親子の交流の場が身近にある環境	困った時や緊急時に、安心して子供を預けられる環境	放課後児童会の利用希望者がすべて受け入れられる環境	子供たちが安心して遊べる場所が身近にある環境	児童手当などの経済的支援が充実した環境	医療費助成が充実した環境	子育てに関する必要な情報がすぐに手に入る環境	分からない	その他	無回答
小学校入学前 N=59	16.9	6.8	20.3	1.7	15.3	3.4	1.7	15.3	6.8	-	1.7	8.5	1.7
小学生 N=72	13.9	5.6	6.9	1.4	20.8	5.6	13.9	12.5	9.7	-	2.8	4.2	2.8
中学生 N=46	17.4	8.7	6.5	2.2	10.9	4.3	8.7	21.7	8.7	-	2.2	6.5	2.2
高校生 N=53	20.8	1.9	11.3	1.9	11.3	3.8	7.5	15.1	11.3	-	11.3	3.8	-
専門学校生 N=2	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0
その他 N=10	30.0	-	40.0	-	10.0	-	-	10.0	-	-	10.0	-	-

7 市民の地震への備えについて

問 18 あなたのご家庭では、家具が転倒しないような対策を行っていますか。（1つだけ〇を付けてください）

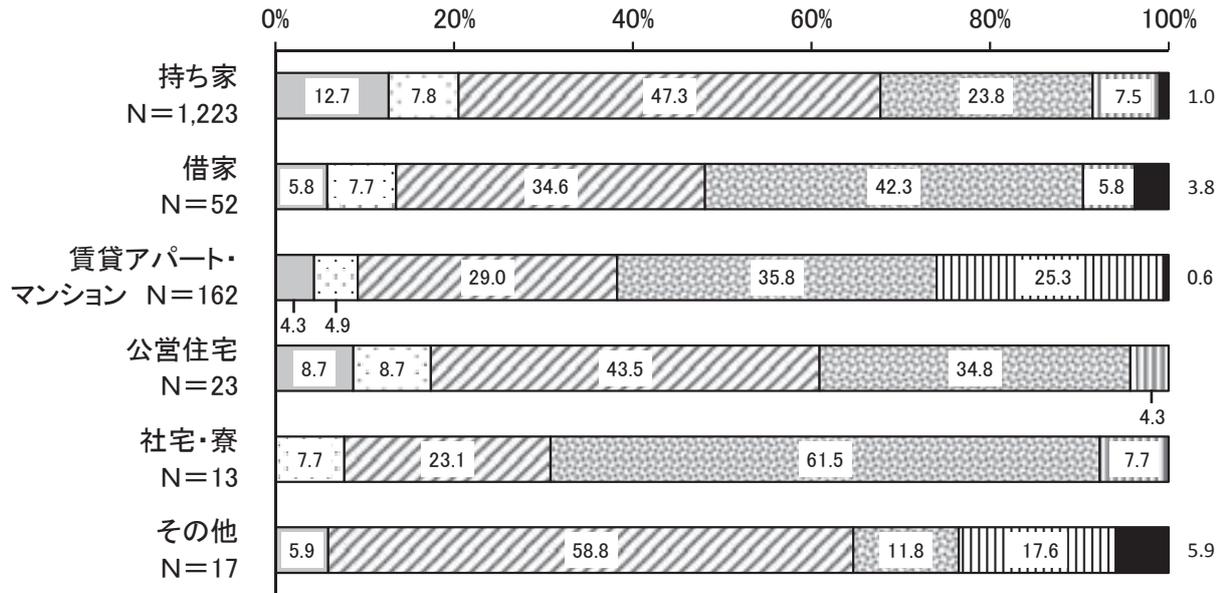
「一部の家具を固定している」人が最も多い



「大部分の家具を固定している」「家具の配置や家具を置いていないなど、家具を固定する必要がない」「一部の家具を固定している」を合わせた『固定している』は 63.4%となった。平成 28 年度調査の 63.6%と比較すると横ばい傾向である。

今後、『固定している』の割合を高めるためには「固定していない。今後固定しようと思っている」層（26.1%）への対策が欠かせない。特に、この層が多い居住形態は、社宅・寮（61.5%）、借家（42.3%）、賃貸アパート・マンション（35.8%）、公営住宅（34.8%）であり、賃貸アパート等において高いため、居住者への啓発のみならず、オーナーへの理解も並行して行う必要がある。

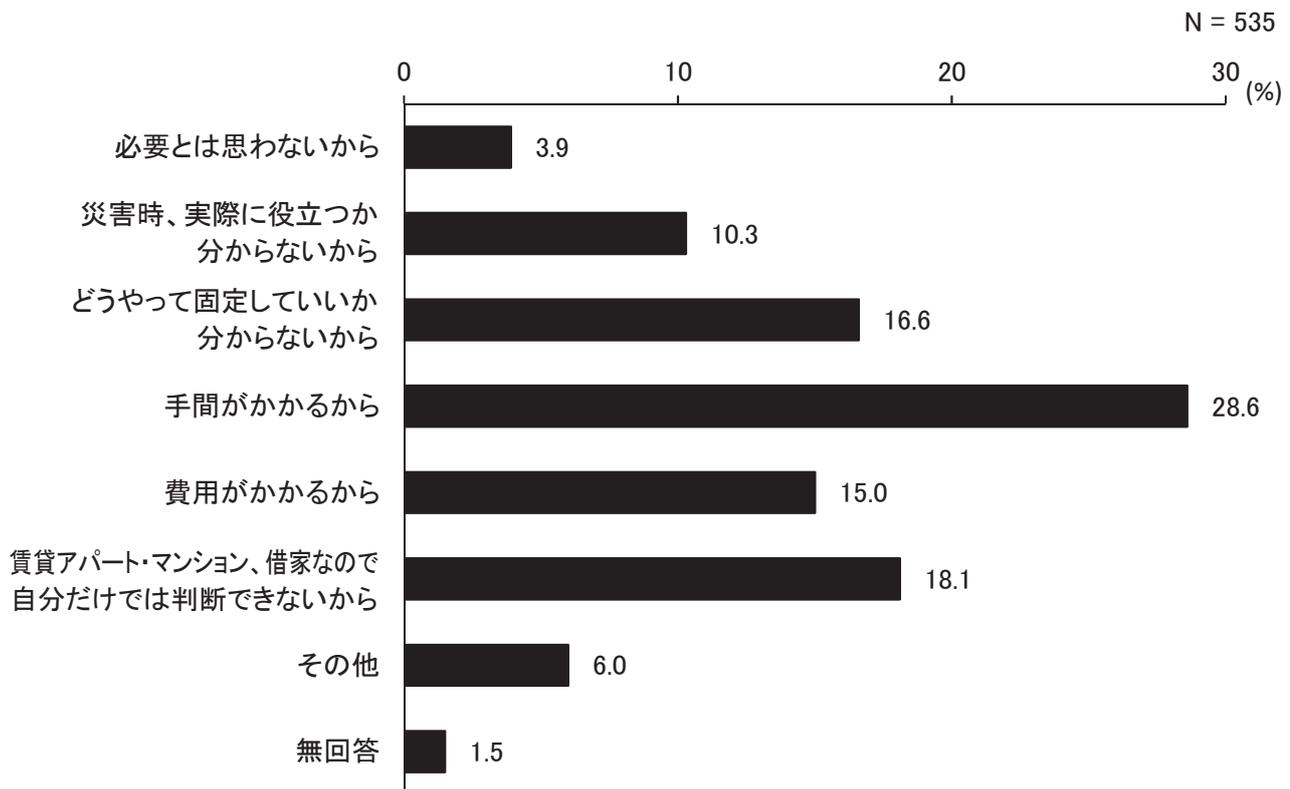
【居住形態別】



- 大部分の家具を固定している
- 家具の配置や家具を置いていないなど、家具を固定する必要がない
- ▨ 一部の家具を固定している
- ▩ 固定していない。今後、固定しようと思っている
- 固定していない。今後も固定しようとは思わない
- 無回答

問 19 問 18 で「4. 固定していない。今後、固定しようと思っている」「5. 固定していない。今後も固定しようとは思わない」とお答えされた方に伺います。固定していない理由は何ですか。(1つだけ○を付けてください)

家具の固定対策をしていない理由は「手間がかかるから」が最も多い



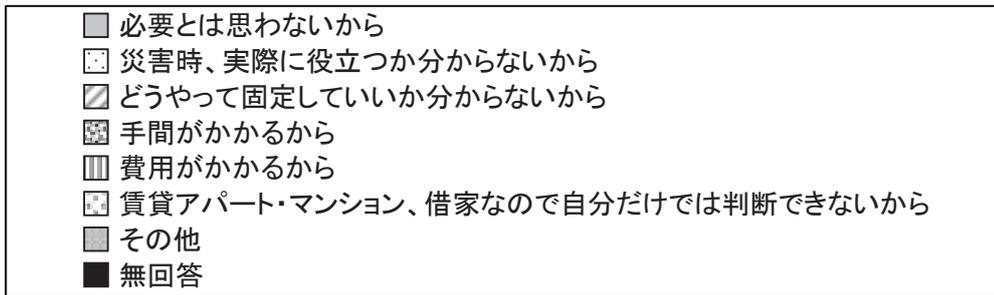
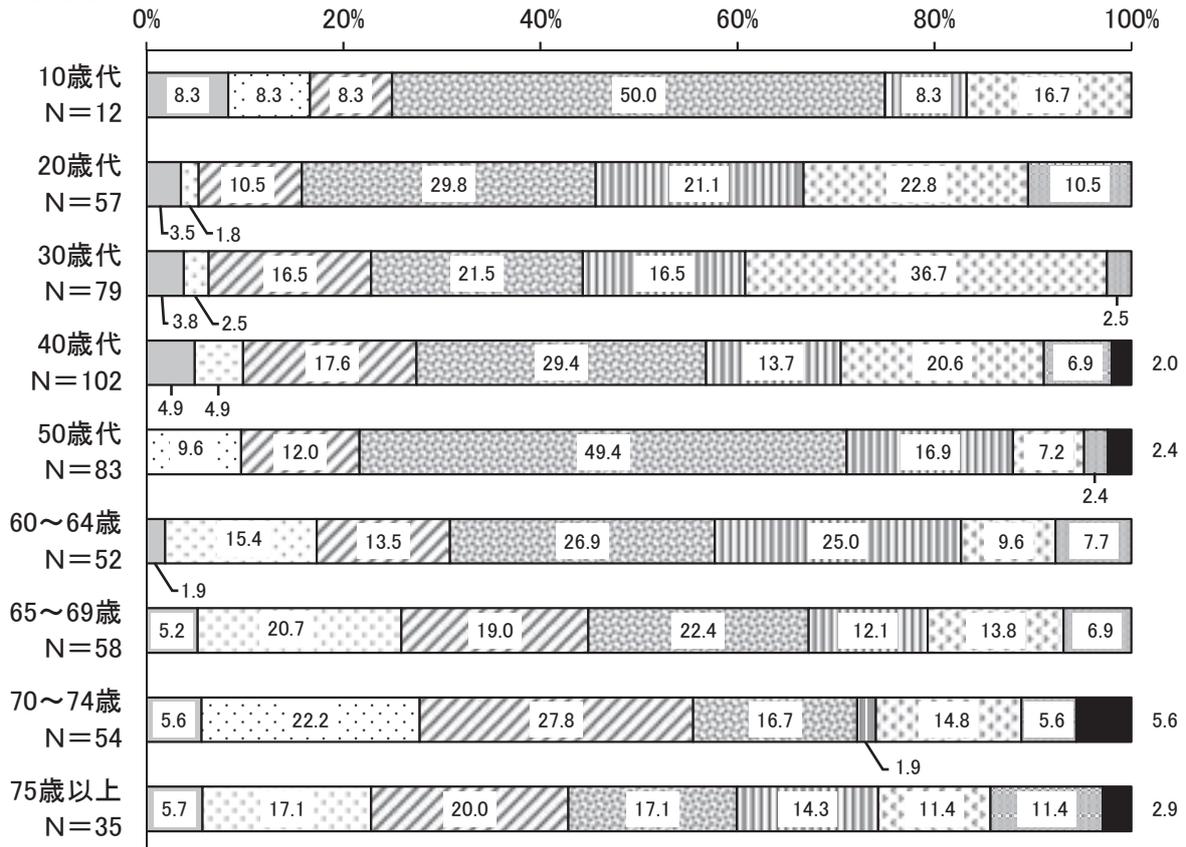
「手間がかかるから」が 28.6%で最も高かった。次いで、「賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから」(18.1%)、「どうやって固定していいかわからないから」(16.6%)の順に高かった。

「必要とは思わないから」(3.9%)、「災害時、実際に役立つかわからないから」(10.3%)といった減災効果の周知不足が起因する項目は少数意見にとどまった。

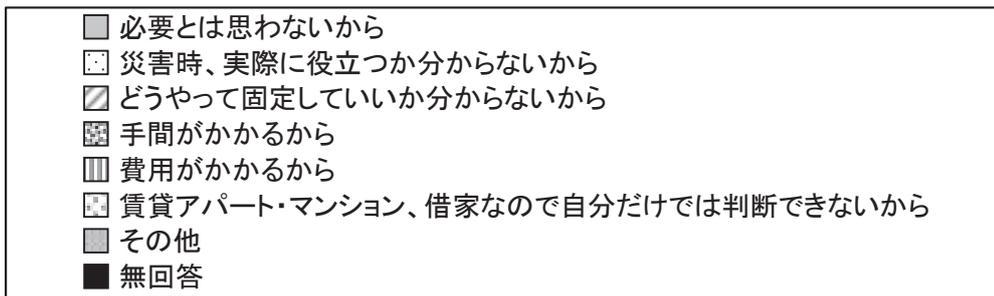
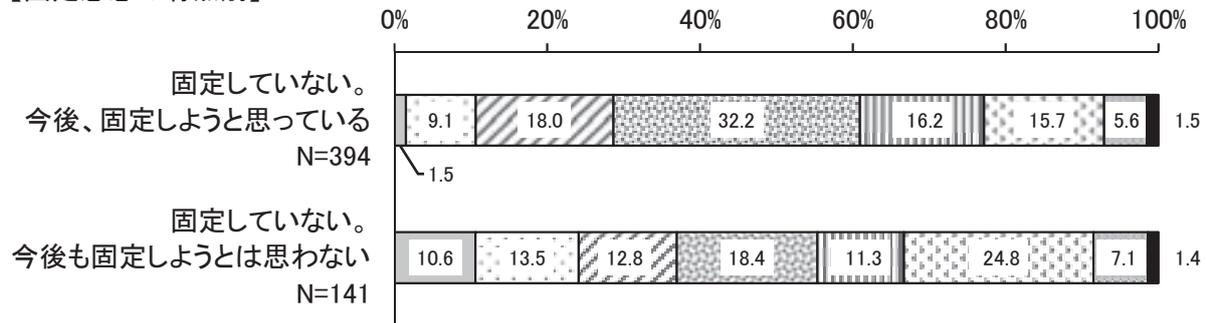
年齢別でみると、「手間がかかるから」は 10 歳代と 50 歳代が約 50%と特に高かった。これは、実際に家具の固定を経験したことがないことも考えられるため、家具の配置変更による簡単な対策についても啓発する。

問 18 で「固定していない。今後、固定しようと思っている」と回答した人は、「どうやって固定していいかわからないから」「手間がかかるから」「費用がかかるから」の回答割合が、66.4%と半数以上であり、「固定していない。今後も固定しようとは思わない」と回答した人は「賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから」の回答割合が24.8%と高かった。このため、実演を交えた講座等を実施して家具の固定の普及を推進していく。

【年齢別】

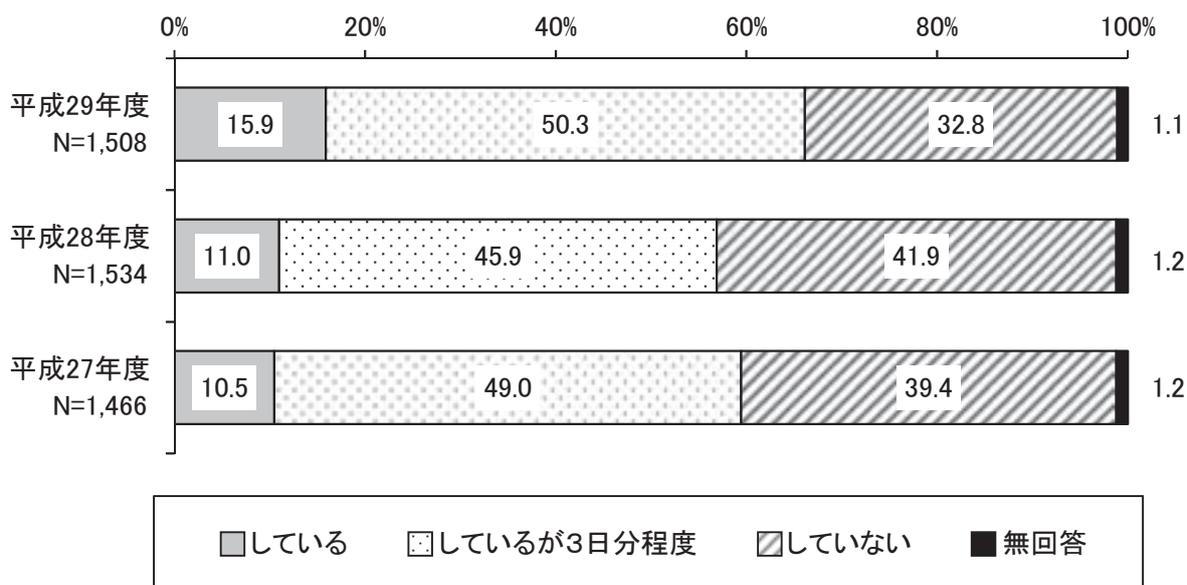


【固定意思の有無別】



問 20 あなたのご家庭では、災害の発生に備え 7 日分以上の水や食糧を備蓄していますか。
 ※ご家庭で、冷蔵・冷凍庫に保有している食品やレトルト食品、缶詰、ウォーターサーバーの飲料水など、日ごろ買い置きしている食品も含めてお答えください。
 (1つだけ○を付けてください)

7日分以上の水や食糧を備蓄している人は 15.9%



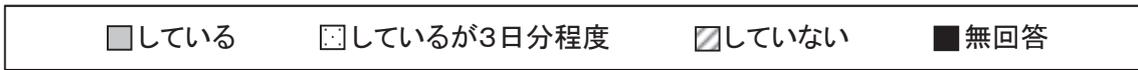
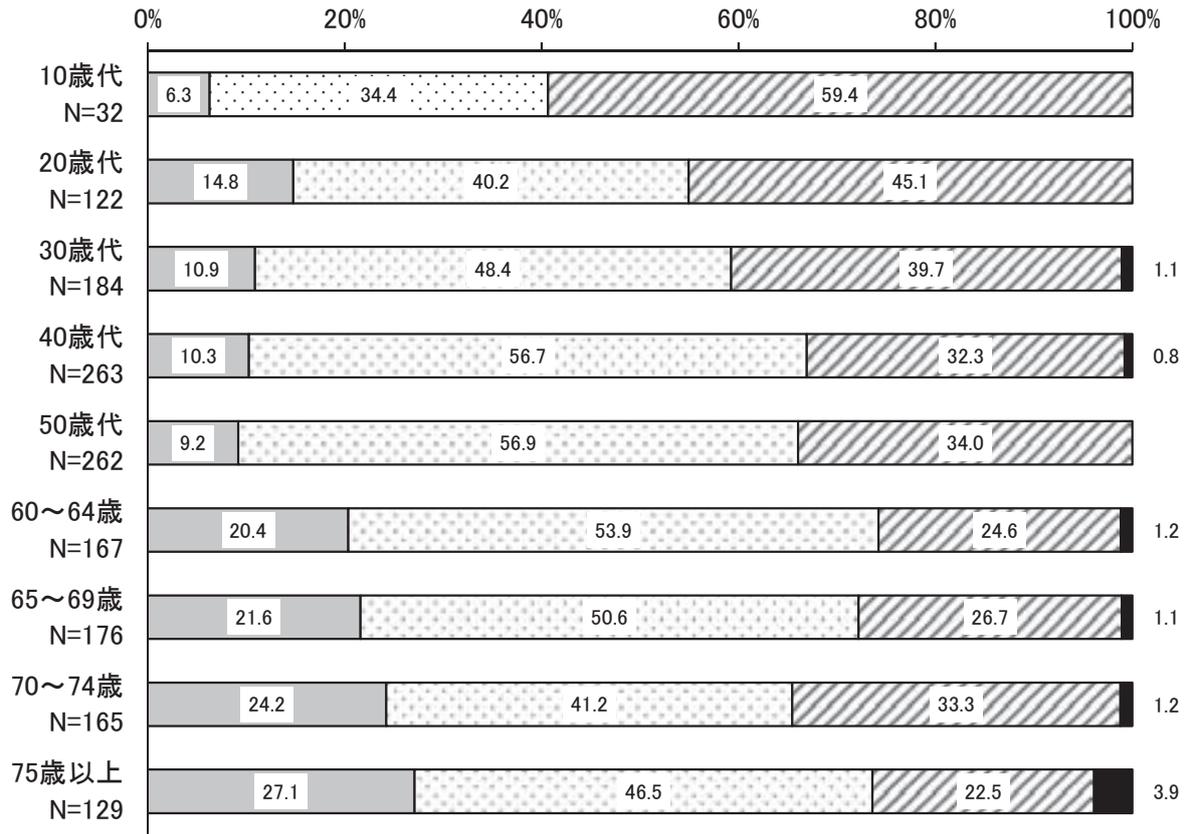
7日分以上の水や食糧の備蓄をしている人は全体の 15.9%となった。「しているが3日分程度」(50.3%) と合わせた『している』は 66.2%となった。

平成 28 年度調査と比較すると (7 日分以上) 「している」は 4.9 ポイント、「しているが3日分程度」と合わせた『している』は 9.3 ポイント増加、『している』は平成 27 年度調査以降、最も高い回答割合となった。

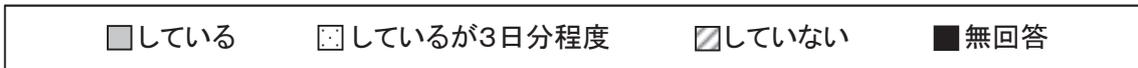
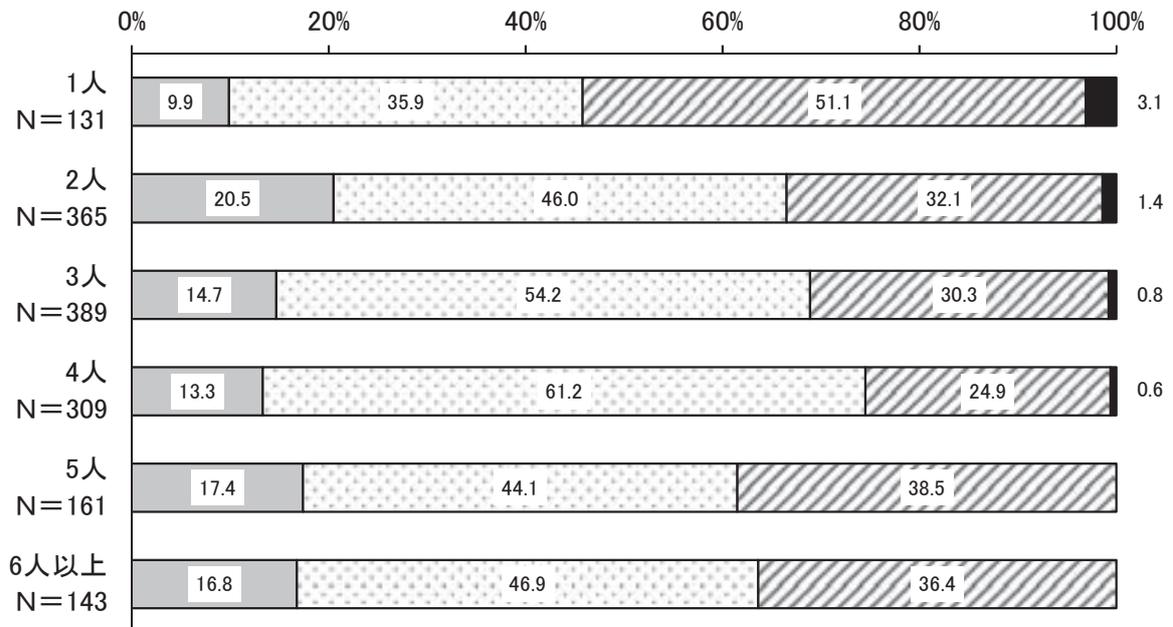
年齢別でみると、年齢が高くなるに伴い『している』の割合も高まる傾向がみられた。「していない」は 10 歳代 (59.4%) と 20 歳代 (45.1%) が高かった。

家族数別でみると、「していない」の回答割合が最も高かったのは「1人」の 51.1%。このため、特に10歳代、20歳代や1人暮らしの方への備蓄の啓発が必要である。「していない」の回答割合が最も低かったのは「4人」の 24.9%だった。

【年齢別】

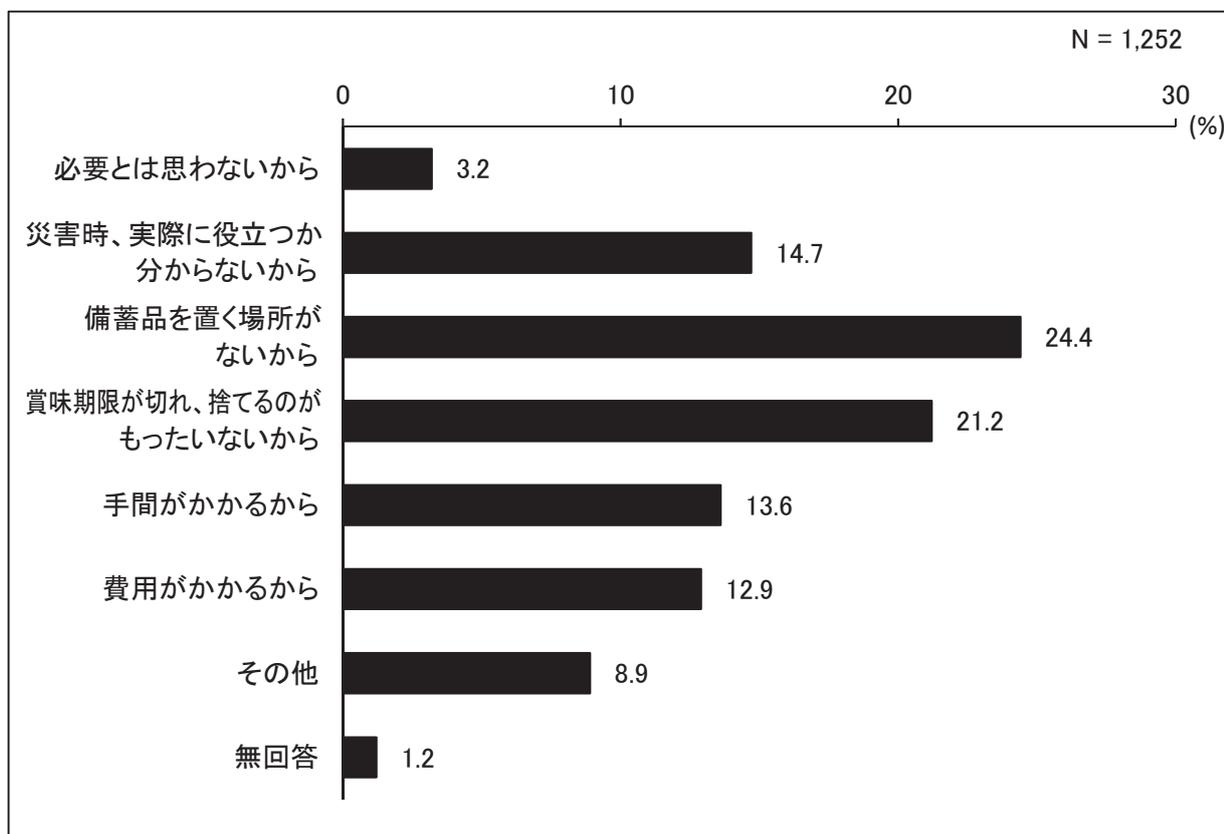


【家族数別】



問 21 問 20 で「2. しているが3日分程度」「3. していない」とお答えされた方に伺います。7日分以上の備蓄をしない理由は何ですか。(1つだけ○を付けてください)

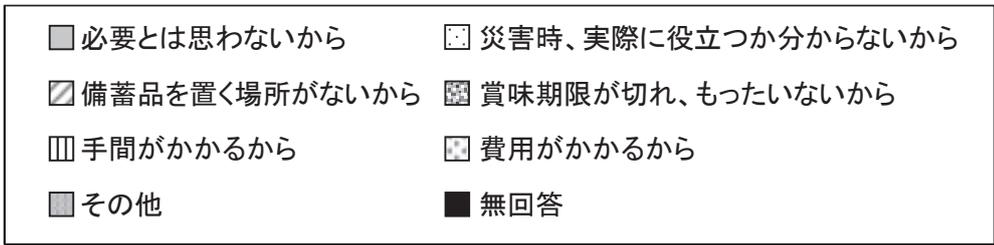
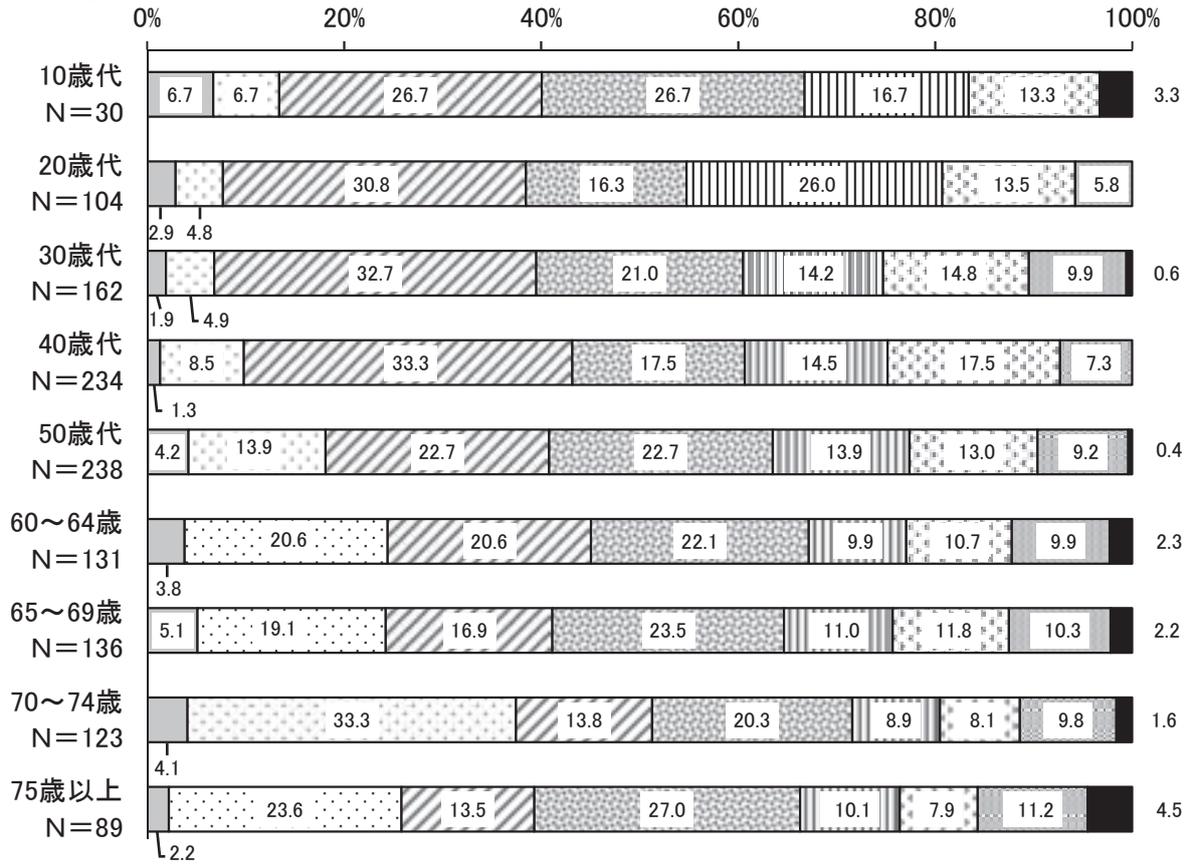
備蓄を「必要とは思わないから」と考えている人は少数



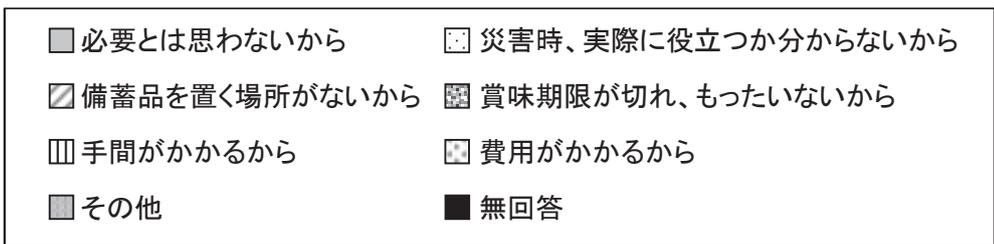
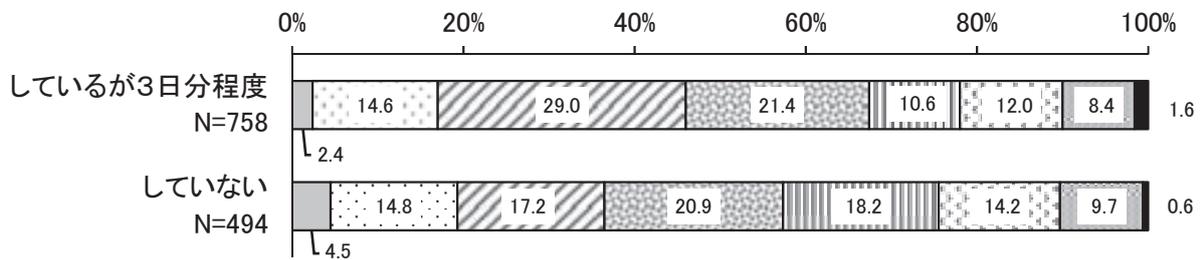
「必要とは思わないから」は3.2%にとどまり、大半の人が備蓄は必要と思いながらも、何らかの理由で7日分以上の備蓄ができていないことが分かった。備蓄ができていない理由としては、「備蓄品を置く場所がないから」が24.4%で最も高く、次いで「賞味期限が切れ、捨てるのがもったいないから」の21.2%となった。また、問20で「しているが3日分程度」と回答した人は相対的に「備蓄品を置く場所がないから」の回答割合が高かった。「していない」と回答した人は「手間がかかるから」の回答割合が高かった。このため、日常の食材を多めに用意し、使った分を補充するローリングストックなどの備蓄方法等、日常生活の中でできる備蓄も広報していく。

年齢別でみると、「災害時、実際に役立つかわからないから」は50歳代以下と比較して60歳以上の回答割合が高かった。「備蓄品を置く場所がないから」は20歳代から40歳代の回答割合が高かった。年齢により備蓄をしない理由が異なることから、年齢に応じた周知広報活動が必要といえる。

【年齢別】

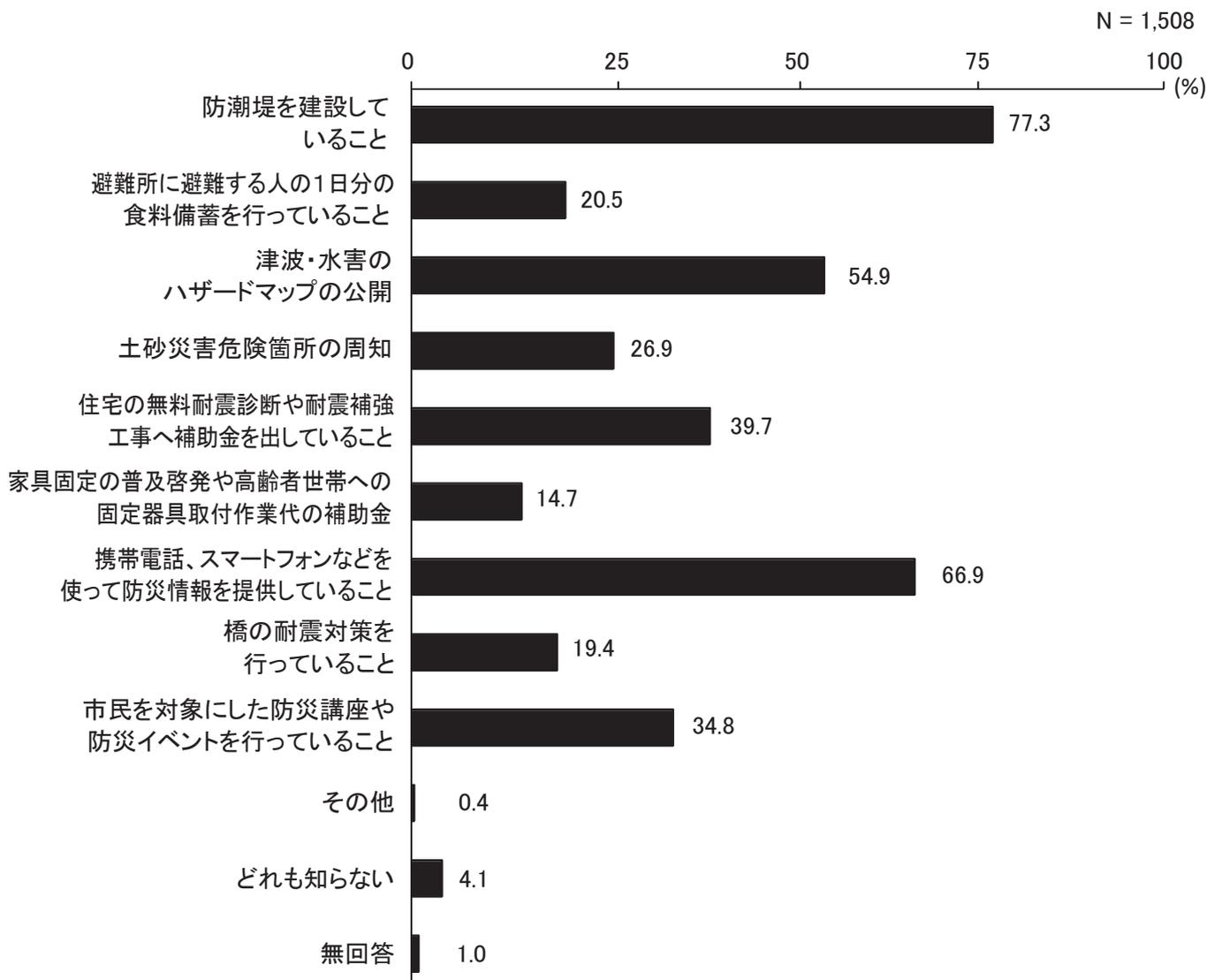


【備蓄程度別】



問 22 市が行っている防災対策のうち、あなたがお存じのものは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

最も認知度が高いのは「防潮堤を建設していること」



「防潮堤を建設していること」が77.3%で最も高く、次いで「携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること」(66.9%)、「津波・水害のハザードマップの公開」(54.9%)の順に高かった。認知度が50%以上となったのは、この3項目だけだった。特に「携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること」が認知されているのは、緊急速報メールなどを受信しているためと推察でき、また年齢別、居住区別に大差がないことから携帯電話等の普及により防災情報入手手段の1つとなっていることがうかがえる。最も低かったのは「家具固定の普及啓発や高齢者世帯へ固定器具取付作業代の補助金を出していること」の14.7%で、補助金の対象となる65歳以上でも、認知度は20~30%である。「どれも知らない」は4.1%だった。このため、自主防災隊等を通じて、対象世帯への家具固定の補助事業の普及を図っていく。

【年齢別】

	防潮堤を建設していること	避難所に避難する人の1日分の食料備蓄を行っていること	津波・水害のハザードマップの公開	土砂災害危険箇所の周知	住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること	固定器具取付作業代の補助金	家具固定の普及啓発や高齢者世帯への	防災情報を提供していること	携帯電話、スマートフォンなどを使って防災情報を提供していること	橋の耐震対策を行っていること	市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること	その他	どれも知らない	無回答
10歳代 N=32	59.4	18.8	43.8	9.4	3.1	-	59.4	6.3	28.1	-	9.4	-		
20歳代 N=122	54.9	11.5	47.5	15.6	7.4	1.6	60.7	12.3	32.0	-	7.4	-		
30歳代 N=184	73.4	9.8	59.8	25.0	19.0	7.6	62.0	18.5	27.7	0.5	3.8	1.6		
40歳代 N=263	75.3	16.3	60.5	23.6	36.1	7.2	67.7	16.3	24.3	-	4.9	0.4		
50歳代 N=262	82.1	18.7	58.4	31.7	39.3	12.2	71.0	16.4	35.5	-	3.8	0.4		
60~64歳 N=167	85.0	22.8	59.3	34.1	48.5	21.0	76.6	23.4	38.9	-	1.8	0.6		
65~69歳 N=176	85.2	29.0	51.7	30.1	60.2	22.2	75.6	20.5	41.5	-	2.8	0.6		
70~74歳 N=165	82.4	23.6	47.9	29.1	53.3	23.0	61.8	28.5	43.0	1.2	2.4	2.4		
75歳以上 N=129	75.2	37.2	45.7	23.3	59.7	30.2	54.3	24.8	44.2	0.8	5.4	2.3		

【居住区別】

	防潮堤を建設していること	避難所に避難する人の1日分の食料備蓄を行っていること	津波・水害のハザードマップの公開	土砂災害危険箇所の周知	住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること	固定器具取付作業代の補助金	家具固定の普及啓発や高齢者世帯への	防災情報を提供していること	携帯電話、スマートフォンなどを使って防災情報を提供していること	橋の耐震対策を行っていること	市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること	その他	どれも知らない	無回答
中区 N=294	75.9	18.7	59.5	27.9	37.8	14.6	67.0	13.9	33.0	-	4.1	1.0		
東区 N=225	80.9	19.1	55.6	18.7	41.3	14.7	72.4	14.7	32.9	0.4	4.4	0.9		
西区 N=215	83.7	16.7	64.2	28.4	41.9	13.5	63.7	17.7	37.7	1.4	4.2	0.5		
南区 N=194	93.3	22.2	63.9	16.5	40.2	16.5	69.1	25.3	37.1	-	1.0	-		
北区 N=173	68.2	22.0	57.2	33.5	37.6	15.6	68.2	16.8	35.3	-	4.6	-		
浜北区 N=224	68.8	18.3	45.5	22.3	36.6	9.4	64.3	17.4	30.4	-	4.5	0.9		
天竜区 N=174	69.0	29.3	33.9	43.1	43.1	18.4	63.8	35.6	39.7	0.6	6.3	3.4		

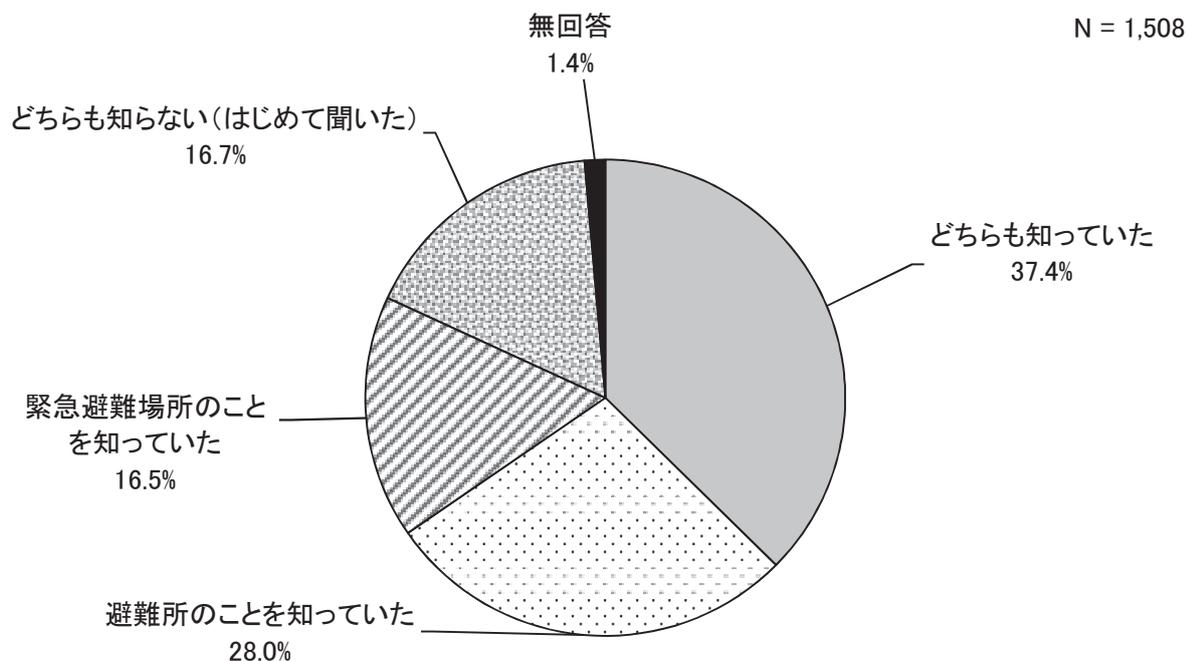
問 23 あなたは、避難所と緊急避難場所の違いや意味を知っていましたか。

※避難所：自宅の倒壊などにより生活が困難となり、短期間避難生活する場所。

※緊急避難場所：災害が起きた場合に、命を守るためまず一時的に逃げる場所。

(1つだけ○を付けてください)

避難所と緊急避難場所の違いや意味を「どちらも知っていた」は 37.4%



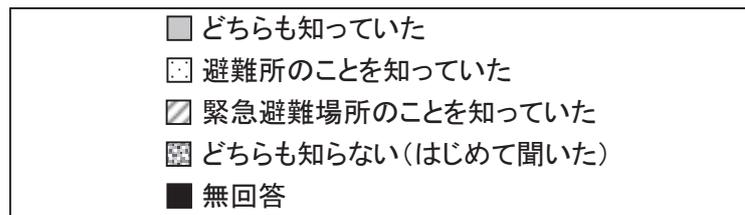
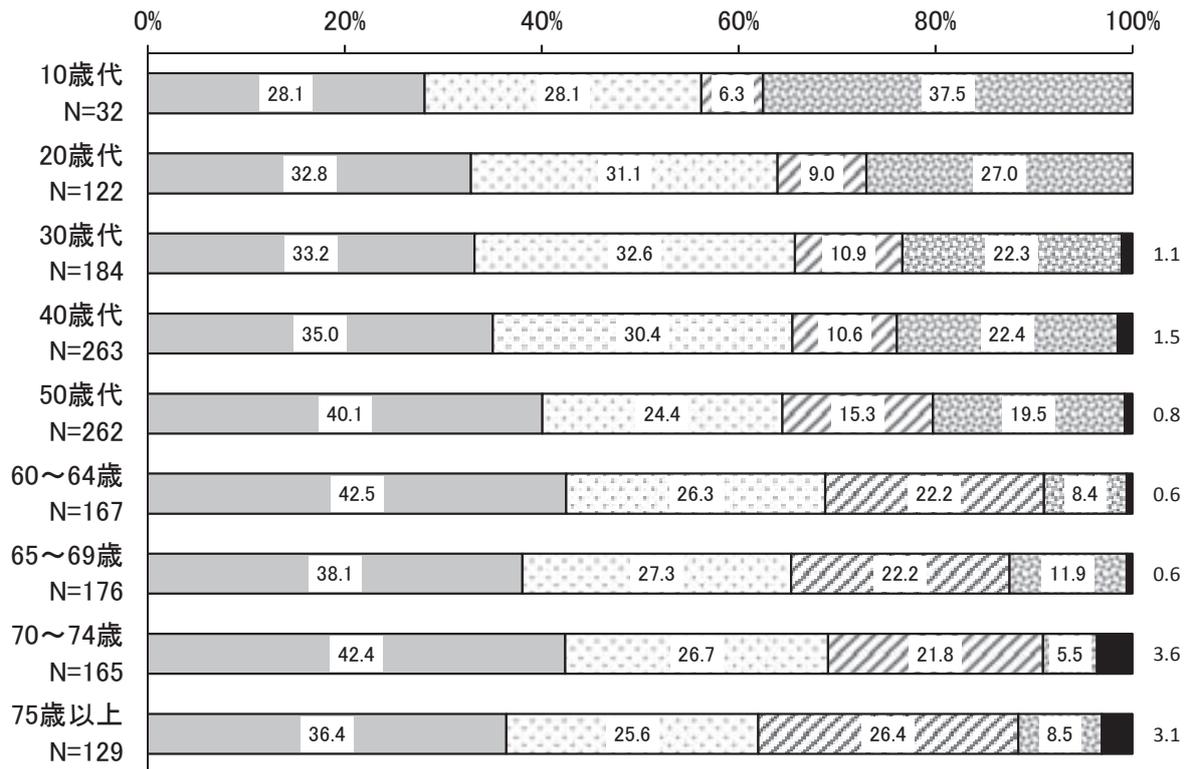
避難所と緊急避難場所の「どちらも知っていた」人は 37.4% だった。どちらかを知っている人を比較すると、「避難所を知っていた」が 28.0%、「緊急避難場所を知っていた」が 16.5% となり、避難所の方が認知度が高かった。「どちらも知らない (はじめて聞いた)」は 16.7% だった。

「どちらも知っていた」の回答割合を年齢別で見ると、60～64 歳が 42.5% で最も高く、10 歳代が 28.1% と最も低かった。

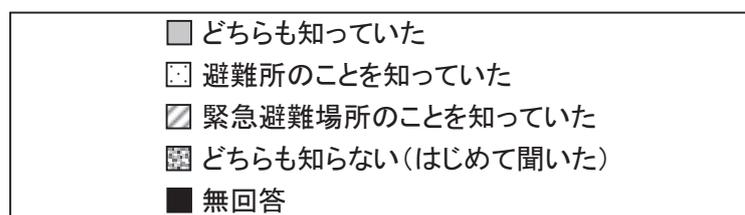
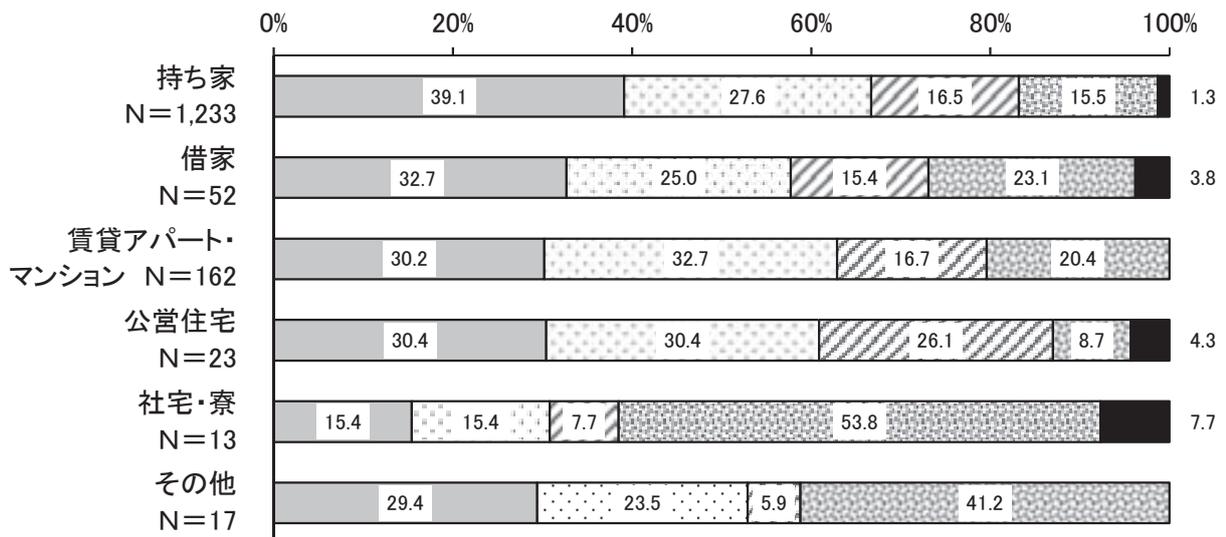
「どちらも知っていた」の回答割合を居住形態別で見ると、「社宅・寮」は 15.4% と低く、他の居住形態の場合と比較して約半数となっている。

今後は若年層にターゲットを絞った啓発活動に加え、社宅・寮の居住者等を対象とした啓発活動を行っていく必要がある。

【年齢別】



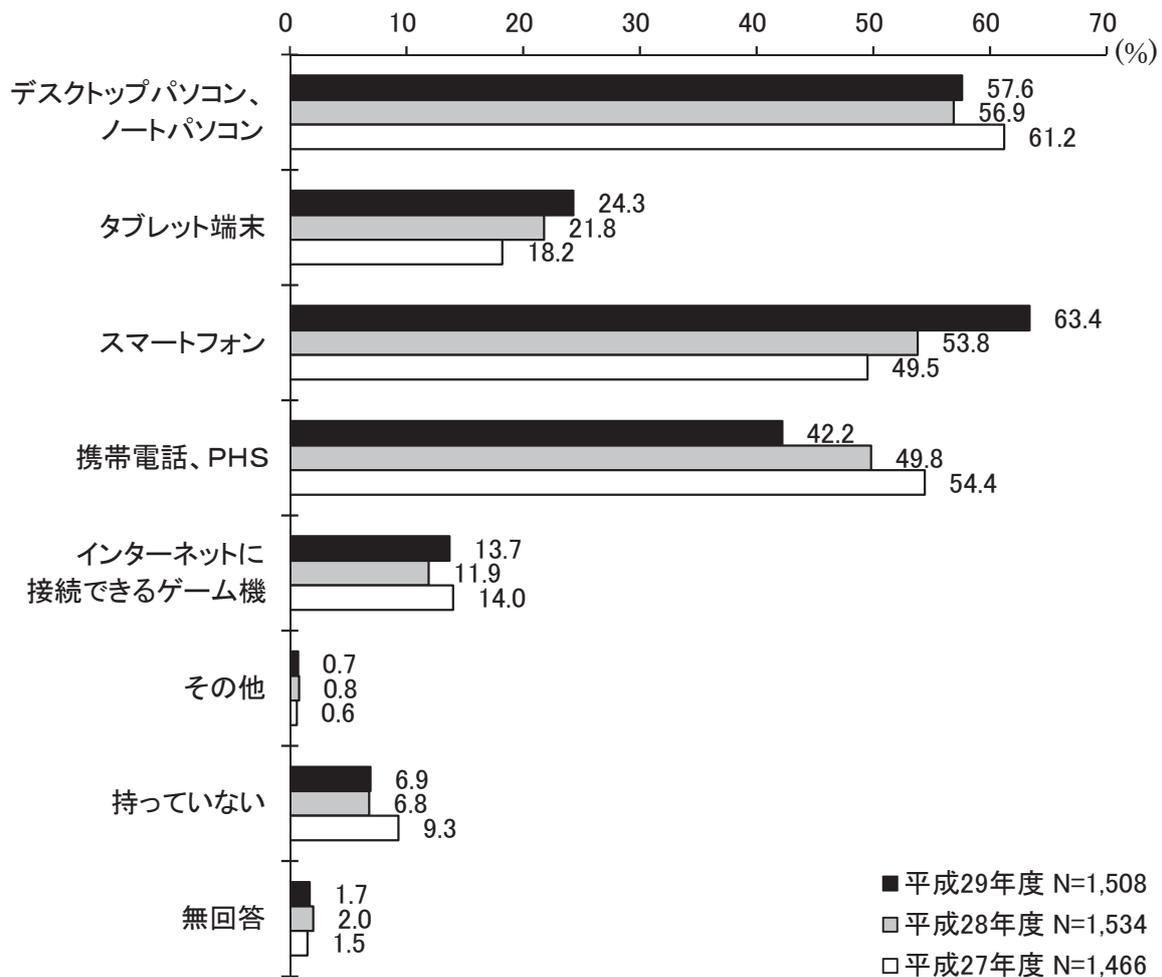
【居住形態別】



8 地域情報化について

問 24 あなたはご家庭で、次のような情報通信機器を利用していますか。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

「スマートフォン」の利用が「デスクトップパソコン、ノートパソコン」を上回る



「スマートフォン」が 63.4 %で最も高く、次いで「デスクトップパソコン、ノートパソコン」(57.6%)、「携帯電話、PHS」(42.2%)の順に高かった。

平成 27 年度調査からの推移をみると、「スマートフォン」は 49.5%→53.8%→63.4%と増加、本年度調査で初めて「スマートフォン」が「デスクトップパソコン、ノートパソコン」を上回った。「携帯電話、PHS」は 54.4%→49.8%→42.2%と年々利用率が低下している。「タブレット端末」は 24.3%と低いが、利用率は増加している。

年齢別にみると、40 歳代までにおいては「スマートフォン」の利用率が 90%程度と高く、60～64 歳までは「スマートフォン」が「携帯電話、PHS」を上回っている。

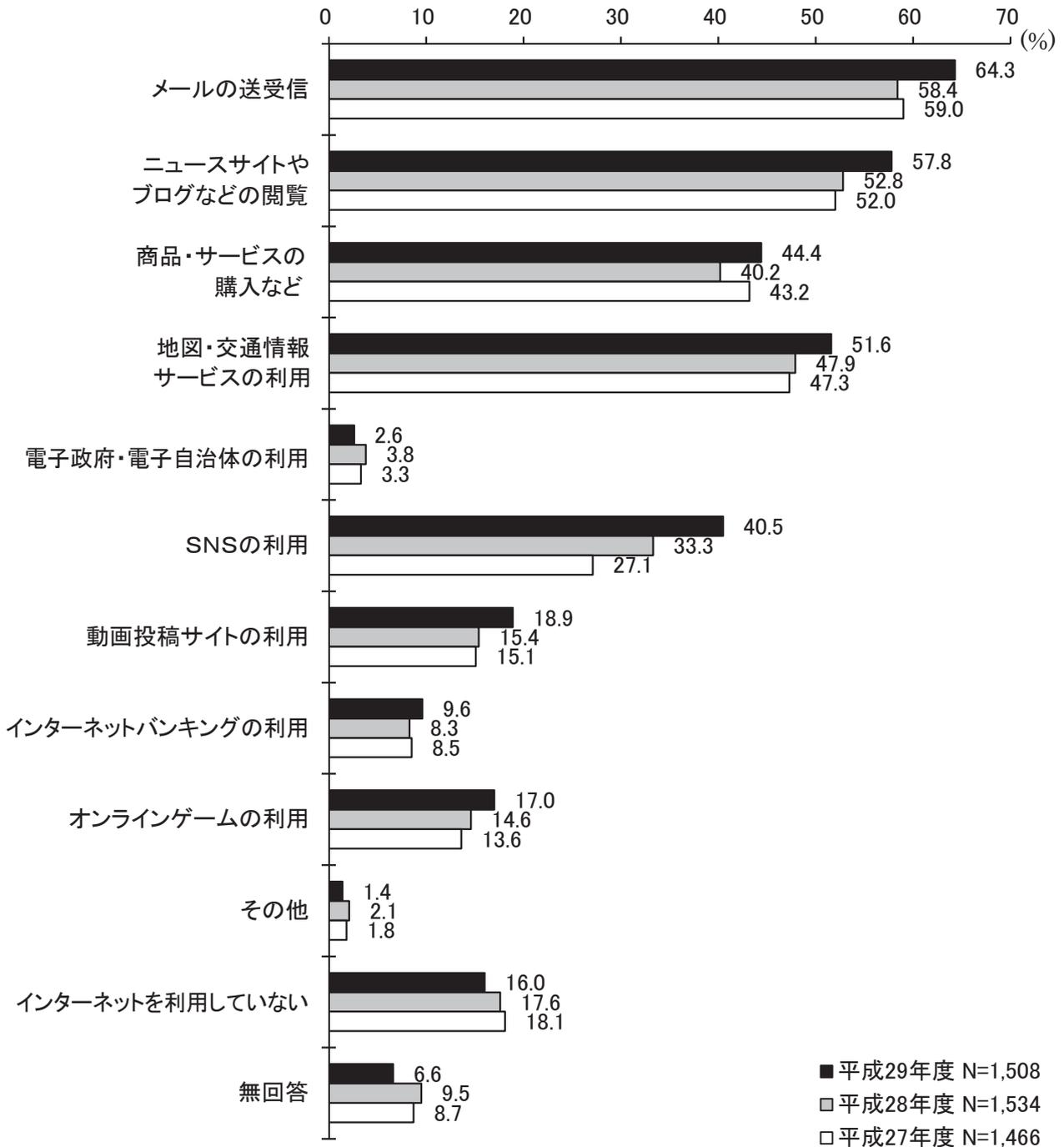
また、情報通信機器を「持っていない」と回答した割合は 6.9%となり、75 歳以上においても 26.4%と低かった。年代に関わらず何らかの情報通信機器を所有するようになっている。

【年齢別】

	デスクトップパソコン、ノートパソコン	タブレット端末	スマートフォン	携帯電話、PHS	インターネットに接続できるゲーム機	その他	持っていない	無回答
10 歳代 N=32	78.1	21.9	96.9	25.0	31.3	-	-	-
20 歳代 N=122	72.1	27.9	98.4	21.3	25.4	1.6	-	-
30 歳代 N=184	71.2	32.1	88.6	23.4	23.9	-	1.6	1.1
40 歳代 N=263	70.0	35.4	88.6	26.2	21.3	0.4	1.5	-
50 歳代 N=262	70.2	31.3	72.9	47.3	13.4	-	1.9	0.4
60～64 歳 N=167	58.1	25.1	60.5	51.5	9.0	1.2	3.0	-
65～69 歳 N=176	43.8	15.9	34.1	63.1	2.3	1.1	10.2	1.1
70～74 歳 N=165	30.9	9.1	19.4	58.2	3.6	0.6	21.2	7.3
75 歳以上 N=129	20.9	2.3	17.8	55.0	3.9	2.3	26.4	4.7

問 25 あなたが、過去1か月間にインターネットを利用した際の、利用目的は何ですか。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

利用目的は「メールの送受信」が64.3%で最も高い



「メールの送受信」が64.3%と最も高く、次いで「ニュースサイトやブログなどの閲覧」(57.8%)、「地図・交通情報サービスの利用」(51.6%)となった。「電子政府・電子自治体の利用」は2.6%

にとどまった。

「電子政府・電子自治体の利用」は平成 27 年度調査、平成 28 年度調査でも 3 %程度にとどまっており、電子政府・電子自治体の利用普及が進んでいない状況がうかがえる。

年齢別でみると、10 歳代と 20 歳代は「SNSの利用」が、「メールの送受信」を上回っており SNSが普及していることがうかがえる。

「インターネットを利用していない」は全体では 16.0 %と平成 28 年度調査から 1.6 ポイント低下した。年齢別にみると、年齢が高まるに伴い回答割合も高まる傾向がみられ、70～74 歳は 41.2%、75 歳以上は 44.2%が「インターネットを利用していない」と回答している。問 24 でみたとおり、高齢者においても情報通信機器の所有は高くなっているが、活用が進んでいない状況にある。高齢者向けの分かりやすい利活用講座・講演などの利用促進支援が必要といえる。

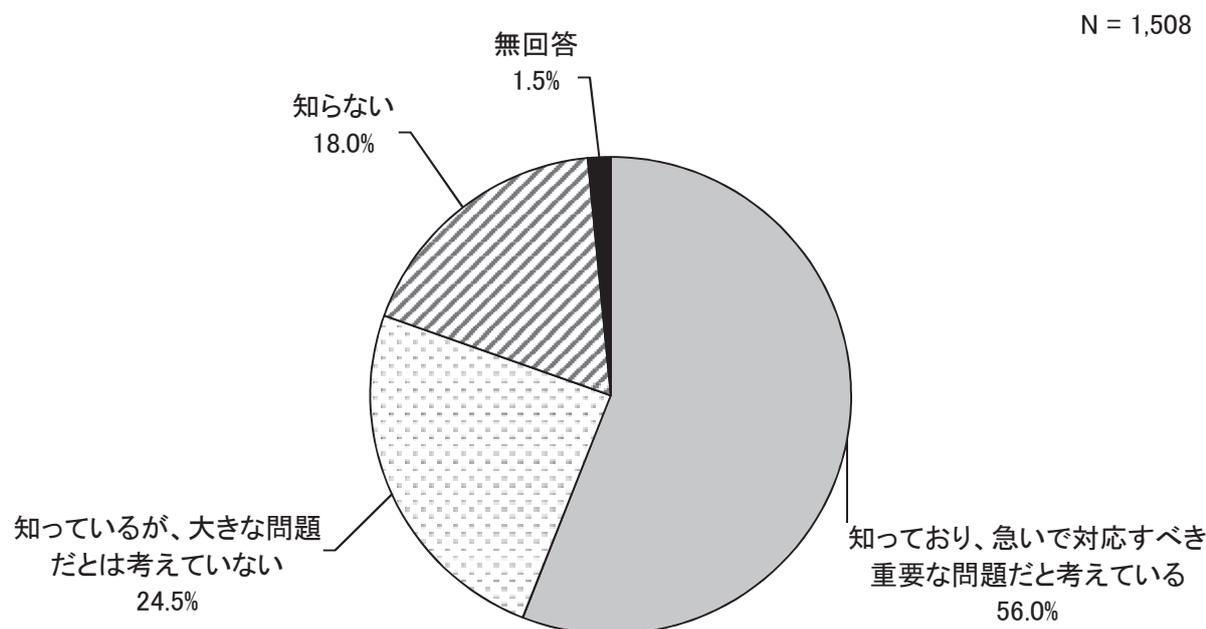
【年齢別】

	メールの送受信	ニュースサイトやブログなどの閲覧	商品・サービスの購入など	地図・交通情報サービスの利用	電子政府・電子自治体の利用	SNSの利用	動画投稿サイトの利用	インターネットバンキングの利用	オンラインゲームの利用	その他	インターネットを利用していない	無回答
10 歳代 N=32	68.8	68.8	56.3	62.5	-	78.1	40.6	12.5	40.6	-	3.1	-
20 歳代 N=122	84.4	76.2	63.1	71.3	0.8	86.9	50.8	15.6	41.8	0.8	0.8	-
30 歳代 N=184	84.8	84.8	78.3	67.4	2.7	73.4	34.8	15.2	31.0	1.6	1.6	0.5
40 歳代 N=263	88.2	84.8	62.7	66.9	3.0	61.6	24.7	12.9	25.1	0.4	1.1	0.8
50 歳代 N=262	76.3	70.6	43.1	61.1	4.2	39.7	16.0	10.7	15.6	1.9	8.0	1.5
60～64歳 N=167	64.1	46.1	37.1	53.3	6.0	22.8	11.4	9.0	9.0	1.2	13.2	5.4
65～69 歳 N=176	43.2	34.7	25.0	38.1	-	16.5	5.1	4.5	2.8	2.8	36.9	8.0
70～74 歳 N=165	24.8	20.0	14.5	20.0	0.6	4.8	2.4	2.4	3.6	1.2	41.2	23.0
75 歳以上 N=129	23.3	13.2	14.7	14.7	1.6	2.3	4.7	2.3	1.6	1.6	44.2	22.5

9 人口減少社会に打ち勝つために

問 26 日本の総人口は平成20年をピークに減少に転じ、今後も減少し続けることが、全国的な課題となっています。浜松市でも同様の課題に直面していることを、あなたはお存じですか。(1つだけ○を付けてください)

過半数の人が、人口減少を重要な問題と考えている

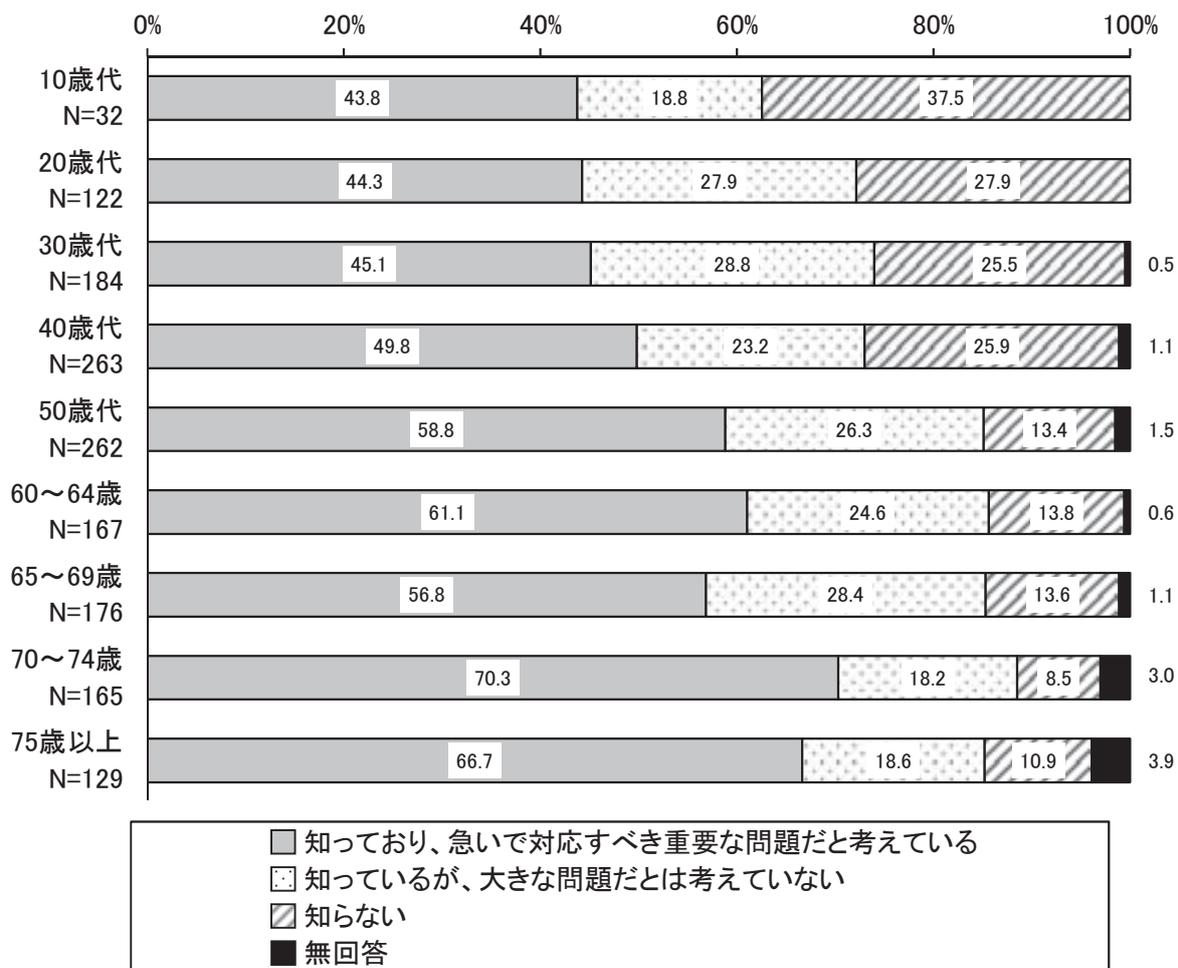


「知っており、急いで対応すべき重要な問題だと考えている」が 56.0 %と過半数を占めた。「知っているが、大きな問題だとは考えていない」の 24.5 %と合わせた『認知度』は 80.5 %と高かった。

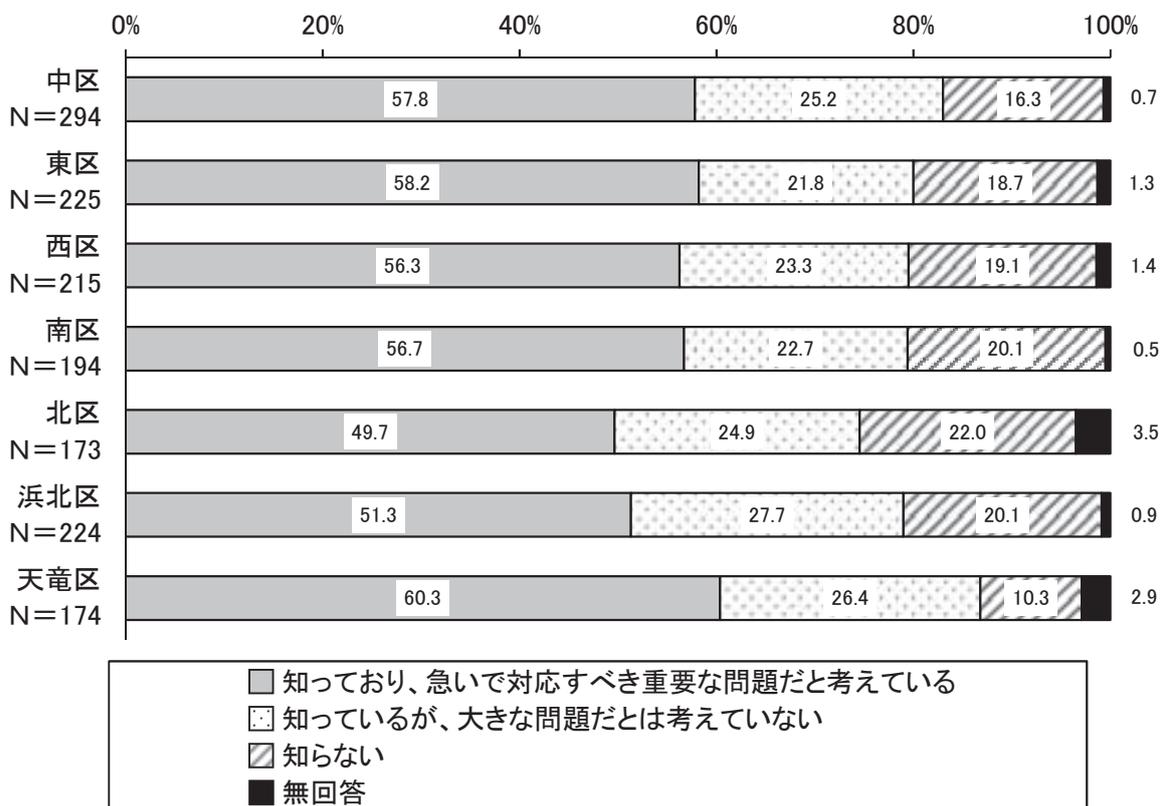
年齢別でみると、年齢が高くなるに伴い「知っており、急いで対応すべき重要な問題だと考えている」『認知度』とも回答割合が高まる傾向がみられ、若年層の問題意識が低い結果となった。

行政区別でみると、天竜区は「知っており、急いで対応すべき重要な問題だと考えている」の回答割合が相対的に高く、「知らない」は相対的に低かった。

【年齢別】

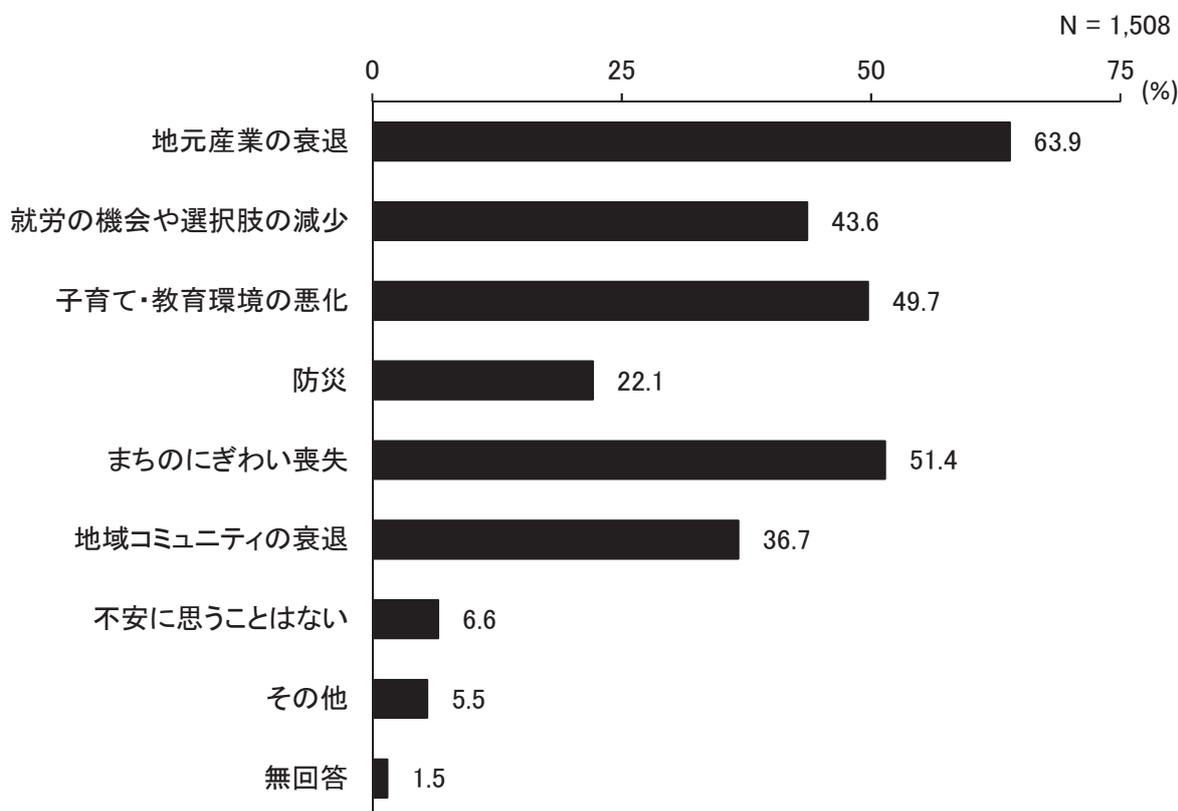


【行政区別】



問 27 人口が減少することについて不安に思うことは何ですか？
 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

人口減少で不安に思うことは「地元産業の衰退」が最も高い



「地元産業の衰退」が 63.9 % で最も高く、次いで「まちなぎわい喪失」(51.4%)、「子育て・教育環境の悪化」(49.7%) の順に高かった。

年齢別で見ると、「地元産業の衰退」と「まちなぎわい喪失」の回答割合は 10 歳代から 40 歳代と比較して 50 歳代以上の回答割合が高かった。「子育て・教育環境の悪化」は 30 歳代の回答割合が高かった。

職業別で見ると、商工・サービス・自由業と農林水産業は「地元産業の衰退」の回答割合が高かった。「まちなぎわい喪失」は商工・サービス・自由業、「子育て・教育環境の悪化」は専業主婦の回答割合が高かった。

【年齢別】

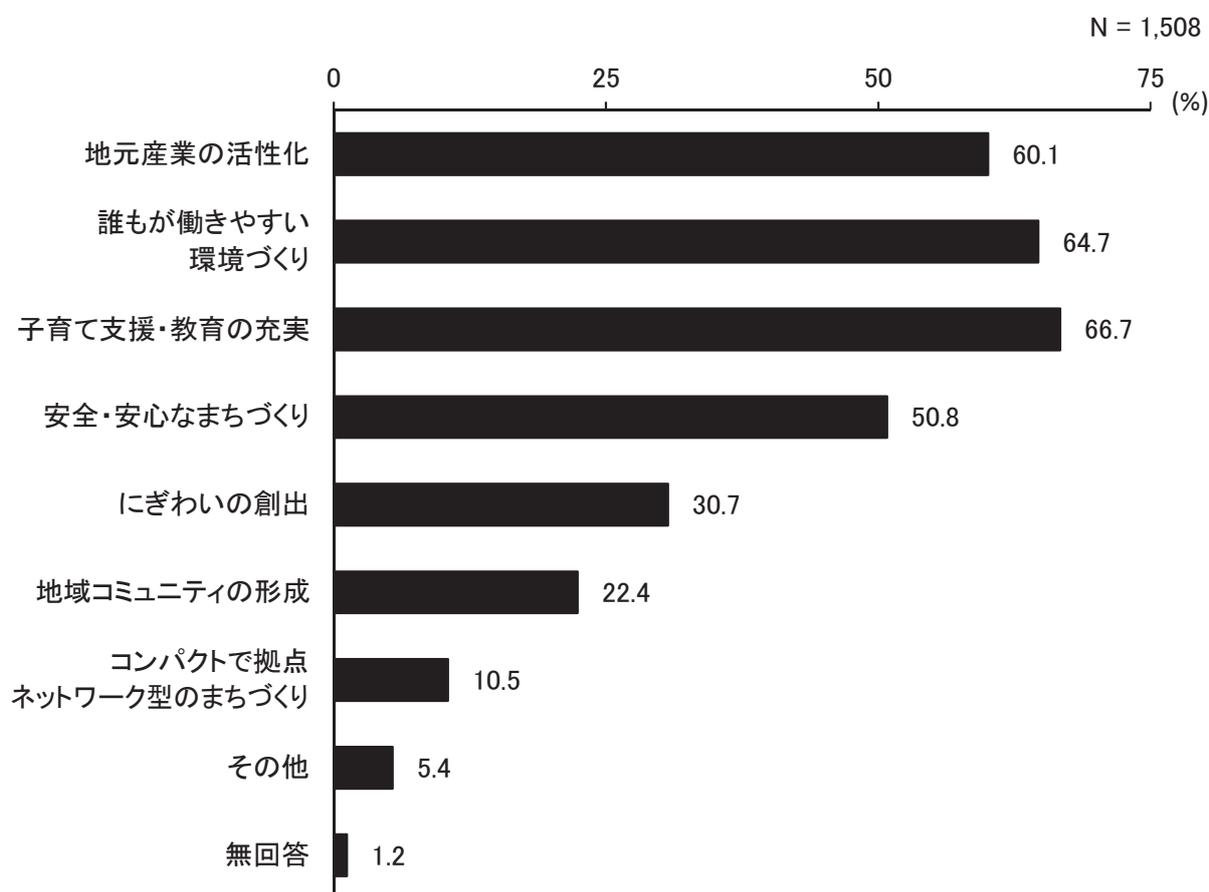
	地元産業の衰退	減少 就労の機会や選択肢の	悪化 子育て・教育環境の	防災	まちのにぎわい喪失	衰退 地域コミュニティの	不安に思うことはない	その他	無回答
10 歳代 N=32	46.9	56.3	37.5	12.5	37.5	28.1	3.1	12.5	-
20 歳代 N=122	59.0	50.8	53.3	11.5	42.6	24.6	5.7	4.9	-
30 歳代 N=184	54.3	40.8	59.2	14.1	47.3	31.0	7.6	5.4	1.1
40 歳代 N=263	56.3	44.9	49.4	15.6	44.9	28.5	8.0	8.0	0.8
50 歳代 N=262	71.4	48.1	49.6	23.3	54.2	37.4	5.3	7.3	0.8
60～64 歳 N=167	71.9	38.9	46.7	22.2	61.1	45.5	6.6	3.6	1.2
65～69 歳 N=176	63.1	42.6	47.7	27.3	56.8	46.6	7.4	4.0	1.1
70～74 歳 N=165	70.9	40.6	52.1	35.8	56.4	43.0	6.1	3.0	2.4
75 歳以上 N=129	69.8	38.0	41.9	32.6	51.2	41.9	5.4	3.1	5.4

【職業別】

	地元産業の衰退	減少 就労の機会や選択肢の	悪化 子育て・教育環境の	防災	まちのにぎわい喪失	衰退 地域コミュニティの	不安に思うことはない	その他	無回答
勤め人 N=712	63.1	45.9	51.3	17.1	50.8	32.7	6.3	6.3	0.8
商工・サービス・ 自由業 N=119	69.7	48.7	46.2	21.0	62.2	42.9	6.7	2.5	0.8
農林水産業 N=36	77.8	44.4	52.8	33.3	47.2	47.2	8.3	-	2.8
専業主婦（主夫） N=212	60.4	42.0	55.2	28.3	49.1	41.0	6.1	6.6	0.5
学生 N=46	58.7	47.8	41.3	15.2	43.5	39.1	8.7	8.7	-
無職 N=311	65.6	36.7	45.7	29.9	53.4	40.5	6.8	2.6	3.2
その他 N=59	62.7	44.1	47.5	18.6	44.1	30.5	6.8	13.6	3.4

問 28 人口減少社会への対応として、浜松市が特に力を入れるべきだと思うことは何ですか？（あてはまるものすべてに○を付けてください）

子育て支援・教育の充実、誰もが働きやすい環境づくり、地元産業の活性化などが必要



「子育て支援・教育の充実」が 66.7%で最も高く、次いで「誰もが働きやすい環境づくり」(64.7%)、「地元産業の活性化」(60.1%)の順に高かった。

年齢別でみると、「子育て支援・教育の充実」は 30歳代の回答割合が高かった。「誰もが働きやすい環境づくり」は 10歳代と 60～64歳の回答割合が高かった。「地元産業の活性化」は 50歳代以上の回答割合が高かった。

問 27 でたずねた人口が減少することについて不安に思うことと総合すると、「地元産業」について不安を感じ、市が特に力を入れてほしいと考えているといえる。

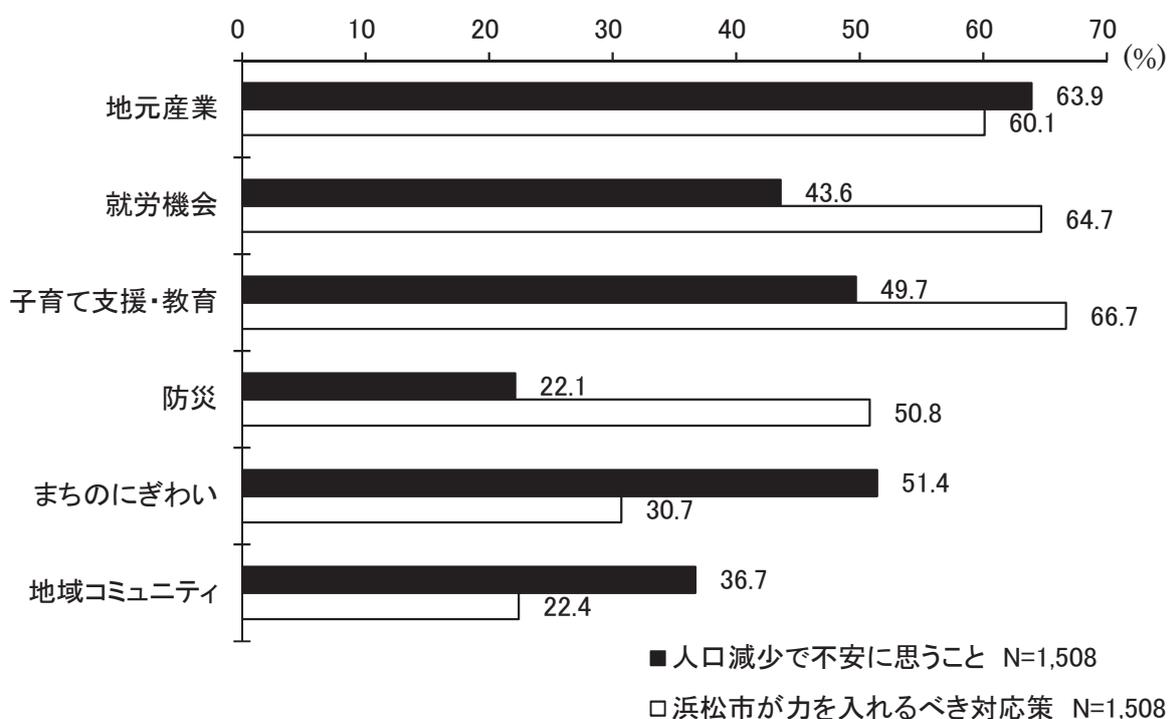
「就労機会」「子育て支援・教育」「防災」については、不安に思う割合より、力を入れるべきだと思う割合の方が高く、日常的に不安を感じる機会は多くないが、改善を期待していると考えられる。

「まちなにぎわい」は、不安に思う割合と比較すると、力を入れるべきだと思う割合は低い値となっている。「地域コミュニティ」についても同様の傾向が見られる。

【年齢別】

	地元産業の活性化	誰もが働きやすい環境づくり	子育て支援・教育の充実	安全・安心なまちづくり	にぎわいの創出	地域コミュニティの形成	コンパクトで拠点ネットワーク型のまちづくり	その他	無回答
10歳代 N=32	46.9	71.9	56.3	43.8	28.1	18.8	6.3	6.3	-
20歳代 N=122	49.2	67.2	68.0	36.9	23.8	10.7	5.7	8.2	-
30歳代 N=184	49.5	62.5	77.7	47.8	22.3	10.3	4.9	7.6	0.5
40歳代 N=263	49.0	61.2	69.6	39.2	28.1	12.9	8.0	6.1	0.4
50歳代 N=262	64.1	66.4	69.5	55.3	36.3	25.2	16.0	6.5	0.8
60～64歳 N=167	65.9	74.3	68.3	52.7	34.7	27.5	11.4	2.4	1.8
65～69歳 N=176	67.6	58.5	61.4	59.7	35.2	34.7	15.9	4.0	2.3
70～74歳 N=165	68.5	66.1	63.6	58.8	32.1	32.7	10.9	1.2	2.4
75歳以上 N=129	76.0	62.8	51.2	60.5	31.8	27.9	9.3	5.4	1.6

【問 27（不安に思うこと）との比較】

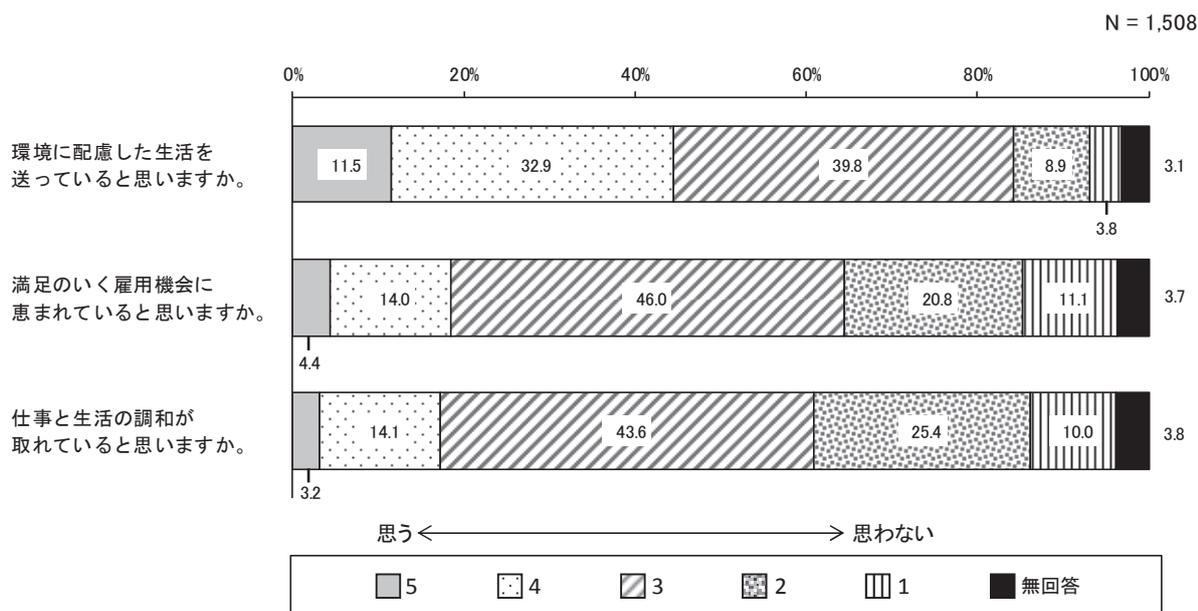


10 浜松市戦略計画 2017 について

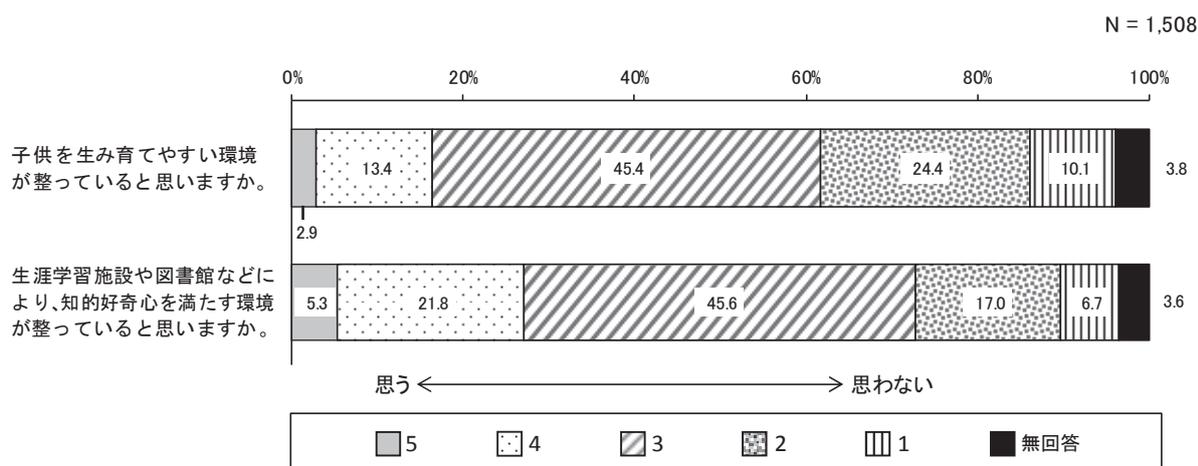
◆ 市政に関する現状認識について

問 29 あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

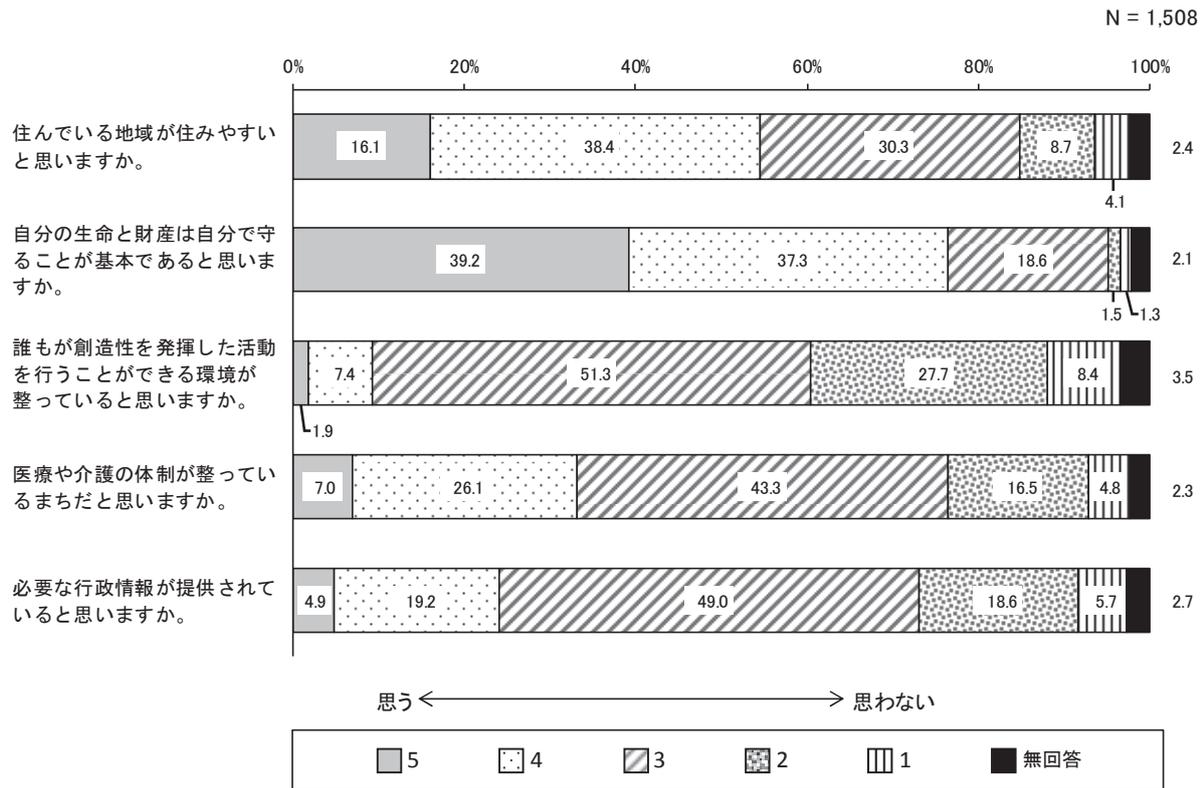
【若者がチャレンジできるまち】



【子育て世代を全力で応援するまち】



【持続可能で創造性あふれるまち】



評価が「4」と「5」を合わせた『思う』の割合が最も高かったのは、「自分の生命と財産は自分で守ることが基本である」の76.5%だった。最も低かったのは「誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか」の9.3%だった。

平成28年度調査と比較すると、10項目全てで『思う』の割合が低下した。『思う』の割合が最も低下したのは「仕事と生活の調和が取れていると思いますか」で19.6ポイント低下した。

今回の調査から、「浜松市戦略計画2017」における3つの基本目標を示した中で調査様式を再構成したことから、回答者が戦略計画に掲げる目標をより具体的に認識し、評価したものと考えられる。

71ページ【年齢別】・【性別】【行政区別】の表は評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど思う度合が高くなる指数である。

年齢別で見ると、いずれの年齢層でも「自分の生命と財産は自分で守ることが基本である」の指数が最も高かった。

性別で見ても、男女とも「自分の生命と財産は自分で守ることが基本である」の指数が最も高かった。

【平成 28 年度調査との比較 (差が大きい順)】

(単位：%)

	平成29年度 結果(A)	平成28年度 結果(B)	差 (A-B)
仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	17.3	36.9	▲ 19.6
環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	44.4	61.7	▲ 17.3
医療や介護の体制が整っているまちだと思いませんか。	33.1	45.9	▲ 12.8
子供を生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	16.3	28.9	▲ 12.6
住んでいる地域が住みやすいと思いませんか。	54.5	63.7	▲ 9.2
満足のいく雇用機会に恵まれていると思いませんか。	18.4	27.5	▲ 9.1
生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いませんか。	27.1	36.2	▲ 9.1
必要な行政情報が提供されていると思いませんか。	24.1	30.5	▲ 6.4
誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いませんか。	9.3	13.5	▲ 4.2
自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いませんか。	76.5	78.6	▲ 2.1

*A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『思う』の割合

【年齢別】

◎=6点以上 △=4点以下

		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
若者が できるまち チャレンジ	環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	5.9	5.8	5.9	◎ 6.1	◎ 6.0	5.9	5.9	◎ 6.1	◎ 6.3
	満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	4.8	4.3	4.9	4.6	4.6	4.2	4.3	4.2	4.5
	仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	4.3	4.2	4.7	4.4	4.4	4.1	4.2	4.3	4.5
子育て する力で まち 応代	子供を生き育てやすい環境が整っていると思いますか。	4.8	4.4	4.6	4.2	4.2	4.2	4.2	4.4	4.6
	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	5.8	4.9	5.6	5.1	4.6	5.0	4.8	5.1	5.5
持 あ 続 可 能 で ま ち 創 造 性	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	◎ 6.4	◎ 6.8	◎ 6.8	◎ 6.4	◎ 6.0	◎ 6.5	◎ 6.0	◎ 6.4	◎ 6.4
	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	◎ 8.4	◎ 7.9	◎ 7.9	◎ 7.7	◎ 7.6	◎ 8.0	◎ 7.7	◎ 8.0	◎ 8.2
	誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	4.5	△ 3.8	4.4	4.3	△ 3.8	△ 3.9	△ 4.0	4.4	4.6
	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	5.1	5.2	5.3	5.2	5.2	5.4	5.2	5.8	5.8
	必要な行政情報が提供されていると思いますか。	4.5	4.7	5.0	4.9	4.7	4.9	5.1	5.5	5.5

【性別】【行政区別】

◎=6点以上 △=4点以下

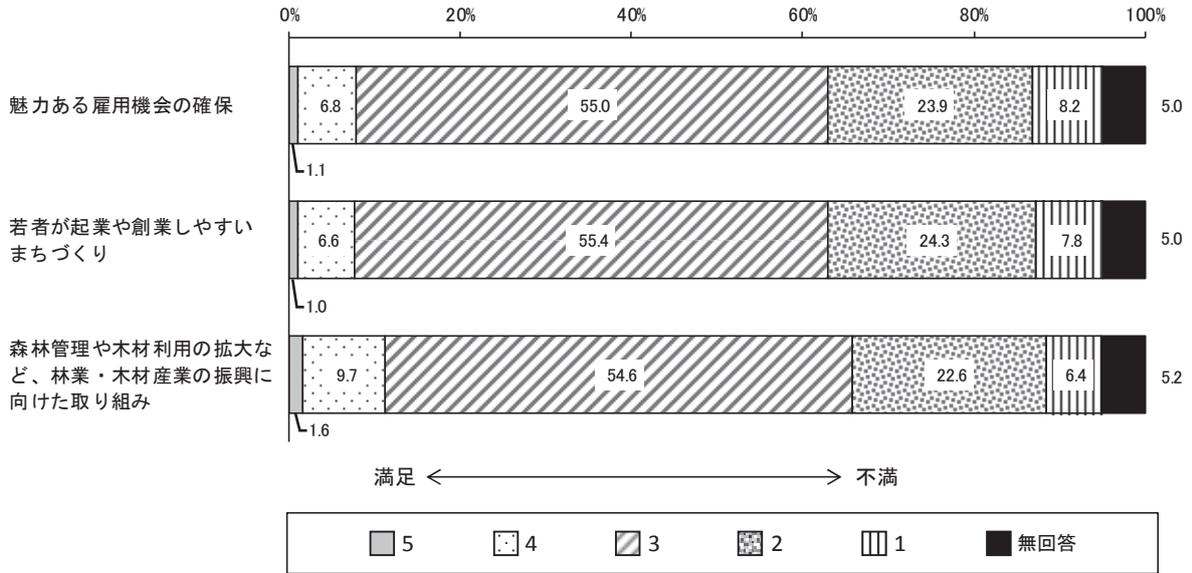
		男性	女性	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
若者が できるまち チャレンジ	環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	5.9	◎ 6.1	5.9	◎ 6.0	◎ 6.3	◎ 6.1	◎ 6.1	◎ 6.0	5.7
	満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	4.5	4.5	4.6	4.7	4.5	4.6	4.6	4.5	△ 3.8
	仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	4.2	4.5	4.2	4.4	4.2	4.7	4.4	4.4	4.2
子育て する力で まち 応代	子供を生き育てやすい環境が整っていると思いますか。	4.3	4.5	4.3	4.5	4.5	4.5	4.4	4.6	△ 3.4
	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	5.0	5.2	5.1	5.1	5.2	5.3	5.1	5.1	4.5
持 あ 続 可 能 で ま ち 創 造 性	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	◎ 6.3	◎ 6.4	◎ 6.9	◎ 6.6	◎ 6.5	◎ 6.3	◎ 6.4	◎ 6.6	4.9
	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	◎ 8.0	◎ 7.7	◎ 7.9	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 7.6	◎ 7.7	◎ 7.7	◎ 8.0
	誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	△ 3.8
	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	5.4	5.3	5.8	5.7	5.2	5.3	5.5	5.2	4.4
	必要な行政情報が提供されていると思いますか。	4.8	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.0	4.7	4.6

◆ 市の取り組みの満足度評価について

問 30 あなたは、浜松市の取り組みについて日ごろどのように感じていますか。
各項目について「満足」から「不満」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

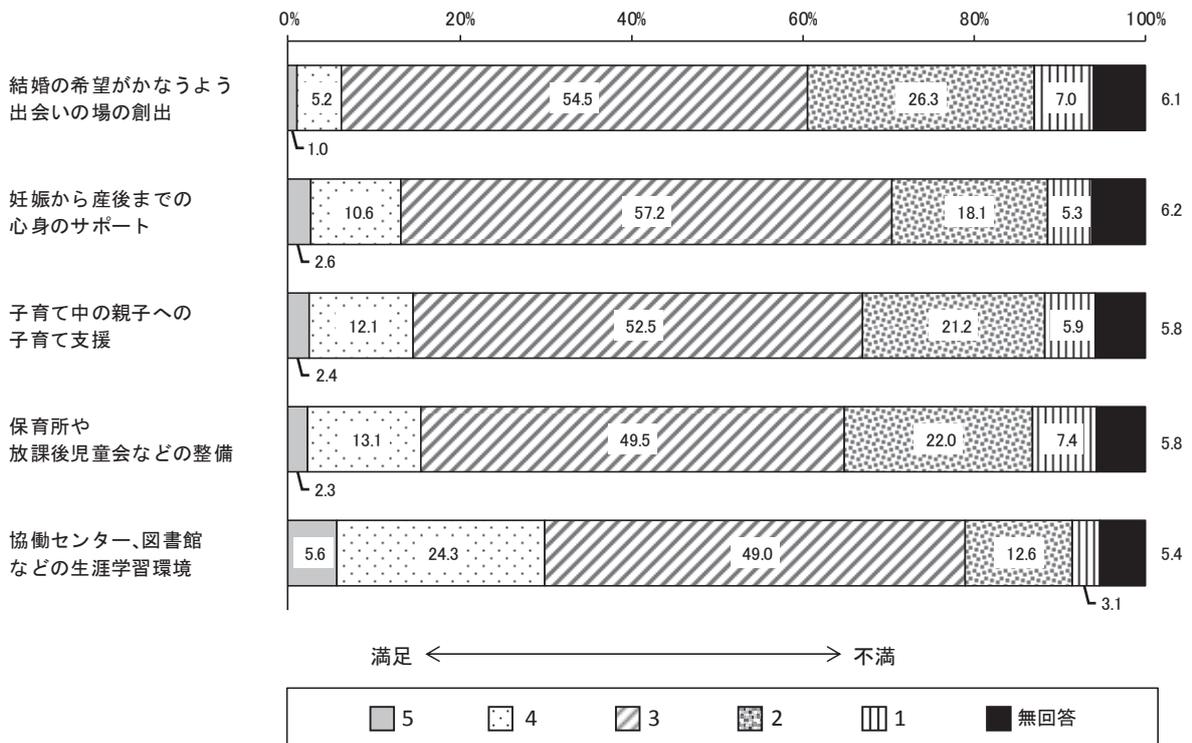
【若者がチャレンジできるまち】

N = 1,508



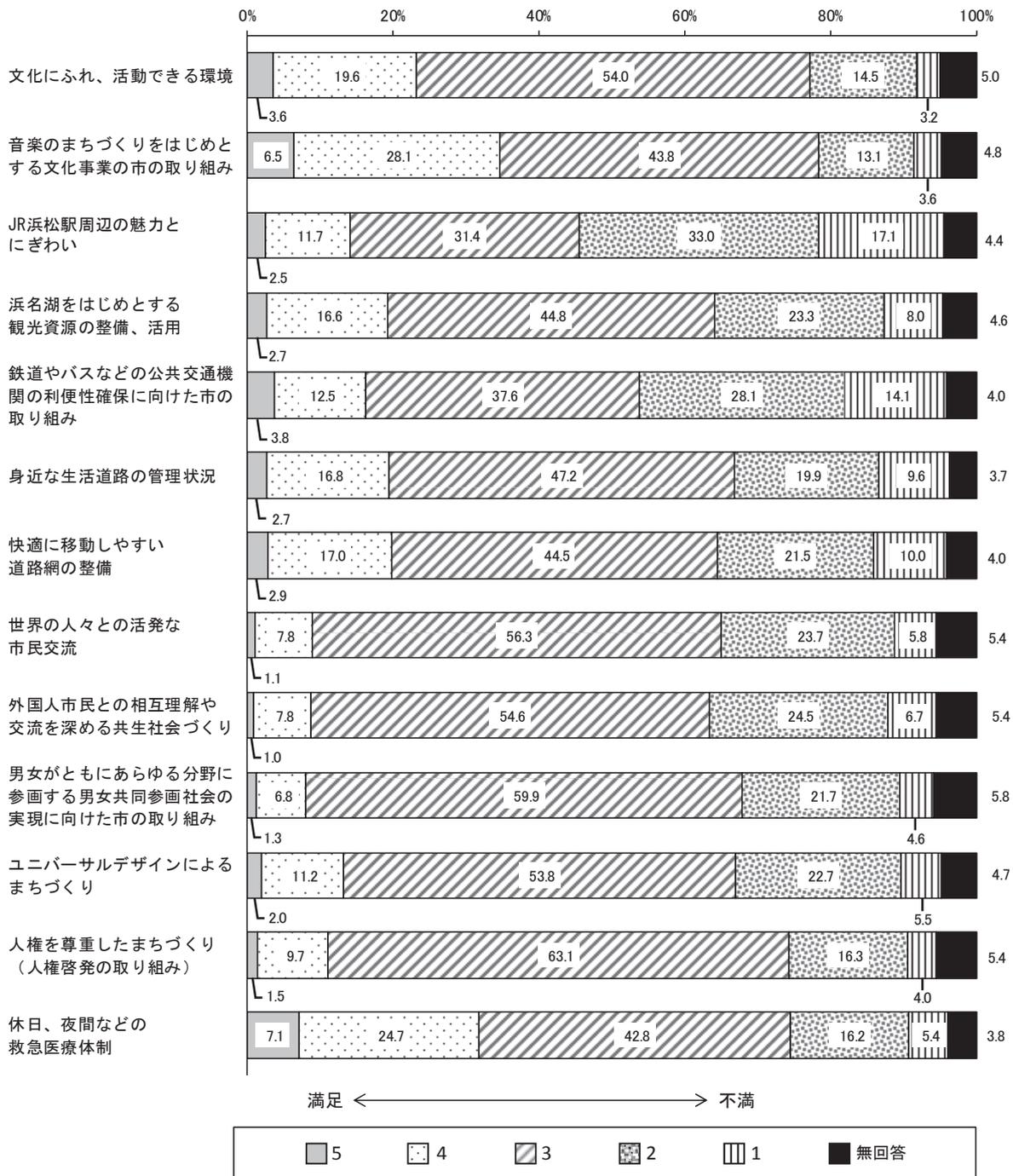
【子育て世代を全力で応援するまち】

N = 1,508



【持続可能で創造性あふれるまち】

N = 1,508



評価が「4」と「5」を合わせた『満足している』の割合が最も高かったのは、「音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み」の34.6%となり、次いで「休日、夜間などの救急医療体制」（31.8%）、「協働センター、図書館などの生涯学習環境」（29.9%）の順に高かった。

平成28年度調査と比較すると、比較可能な15項目中13項目で『満足している』の割合が低下した。『満足している』の割合が最も低下したのは「協働センター、図書館などの生涯学習環境」で11.0ポイント低下した。

なお、本問も問29と同様に、調査票の様式見直しの影響を留意する必要がある。

75～76ページの【年齢別】・【性別】【行政区別】の表は評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど満足度が高くなる指数である。

年齢別でみると、10歳代から64歳までの年齢層は、「音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み」が最も高かった（30歳代は「協働センター、図書館などの生涯学習環境」、50歳代は「休日、夜間などの救急医療体制」も同ポイントで最も高かった）。65歳から74歳の年齢層は「休日、夜間などの救急医療体制」が最も高かった。75歳以上は「協働センター、図書館などの生涯学習環境」が最も高かった。

項目別では【若者がチャレンジできるまち】のうち「魅力ある雇用機会の確保」「若者が起業や創業しやすいまちづくり」は20歳代が最も低かった。

また【子育て世代を全力で応援するまち】のうち「結婚の希望がかなうよう出会いの場の創出」「妊娠から産後までの心身のサポート」「子育て中の親子への子育て支援」は30歳代が最も高かった。

【平成28年度調査との比較（マイナス幅が大きい順）】

（単位：％）

	平成29年度 結果(A)	平成28年度 結果(B)	差 (A-B)
協働センター、図書館などの生涯学習環境	29.9	40.9	▲ 11.0
快適に移動しやすい道路網の整備	19.9	28.1	▲ 8.2
身近な生活道路の管理状況	19.5	27.5	▲ 8.0
休日、夜間などの救急医療体制	31.8	39.5	▲ 7.7
浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	19.3	26.4	▲ 7.1
男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	8.1	14.4	▲ 6.3
音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	34.6	40.8	▲ 6.2
人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	11.2	16.4	▲ 5.2
外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	8.8	13.4	▲ 4.6
文化にふれ、活動できる環境	23.2	27.8	▲ 4.6
世界の人々との活発な市民交流	8.9	13.3	▲ 4.4
鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	16.3	20.1	▲ 3.8
魅力ある雇用機会の確保	7.9	11.0	▲ 3.1
JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	14.2	14.2	0.0
ユニバーサルデザインによるまちづくり	13.2	13.1	0.1

*A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『満足している』の割合

【年齢別】

◎=6点以上 △=4点以下

項目		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
若者が できるまち チャレンジ	魅力ある雇用機会の確保	4.5	△ 3.8	4.3	4.1	△ 4.0	4.1	4.2	4.4	4.6
	若者が起業や創業しやすいまちづくり	4.3	△ 3.4	4.4	4.2	△ 4.0	4.2	4.3	4.3	4.7
	森林管理や木材利用の拡大など、林業・木材産業の振興に向けた取り組み	4.7	4.7	4.9	4.6	4.2	△ 3.9	4.1	4.4	4.7
子育て 世代を 全力で 応援する まち	結婚の希望がかなうよう出会いの場の創出	△ 4.0	△ 4.0	4.7	4.4	△ 3.9	△ 4.0	△ 3.8	△ 4.0	△ 4.0
	妊娠から産後までの心身のサポート	4.8	4.5	5.3	4.6	4.4	4.4	4.6	5.0	4.6
	子育て中の親子への子育て支援	4.5	4.4	5.1	4.6	4.3	4.2	4.6	4.8	4.7
	保育所や放課後児童会などの整備	5.1	4.3	4.6	4.2	4.3	4.3	4.5	4.9	5.1
	協働センター、図書館などの生涯学習環境	◎ 6.1	5.4	◎ 6.0	5.3	5.0	5.2	5.4	5.8	5.9
持続可能 で創造性 あふれる まち	文化にふれ、活動できる環境	5.6	5.4	5.6	5.3	4.9	4.7	5.0	5.2	5.2
	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	◎ 6.3	5.7	◎ 6.0	5.7	5.2	5.2	5.4	5.7	5.7
	JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	5.9	△ 4.0	△ 3.4	△ 3.4	△ 3.5	△ 3.3	△ 3.6	△ 4.0	4.6
	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	5.5	5.0	4.6	4.4	4.2	4.1	4.6	4.7	5.2
	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	4.8	4.4	4.2	△ 4.0	△ 3.7	△ 3.8	△ 3.8	4.5	4.4
	身近な生活道路の管理状況	4.8	4.9	4.6	4.5	4.3	4.5	4.5	4.7	4.9
	快適に移動しやすい道路網の整備	4.9	4.8	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4	4.7	4.8
	世界の人々との活発な市民交流	4.6	4.2	4.7	4.5	4.2	4.1	4.2	4.2	4.6
	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.3	4.1	4.6	4.4	4.1	4.1	4.2	4.1	4.5
	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	5.1	4.3	4.8	4.4	4.4	4.3	4.3	4.1	4.8
	ユニバーサルデザインによるまちづくり	5.4	4.9	4.8	4.6	4.3	4.3	4.2	4.4	4.7
	人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	5.0	5.1	5.0	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6	5.0
	休日、夜間などの救急医療体制	5.9	5.2	5.2	5.0	5.2	5.0	5.5	◎ 6.0	5.8

【性別】【行政区別】

◎=6点以上 △=4点以下

項目		男性	女性	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
若者が できるまち チャレンジ	魅力ある雇用機会の確保	4.2	4.3	4.2	4.4	4.3	4.3	4.1	4.4	△ 3.3
	若者が起業や創業しやすいまちづくり	4.2	4.2	4.1	4.4	4.4	4.4	△ 4.0	4.3	△ 3.4
	森林管理や木材利用の拡大など、林業・木材産業の振興に向けた取り組み	4.4	4.5	4.5	4.6	4.5	4.6	4.2	4.6	△ 3.8
子育て 世代を 全力で 応援する まち	結婚の希望がかなうよう出会いの場の創出	△ 4.0	4.3	4.2	4.4	4.2	4.2	△ 4.0	4.1	△ 3.5
	妊娠から産後までの心身のサポート	4.6	4.8	4.7	4.9	4.8	4.8	4.7	4.6	△ 4.0
	子育て中の親子への子育て支援	4.5	4.7	4.5	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	△ 4.0
	保育所や放課後児童会などの整備	4.6	4.5	4.4	4.7	4.6	4.6	4.7	4.3	4.1
	協働センター、図書館などの生涯学習環境	5.4	5.5	5.4	5.6	5.8	5.6	5.6	5.2	4.9
持続可能 で創造性 あふれる まち	文化にふれ、活動できる環境	5.0	5.3	5.2	5.3	5.2	5.4	5.2	5.1	4.6
	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	5.4	5.7	5.8	5.7	5.8	5.6	5.4	5.4	4.8
	JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	△ 3.6	△ 3.8	△ 3.5	△ 3.8	△ 3.5	△ 3.5	△ 3.6	△ 3.9	△ 3.9
	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.3	4.8	4.4	4.5	4.6	4.7	4.5	4.7	4.4
	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	△ 4.0	4.2	4.4	4.1	△ 4.0	4.1	4.1	4.2	△ 3.3
	身近な生活道路の管理状況	4.5	4.7	4.6	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7	△ 3.5
	快適に移動しやすい道路網の整備	4.4	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8	4.6	4.6	△ 3.4
	世界の人々との活発な市民交流	4.2	4.5	4.3	4.4	4.6	4.5	4.4	4.3	△ 3.9
	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.2	4.4	4.2	4.4	4.5	4.4	4.2	4.1	△ 3.8
	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	4.4	4.5	4.5	4.5	4.6	4.5	4.4	4.4	△ 4.0
	ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.4	4.7	4.5	4.6	4.7	4.7	4.6	4.5	△ 4.0
	人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	4.7	4.8	4.8	4.6	4.8	4.8	4.7	4.6	4.4
休日、夜間などの救急医療体制	5.4	5.3	5.5	5.7	5.5	5.5	5.3	4.8	4.6	

付録 調査票

平成29年度 市民アンケート調査（第44回）

日ごろ、市政の推進につきましては、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。
浜松市では、市民の皆さまのお考えを伺うことで市政の充実を図り、市民の皆さまの暮らしが豊かになるように努めていきたいと考えております。

つきましては、今後のまちづくりの基礎資料とするため、市民アンケート調査を実施させていただきます。この調査を実施するにあたり、市内在住の満18歳以上の皆さまの中から無作為に3,000人の方々を選ばせていただきました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただきご回答くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果につきましては、広報はままつや浜松市公式Webサイト（ホームページ）などで報告させていただく予定です。

平成29年6月 浜松市長 鈴木康友

<ご回答についてのお願い>

1. 封書のあて名の方が、ご回答くださいますようお願いいたします。
2. ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、○で囲んでください。
また、「その他」を選んだ方は、その具体的な内容をご記入ください。
3. この調査結果は、上記目的以外に使用することはない、内容についてご迷惑をお掛けすることはありません。
4. 6月30日（金）までにこの用紙を同封の封筒に入れて、切手を貼らずにご投函ください。
5. ご不明な点は、広聴広報課 市民コールセンターグループ ☎（053）457-2023へお問い合わせください。

～ あなたはご存じですか？ ～

問1 次の項目について、あなたをご存じですか。

1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

	名称も内容も 知っている	名称だけは 知っている	知らない
① FSC森林認証 ※森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。浜松市は市町村別では全国最大のFSC認証林面積を保有しています。	1	2	3
② 浜松市子ども育成条例 ※未来を担う子どもを社会全体で健全に育成し、支えていくための基本理念や、市、保護者、学校等、事業主、子ども育成団体及び市民の役割を明らかにするとともに、市の基本的施策を定めた条例。	1	2	3
③ 市制記念日 ※浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。	1 知っている	/	2 知らない
④ 協働センター ※平成24年4月から地域自治センターが、平成25年4月から公民館が、それぞれ「協働センター」となりました。 ※協働センターは、市民に身近な行政サービス提供組織として、地域づくりや生涯学習、窓口サービスなどの業務を行っています。	1 知っている	/	2 知らない
⑤ 出世の街・浜松 ※浜松城は、徳川家康が築城し、歴代城主の多くが幕府の重役に登用されたため、「出世城」と呼ばれています。 ※浜松市は、徳川四天王として活躍した井伊直政の後見した直虎が過ごした地です。また、近代において、スズキ、ホンダ、ヤマハ、カワイなどの世界的なものづくり企業が創出されています。 ※このことから、市を国内外に売り込む推進テーマとして『出世の街・浜松』を掲げています。	1 知っている	/	2 知らない

	すでに登録 している	知っているが 登録していない	知らない
⑥ 防災ホットメール ※災害発生時の緊急情報、地震情報、気象情報、火災情報などを携帯電話などに電子メールで配信しています。	1	2	3

～ 浜松市歌について ～

問2 浜松市では、平成19年、新たに浜松市歌を制定しました。あなたは市歌をご存じですか。また、歌うことができますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 市歌があることを知っていて、歌うこともできる
2. 市歌があることは知っているが、歌うことはできない
3. 市歌があることを知らなかった

問3 問2で「1. 市歌があることを知っていて、歌うこともできる」「2. 市歌があることは知っているが、歌うことはできない」とお答えされた方に伺います。市歌をどこかで聴いたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 市主催のイベント
2. 入学式・卒業式などの学校行事（子供などが参加している行事を含む）
3. 市役所など公共施設での館内放送
4. カラオケ配信
5. テレビ・ラジオなど
6. 民間主催のイベント
7. その他（具体的に： _____)
8. 聴いたことがない

～ 地区社会福祉協議会の活動と地域福祉の推進について ～

問4 あなたは「地区社会福祉協議会※」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 知っていて、すでに活動に参加している
2. 関心がある、または、今後活動に参加したいと思う
3. 知らない、または、活動に参加したいと思わない

※地区社会福祉協議会とは、連合自治会規模の圏域で活動する住民主導の組織。地域住民をはじめ、自治会や民生委員・児童委員、ボランティアなどで構成し、身近な地域における福祉活動の啓発及び推進を行います。

問5 地区社会福祉協議会の設立により、地域での支え合いが進んだと思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 進んだと思う
2. 変化を感じない
3. 分からない

～ スポーツの推進について ～

問6 過去1年間で、あなたはスポーツ（運動）をどの程度行いましたか。ウォーキングから本格的な競技スポーツまで、あらゆる運動を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週3回以上 |
| 3. 週1回以上 | 4. 月に1～2回程度 |
| 5. 年に数回程度 | 6. 年に1回もしない |

問7 過去1年間に、あなたはスポーツ活動の支援をどの程度行いましたか。

スポーツイベントや各種競技の大会におけるボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小・中学校、高校、大学の部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

- | |
|----------------------|
| 1. ほぼ毎日、支援活動を行った |
| 2. 月に数回のペースで支援活動を行った |
| 3. 年に1回は支援活動を行った |
| 4. 全く支援活動を行わなかった |

～ 協働による まちづくりについて ～

問8 あなたは、どのくらいの頻度で、自治会（町内会）や消防団、PTAなど地域のコミュニティ活動に参加していますか？

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に1回程度 |
| 3. 月に1回程度 | 4. 2～3か月に1回程度 |
| 5. 年に1～2回程度 | 6. 参加していない |

問9 問8で「1. ほぼ毎日」「2. 週に1回程度」「3. 月に1回程度」「4. 2～3か月に1回程度」「5. 年に1～2回程度」とお答えされた方に伺います。どこでそれらの活動を行いましたか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 自治会・町内会 |
| 2. 自治会・町内会以外の地域団体（地区社会福祉協議会・地区安全会議など） |
| 3. 消防団 |
| 4. PTA |
| 5. その他（具体的に： _____） |

問 10 問 8 で「6. 参加していない」とお答えされた方に伺います。その理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 参加する時間がない
2. 参加の仕方が分からない。活動に関する情報が得られない
3. 職場や家族の理解が得られない
4. 自治会などのコミュニティ組織に馴染みがない
5. 興味・関心がない
6. 行政がやるべきことだと思う
7. 家族が参加している
8. その他(具体的に: _____)

問 11 あなたは、どのくらいの頻度で、NPOなどが運営するボランティア活動(自治会や消防団、PTA活動などは除く)へ参加したり、自発的に社会貢献活動(公共の場の清掃や子供・高齢者の見守りなど)を実施したりしていますか?
(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に1回程度 |
| 3. 月に1回程度 | 4. 2～3か月に1回程度 |
| 5. 年に1～2回程度 | 6. 参加(実施)していない |

問 12 問 11 で「1. ほぼ毎日」「2. 週に1回程度」「3. 月に1回程度」「4. 2～3か月に1回程度」「5. 年に1～2回程度」とお答えされた方に伺います。どこでそれらの活動を行いましたか。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. NPO法人
2. NPO法人以外のボランティア団体
3. 個人で活動している
4. その他(具体的に: _____)

問 13 問 11 で「6. 参加(実施)していない」とお答えされた方に伺います。その理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 参加(実施)する時間がない
2. 参加(実施)の仕方が分からない。活動に関する情報が得られない
3. 職場や家族の理解が得られない
4. NPO法人などの市民活動団体に馴染みがない
5. 興味・関心がない
6. 行政がやるべきことだと思う
7. その他(具体的に: _____)

～ 子育て支援について ～

問 14 現在、あなたは18歳までの子供を子育て中ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 15 問 14 で「1. はい」とお答えされた方に伺います。あなたの子供は下記のどれに該当しますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|-----------|--------|
| 1. 小学校入学前 | 2. 小学生 |
| 3. 中学生 | 4. 高校生 |
| 5. 専門学校生 | 6. その他 |

問 16 市では、保育所整備、子育て支援ひろば、子供の医療費助成など子育てに関する支援を行っています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない |
| 3. どちらともいえない | 4. 分からない |

問 17 問 16 で「2. 思わない」「3. どちらともいえない」「4. 分からない」とお答えされた方に伺います。どのような環境を整えば子育てがしやすくなったと感じると思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境 |
| 2. 子育ての悩みを相談できる人が身近にいる環境 |
| 3. 保育園などの入園希望者がすべて受け入れられる環境 |
| 4. 子育て中の親子の交流の場が身近にある環境 |
| 5. 困った時や緊急時に、安心して子供を預けられる環境 |
| 6. 放課後児童会（学童保育）の利用希望者がすべて受け入れられる環境 |
| 7. 子供たちが安心して遊べる場所が身近にある環境 |
| 8. 児童手当などの経済的支援が充実した環境 |
| 9. 医療費助成が充実した環境 |
| 10. 子育てに関する必要な情報がすぐに手に入る環境 |
| 11. 分からない |
| 12. その他（具体的に： _____) |

～ 市民の地震への備えについて ～

問 18 あなたのご家庭では、家具が転倒しないような対策を行っていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 大部分の家具を固定している
2. 家具の配置や家具を置いていないなど、家具を固定する必要がない
3. 一部の家具を固定している
4. 固定していない。今後、固定しようと思っている
5. 固定していない。今後も固定しようとは思わない

問 19 問 18 で「4. 固定していない。今後、固定しようと思っている」「5. 固定していない。今後も固定しようとは思わない」とお答えされた方に伺います。固定していない理由は何ですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 必要とは思わないから
2. 災害時、実際に役立つかわからないから
3. どうやって固定していいかわからないから
4. 手間がかかるから
5. 費用がかかるから
6. 賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから
7. その他 (具体的に:)

問 20 あなたのご家庭では、災害の発生に備え 7 日分以上の水や食糧を備蓄していますか。

※ご家庭で、冷蔵・冷凍庫に保有している食品やレトルト食品、缶詰、ウォーターサーバーの飲料水など、日ごろ買い置きしている食品も含めてお答えください。

(1つだけ○を付けてください)

1. している
2. しているが 3 日分程度
3. していない

問 21 問 20 で「2. しているが 3 日分程度」「3. していない」とお答えされた方に伺います。7 日分以上の備蓄をしない理由は何ですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 必要とは思わないから
2. 災害時、実際に役立つかわからないから
3. 備蓄品を置く場所がないから
4. 水や食糧の賞味期限が切れ、捨てるのがもったいないから
5. 手間がかかるから
6. 費用がかかるから
7. その他 (具体的に:)

問 22 市が行っている防災対策のうち、あなたがお存じのものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 防潮堤を建設していること
2. 避難所に避難する人の1日分の食料備蓄を行っていること
3. 津波・水害のハザードマップの公開
4. 土砂災害危険箇所の周知
5. 住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること
6. 家具固定の普及啓発や高齢者世帯へ固定器具取付作業代の補助金を出していること
7. 携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること
8. 橋の耐震対策を行っていること
9. 市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること
10. その他 (具体的に: _____)
11. どれも知らない

問 23 あなたは、避難所と緊急避難場所の違いや意味を知っていましたか。

※避難所：自宅の倒壊などにより生活が困難となり、短期間避難生活する場所。

※緊急避難場所：災害が起きた場合に、命を守るためまず一時的に逃げる場所。

(1つだけ○を付けてください)

1. どちらも知っていた
2. 避難所のことを知っていた
3. 緊急避難場所のことを知っていた
4. どちらも知らない (はじめて聞いた)

～ 地域情報化について ～

問 24 あなたはご家庭で、次のような情報通信機器を利用していますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. デスクトップパソコン、ノートパソコン
2. タブレット端末
3. スマートフォン
4. 携帯電話、PHS
5. インターネットに接続できるゲーム機
6. その他 (具体的に: _____)
7. 持っていない

問 25 あなたが、過去1か月間にインターネットを利用した際の、利用目的は何ですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. メールの送受信
2. ニュースサイトやブログなどの閲覧
3. 商品・サービスの購入など
4. 地図・交通情報サービスの利用
5. 電子政府・電子自治体の利用
6. SNS (Facebook、Twitter、LINE など) の利用
7. 動画投稿サイトの利用
8. インターネットバンキングの利用
9. オンラインゲームの利用
10. その他 (具体的に: _____)
11. インターネットを利用していない

～ 人口減少社会に打ち勝つために ～

問 26 日本の総人口は平成20年をピークに減少に転じ、今後も減少し続けることが、全国的な課題となっています。浜松市でも同様の課題に直面していることを、あなたはご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 知っており、急いで対応すべき重要な問題だと考えている
2. 知っているが、大きな問題だとは考えていない
3. 知らない

問 27 人口が減少することについて不安に思うことは何ですか？

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 地元産業の衰退
2. 就労の機会や選択肢の減少
3. 子育て・教育環境の悪化
4. 防災
5. まちのにぎわい喪失
6. 地域コミュニティの衰退
7. 不安に思うことはない
8. その他

(具体的に：

)

問 28 人口減少社会への対応として、浜松市が特に力を入れるべきだと思うことは何ですか？

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 地元産業の活性化
2. 誰もが働きやすい環境づくり
3. 子育て支援・教育の充実
4. 安全・安心なまちづくり
5. にぎわいの創出
6. 地域コミュニティの形成
7. コンパクトで拠点ネットワーク型のまちづくり
8. その他

(具体的に：

)

◆市の取り組みの満足度評価について

問 30 あなたは、浜松市の取り組みについて日ごろどのように感じていますか。

各項目について「満足」から「不満」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

項 目		評 価				
		満 足	←————→			不 満
若者がチャレンジできるまち	魅力ある雇用機会の確保	5	4	3	2	1
	若者が起業や創業しやすいまちづくり	5	4	3	2	1
	森林管理や木材利用の拡大など、林業・木材産業の振興に向けた取り組み	5	4	3	2	1
子育て世代を全力で応援するまち	結婚の希望がかなうよう出会いの場の創出	5	4	3	2	1
	妊娠から産後までの心身のサポート	5	4	3	2	1
	子育て中の親子への子育て支援	5	4	3	2	1
	保育所や放課後児童会などの整備	5	4	3	2	1
	協働センター、図書館などの生涯学習環境	5	4	3	2	1
持続可能で創造性あふれるまち	文化にふれ、活動できる環境	5	4	3	2	1
	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	5	4	3	2	1
	J R浜松駅周辺の魅力とにぎわい	5	4	3	2	1
	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	5	4	3	2	1
	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	5	4	3	2	1
	身近な生活道路の管理状況	5	4	3	2	1
	快適に移動しやすい道路網の整備	5	4	3	2	1
	世界の人々との活発な市民交流	5	4	3	2	1
	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	5	4	3	2	1
	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	5	4	3	2	1
	ユニバーサルデザイン※によるまちづくり ※高齢者、障がい者、外国人など、より多くの人の安心・安全・快適な暮らしを推進する取り組み	5	4	3	2	1
	人権を尊重したまちづくり（人権啓発の取り組み）	5	4	3	2	1
休日、夜間などの救急医療体制	5	4	3	2	1	

最後にあなたのことについて記入してください

(項目別に1つだけ○を付けてください)

性別	1. 男	2. 女	
年齢	1. 10歳代 4. 40歳代 7. 65～69歳	2. 20歳代 5. 50歳代 8. 70～74歳	3. 30歳代 6. 60～64歳 9. 75歳以上
国籍	1. 日本 4. フィリピン	2. ブラジル 5. その他 ()	3. 中国
職業	1. 勤め人 4. 専業主婦(主夫) 6. 無職	2. 商工・サービス・自由業(自営・家族従事者) 5. 学生 7. その他 ()	3. 農林水産業(自営・家族従事者)
居住年数	あなたは浜松市(合併前の旧市町村当時からも含みます)に住んで何年になりますか 1. 3年未満 4. 10年以上20年未満		
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか 1. 1人 4. 4人		
居住形態	あなたのお住まいは 1. 持ち家 4. 公営住宅		
行政区	あなたがお住まいの行政区は 1. 中区 4. 南区 7. 天竜区		
	行政区が分からない場合は、町名をご記入ください → ()		

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、6月30日(金)までにご投函ください。



平成 29 年度 市民アンケート調査報告書

平成 29 年 10 月発行

浜松市企画調整部広聴広報課

〒430-8652 浜松市中区元城町 103 番地の 2

電 話 (053) 457-2023 FAX (053) 457-2028

e-mail koe-g@city.hamamatsu.shizuoka.jp

URL <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>
